

**医療と健康保険に関する意識等調査  
報告書**

**平成 27 年 10 月**

**全国健康保険協会**





# 医療と健康保険に関する意識等調査

## =目次=

1	調査概要	1
1. 1	調査の目的	1
1. 2	調査設計	1
1. 3	調査手法	1
1. 4	調査実施時期	1
1. 5	調査内容	1
1. 6	回答者基本属性	2
1. 7	この1年の協会けんぽとの接点	3
1. 8	協会けんぽ ホームページ閲覧状況	4
2	調査結果のまとめ	5
3	調査結果詳細	10
3. 1	医療機関受診状況	10
3. 1. 1	最近1年間の受診状況（問6）	10
3. 1. 2	1か月あたりの自己負担額（問7）	11
3. 1. 3	本人または家族の治療状況（問8）	13
3. 1. 4	直近に外来受診した医療機関（問9）	15
3. 2	医療機関に対する重視度と満足度	16
3. 2. 1	医療機関選択時に重視する点（問10-1）	16
3. 2. 2	直近受診医療機関に対する満足度（問10-2）	19
3. 2. 3	直近受診医療機関に対する総合満足度（問11）	21
3. 3	健康管理と受診意向	23
3. 3. 1	健康維持・生活習慣病予防のための取組み（問21）	23
3. 3. 2	かかりつけ医の有無（問14）	26
3. 3. 3	早期受診意向の有無（問12）	29
3. 3. 4	初診時の受診意向（問13）	30
3. 3. 5	夜間救急時の受診意向（問15）	31
3. 4	薬局利用状況	33
3. 4. 1	薬局の利用状況（問16）	33
3. 4. 2	利用する薬局を決めている理由（問16付問1）	35
3. 4. 3	お薬手帳の利用状況（問17）	37
3. 4. 4	調剤時の説明・確認に対する評価（問18）	39
3. 4. 5	残薬の有無（問19）	40
3. 4. 6	残薬が生じた理由（問19付問1）	44
3. 4. 7	残薬の対処（問19付問2）	46
3. 4. 8	市販薬の購入状況（問20）	49
3. 5	医療制度に関する意識	50
3. 5. 1	医療全般に対する満足度（問22）	50
3. 5. 2	医療全般に対する不安（問23）	52
3. 5. 3	健康や医療についてほしい情報（問24）	55
3. 5. 4	期待する医療政策（問31）	56

3. 6 医療制度の認知と状況 .....	58
3. 6. 1 ジェネリック医薬品の認知・使用状況（問25） .....	58
3. 6. 2 ジェネリック医薬品の未使用理由（付問1） .....	60
3. 6. 3 高額療養費制度および限度額適用認定証の認知・利用状況（問26） .....	61
3. 7 医療費負担 .....	65
3. 7. 1 医療費適正化に対する考え（問27） .....	65
3. 7. 2 適切な医療費のまかない方（問28） .....	67
3. 7. 3 医療サービス水準と負担増（問29） .....	69
3. 7. 4 医療サービスの見直し（問29付問1） .....	71
3. 7. 5 医療費と協会けんぽの保険料率の関係（問30） .....	72
資料編《調査票》 .....	74

# 1 調査概要

## 1. 1 調査の目的

協会けんぽ加入者の医療や健康保険に対する意識・意見、要望等を把握し、協会の事業やサービスの向上、保険者機能の発揮のための企画立案に資する基礎資料とする。

## 1. 2 調査設計

調査対象者 : 委託先である株式会社インテージリサーチの「インテージ・ネットモニター」のうち協会けんぽ加入者（事前調査により把握）

対象者条件 : 20歳から74歳男女。年代、性別、地域、被保険者・被扶養者の分布に偏りがないよう、加入者の構成比に準じてサンプル設計。

対象者数 : 有効回収数 2,310 サンプル  
調査依頼数 3,443 サンプル（有効回収率 67.1%）

## 1. 3 調査手法

インターネット調査

## 1. 4 調査実施時期

平成27年7月31日～8月4日（事前調査実施7月24日～28日）

## 1. 5 調査内容

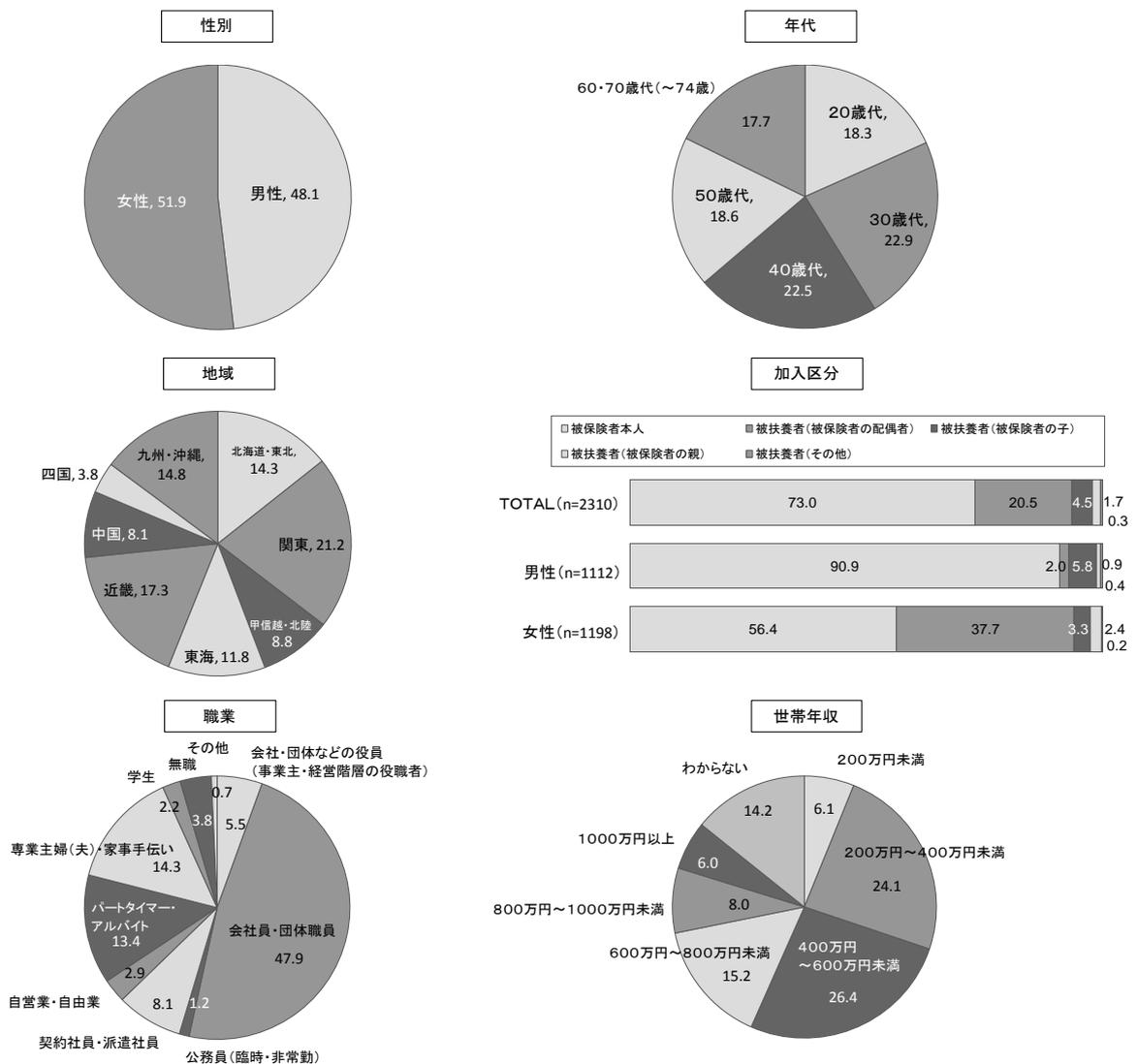
- ◇ 医療機関の受診状況
- ◇ 医療機関に対する重視度と満足度
- ◇ 受診意向と健康管理意識
- ◇ 薬局の利用状況と残薬の有無
- ◇ 医療制度に関する意識や利用状況
- ◇ 医療費負担に対する考え方

※本調査において、複数回答のデータにはその旨記載している。

特に記載のないデータは単数回答である。

## 1. 6 回答者基本属性

- 性別：「男性」48.1%、「女性」51.9%
- 年代：「20歳代」18.3%、「30歳代」22.9%、「40歳代」22.5%、「50歳代」18.6%、「60歳代」15.2%、「70～74歳」2.5%
- 地域：「北海道・東北」14.3%、「関東」21.2%、「甲信越・北陸」8.8%、「東海」11.8%、「近畿」17.3%、「中国」8.1%、「四国」3.8%、「九州・沖縄」14.8%
- 加入区分：「被保険者本人」が7割（73.0%）、「被扶養者（配偶者）」が2割（20.5%）
- 職業：「会社員・団体職員」が半数（47.9%）、「専業主婦（夫）・家事手伝い」（14.3%）と「パートタイマー・アルバイト」（13.4%）がそれぞれ1割強。
- 世帯年収：「400万円～600万円未満」（26.4%）が最も多く、「200万円～400万円未満」（24.1%）がそれに続き、年収600万円未満が全体の半数以上（56.6%）を占める。



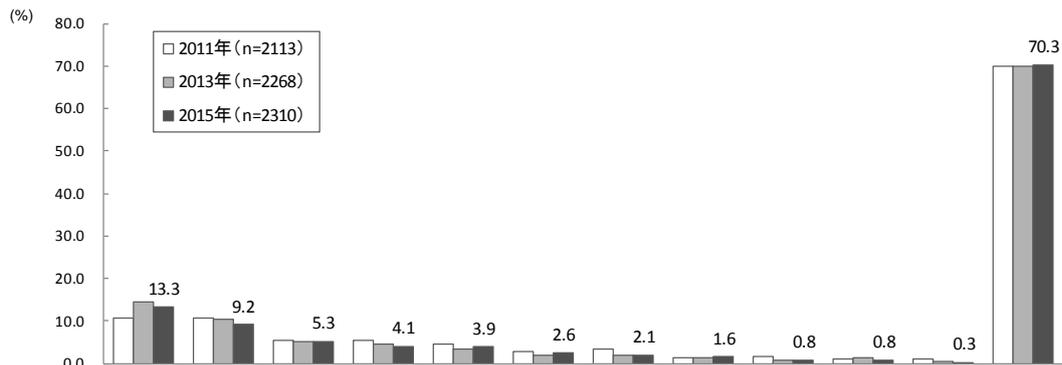
※上記グラフはすべて n=2,310、単位は%。

### 1. 7 この1年の協会けんぼとの接点

この1年の協会けんぼとの接点は、「協会けんぼの健診を受診した」(13.3%)、「協会けんぼのホームページを見た」(9.2%)等である。7割(70.3%)は、この1年に協会けんぼと「接点を持ったことはない」と回答している。

性・年代別に見ると、「協会けんぼの健診を受診した」割合は男性50歳代以上、女性40歳代以上で高い。また、女性20・30歳代では「出産育児一時金の給付を受けた」割合が高い。

スクリーニング 問8 この1年の協会けんぼとの接点（複数回答）



n=	2113	2268	2310	1112	202	263	250	197	200	1198	220	267	269	233	209
2011年	2113	10.7	10.8	5.4	5.5	4.7	2.9	3.3	1.3	1.6	1.2	1.0	1.0	70.0	
2013年	2268	14.6	10.4	5.3	4.7	3.5	2.0	2.1	1.3	0.8	1.3	0.4	0.3	70.1	
2015年	2310	13.3	9.2	5.3	4.1	3.9	2.6	2.1	1.6	0.8	0.8	0.3	0.3	70.3	
■男性計	1112	11.6	8.7	4.9	4.8	3.3	1.0	2.8	1.8	0.9	1.3	0.1	0.1	73.0	
男性20歳代	202	4.0	8.4	4.0	5.0	1.0	1.5	2.0	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	82.7	
男性30歳代	263	5.3	9.1	3.4	3.4	3.4	2.3	1.5	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	77.6	
男性40歳代	250	12.0	6.8	4.4	2.4	1.2	0.0	0.4	0.8	0.8	2.0	0.0	0.0	78.4	
男性50歳代	197	19.8	8.6	5.6	7.1	5.1	1.0	1.5	1.0	1.0	3.0	0.0	0.0	68.0	
男性60・70歳代	200	19.0	11.0	8.0	7.0	6.5	0.0	9.5	2.5	0.5	1.0	0.0	0.0	55.5	
■女性計	1198	14.9	9.7	5.6	3.5	4.4	4.1	1.4	1.5	0.8	0.4	0.6	0.6	67.7	
女性20歳代	220	9.1	9.5	4.1	2.3	5.9	10.0	1.8	2.7	1.4	0.0	0.9	0.9	69.1	
女性30歳代	267	8.2	10.5	4.9	5.2	4.5	8.6	0.7	1.5	0.7	0.0	0.0	0.0	70.0	
女性40歳代	269	17.5	13.4	4.1	3.0	2.6	1.5	1.5	1.5	0.4	1.1	0.7	0.7	68.4	
女性50歳代	233	21.5	7.7	7.3	2.1	3.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	0.9	0.9	66.5	
女性60・70歳代	209	19.1	6.2	8.1	4.8	6.7	0.0	3.3	1.0	0.5	1.0	0.5	0.5	63.6	

### 1. 8 協会けんぽ ホームページ閲覧状況

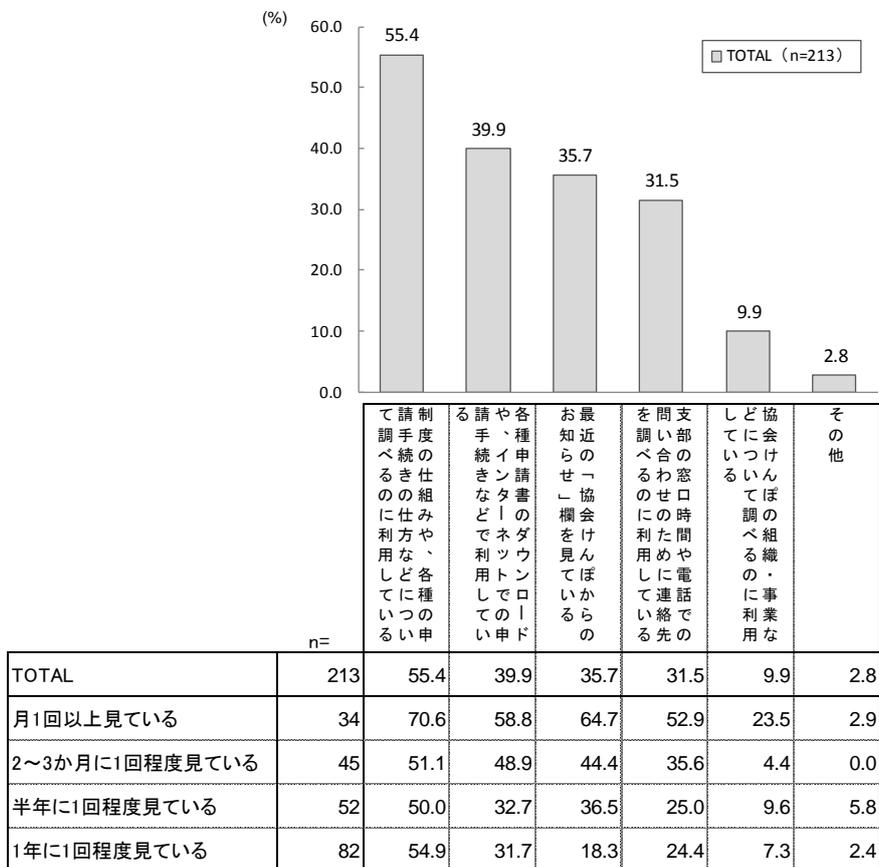
この1年に協会けんぽのホームページを見たことがある人の閲覧頻度は、「月1回以上」が16.0%、「2～3か月に1回程度」が21.1%、「半年に1回程度」が24.4%、「1年に1回程度」が38.5%である。

スクリーニング問9 ホームページの閲覧頻度【ベース：ホームページ閲覧者】



ホームページの利用目的を閲覧頻度別に見ると、ホームページを『月1回以上見ている』人は、いずれの目的の利用も他の層より高い割合である。

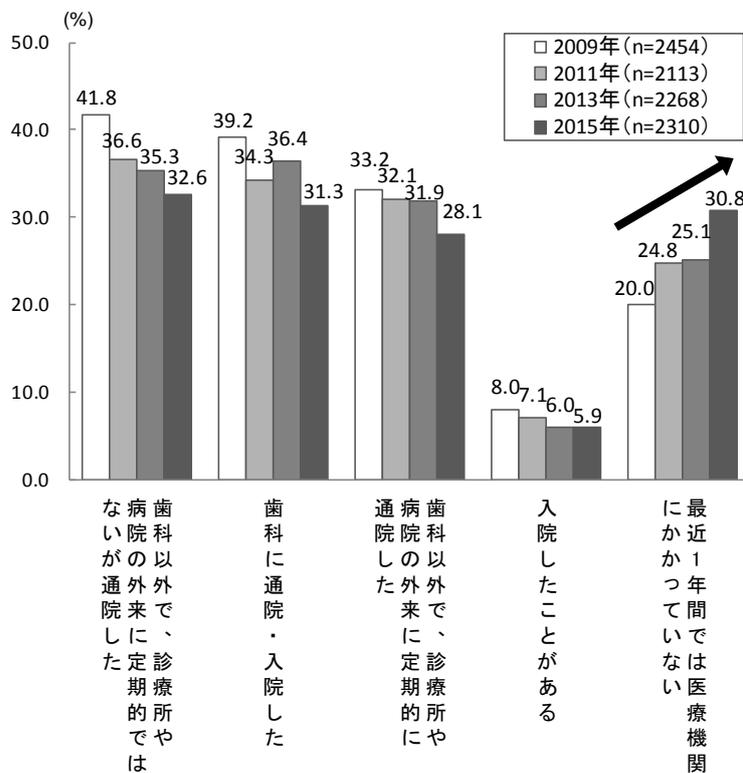
スクリーニング問10 ホームページの利用目的【ベース：ホームページ閲覧者】



## 2 調査結果のまとめ

### ■最近1年間の受診状況（詳細 p. 10 参照）

最近1年間で、定期的に外来受診しているのは3割弱（28.1%）、不定期に外来受診をしたことがあるのは3割（32.6%）である。医療機関未利用者は3割（30.8%）であり、2009年以降、その割合は上昇傾向にある。



### ■医療全般に対する総合満足度（詳細 p. 50 参照）

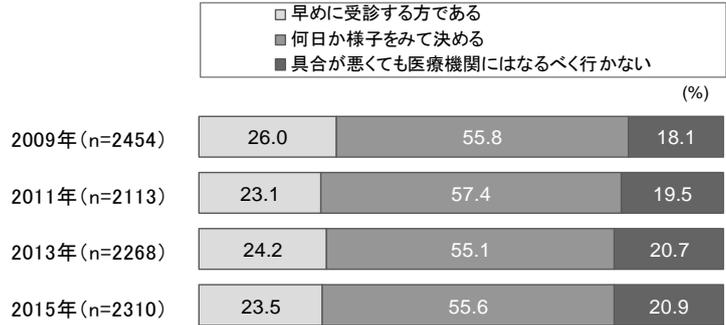
日本の医療全般に対しては、4割（43.7%）が満足（「満足」＋「まあ満足」）している。

2009年以降、満足度は徐々に高くなっており、2015年の満足度は2009年と比較して11.5ポイント上昇している。



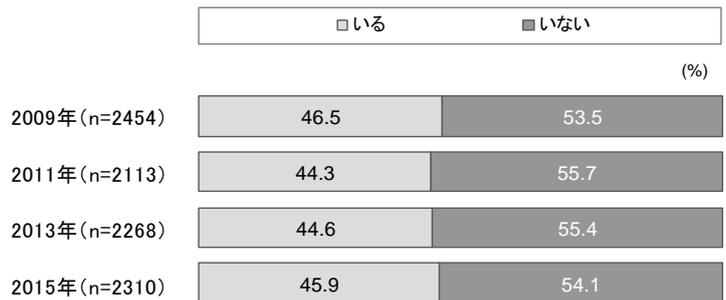
■受診意向とかかりつけ医の有無（詳細 p. 26、29 参照）

具合が悪い時に「早めに受診する方である」のは2割（23.5%）、「何日か様子を見て決める」のは5割強（55.6%）であり、残りの2割（20.9%）は「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」と回答している。



4割強（45.9%）はかかりつけ医を持っている。

なお、受診意向、かかりつけ医の有無ともに、2009年以降、ほぼ同程度の割合で推移している。



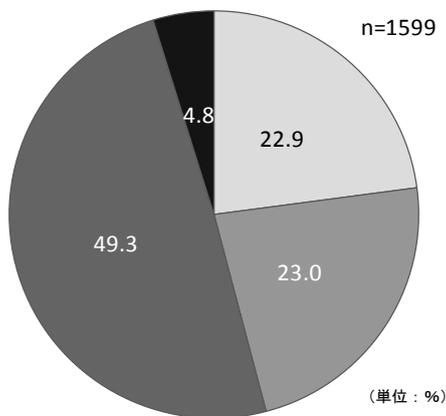
■薬局とお薬手帳の利用状況（ベース：最近1年間での医療機関利用者／詳細 p. 33、37 参照）

利用する薬局を決めているのは4割強（45.9%）で、半数近くは利用する薬局を決めていない。

紙のお薬手帳は7割（71.9%）が保持している。4割（43.2%）は処方時に薬剤師に見せて確認・活用しているが、シールだけでの利用も3割弱（28.7%）となっている。

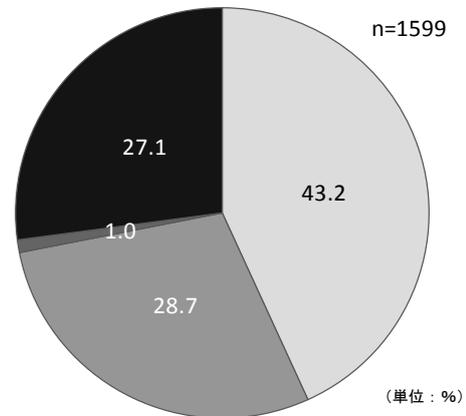
< 薬局利用状況 >

- どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している
- 決めているが、いくつかの薬局を使い分けている
- 特に決めていない
- 院内処方のため外部の薬局は利用していない・処方せんは受け取っていない



< お薬手帳利用状況 >

- 紙のお薬手帳を持ち歩き、薬剤師に見せている
- 紙のお薬手帳があるが持ち歩いてはならず、シールだけもらっている
- スマートフォン、タブレット等の電子版のお薬手帳を利用している
- 利用していない・持っていない



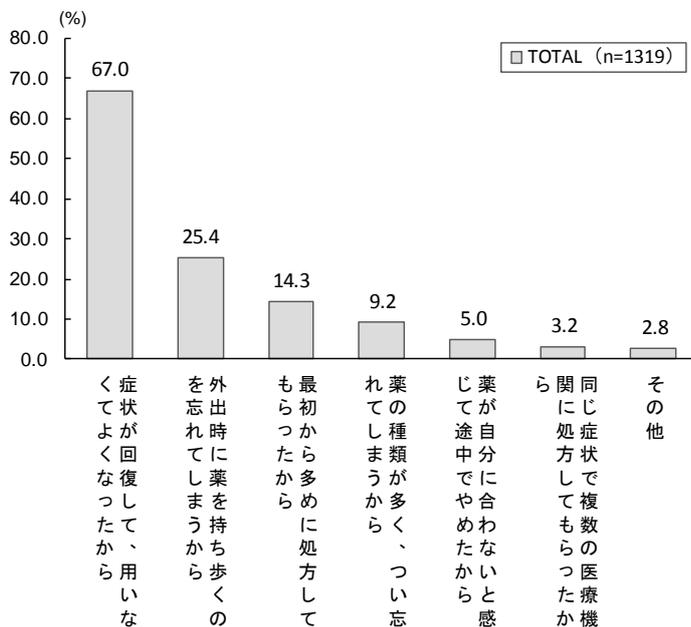
■残薬の有無（ベース：最近1年間での医療機関利用者／詳細 p. 40、42、44、46 参照）

内服薬を飲み残すことがあるのは7割弱（68.7%）、外用薬を使い残すことがあるのは7割強（74.6%）である。

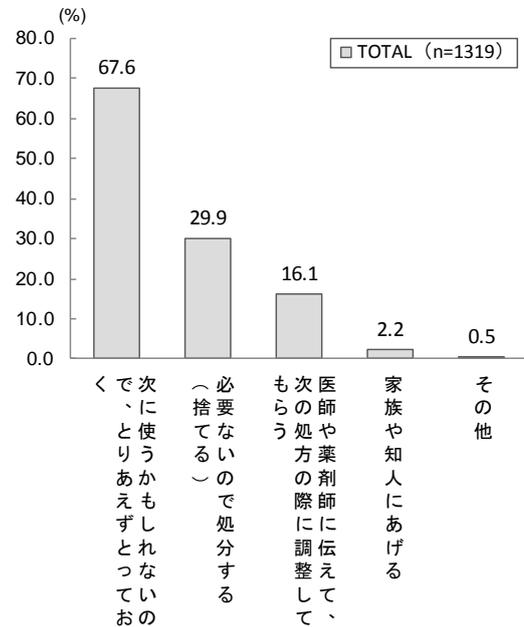


薬を飲み残す・使い残す主な理由は「症状が回復して、用いなくてよくなったから」（67.0%）、「外出時に薬を持ち歩くのを忘れてしまうから」（25.4%）等であり、残った薬は「次に使うかもしれないので、とりあえずとっておく」（67.6%）人が多い。

＜残薬が生じた理由＞  
【ベース：残薬が発生することがある人】



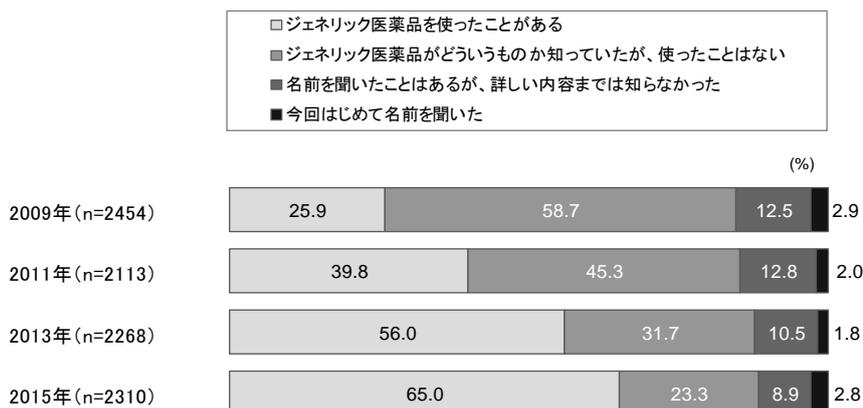
＜残薬の対処＞  
【ベース：残薬が発生することがある人】



■ジェネリック医薬品の認知・使用経験（詳細 p. 58 参照）

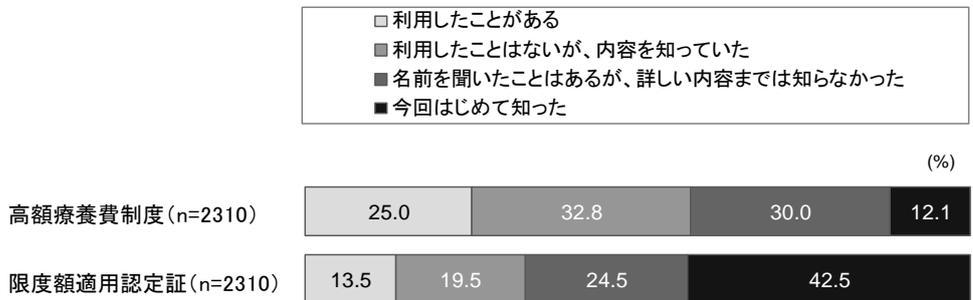
ジェネリック医薬品の使用経験があるのは6割強（65.0%）であり、「どういうものか知っていたが、使ったことはない」と合わせると9割弱（88.3%）が内容まで認知している。

2009年以降、使用経験者の割合は増加している。



■高額療養費制度および限度額適用認定証の認知・利用状況（詳細 p. 61、63 参照）

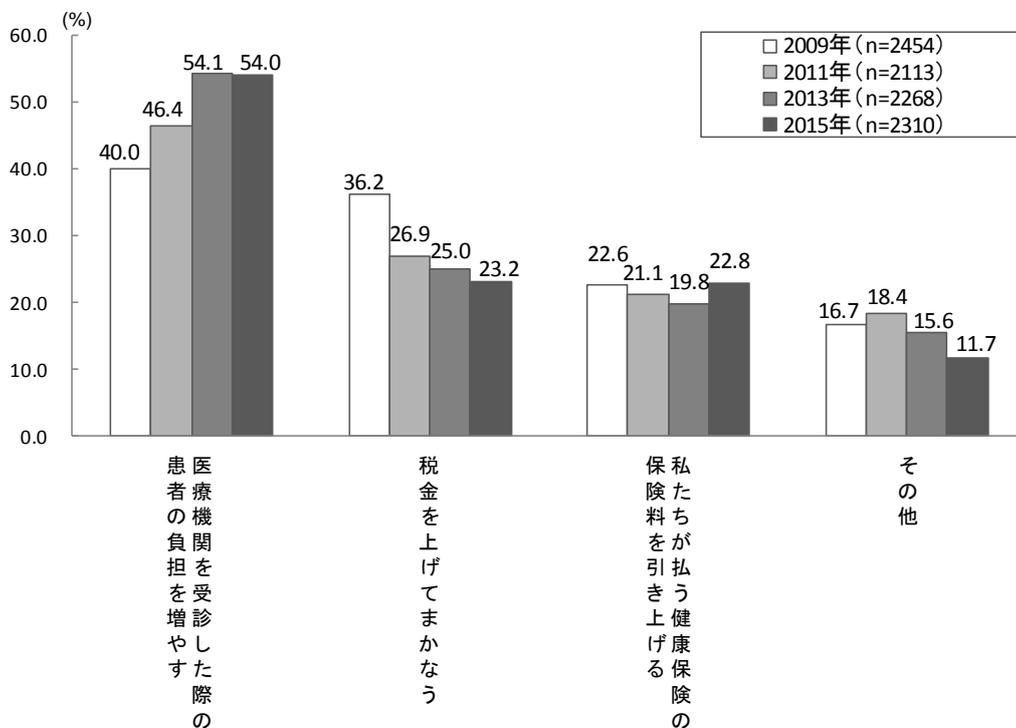
高額療養費制度は2割強（25.0%）、限度額適用認定証は1割（13.5%）に利用経験がある。「利用したことはないが、内容を知っていた」と合わせると、高額療養費の認知率は6割弱（57.8%）、限度額適用認定証の認知率は3割（33.0%）である。



■医療費のまかない方（詳細 p. 67 参照）

5割強（54.0%）が「医療機関を受診した際の患者の負担を増やす」と回答しており、以下、「税金を上げてまかなう」（23.2%）、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」（22.8%）がそれぞれ2割となっている。

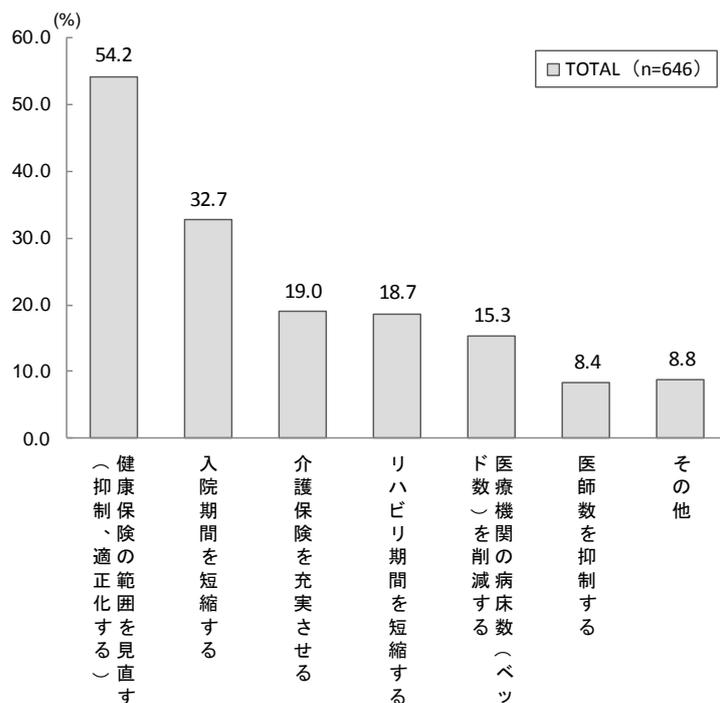
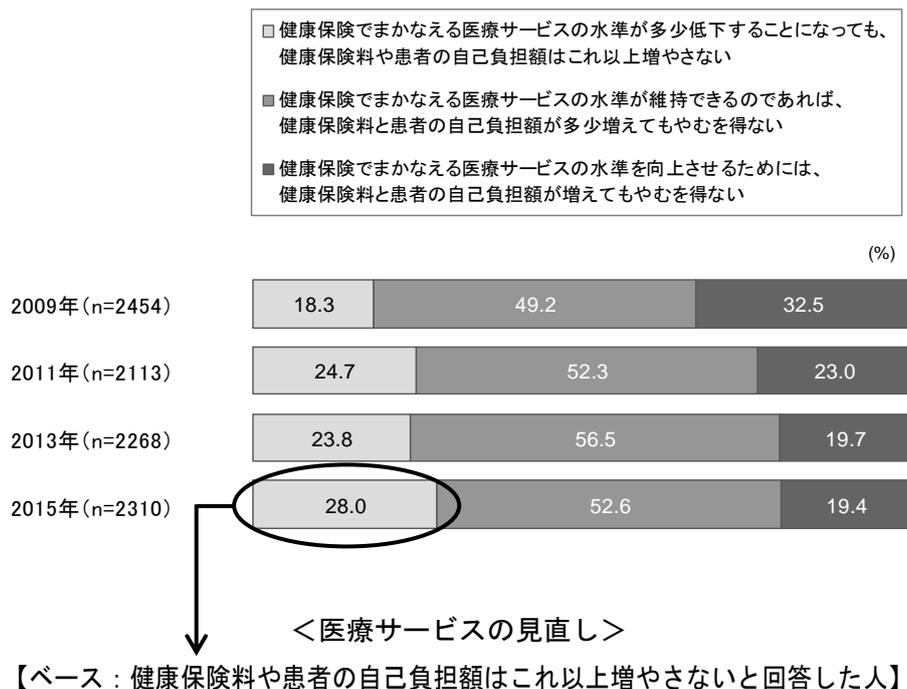
2013年と比較すると「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」の割合が上昇している。



■医療費サービスの水準と費用負担についての考え（詳細 p. 69、71 参照）

2009年以降の推移をみると、「健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない」の割合は上昇傾向、「健康保険でまかなえる医療サービスの水準を向上させるためには、健康保険料と患者の自己負担額が増えてもやむを得ない」の割合は低下傾向にある。

『健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない』と回答した人は、「健康保険の範囲を見直す（抑制、適正化する）」（54.2%）、「入院期間を短縮する」（32.7%）といった医療サービスの見直しが必要との意見が多い。



### 3 調査結果詳細

#### 3. 1 医療機関受診状況

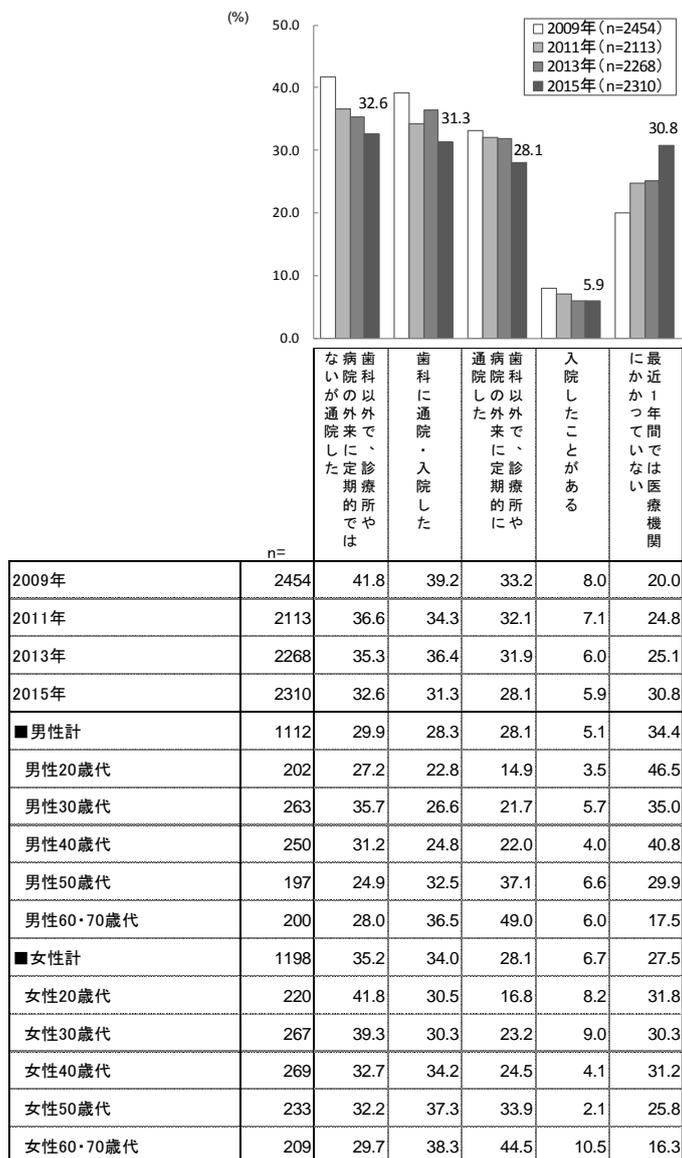
##### 3. 1. 1 最近1年間の受診状況（問6）

問6 最近1年間で、あなたは病気やけがの治療のために医療機関にかかったことがありますか。  
（回答は該当するものすべて）

「歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した」（32.6%）、「歯科に通院・入院した」（31.3%）、「歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した」（28.1%）がそれぞれ3割前後となっている。「入院したことがある」のは全体の5.9%である。一方、「最近1年間では医療機関にかかっていない」のは3割（30.8%）であり、2009年以降、医療機関を受診しない割合は上昇傾向にある。

性・年代別に見ると、女性よりも男性の方が医療機関を受診しない割合が高く、20歳代、40歳代では4割を超える。また、男女ともに50歳代以上では定期的な通院の割合が高い。

問6 最近1年間の受診状況（複数回答）



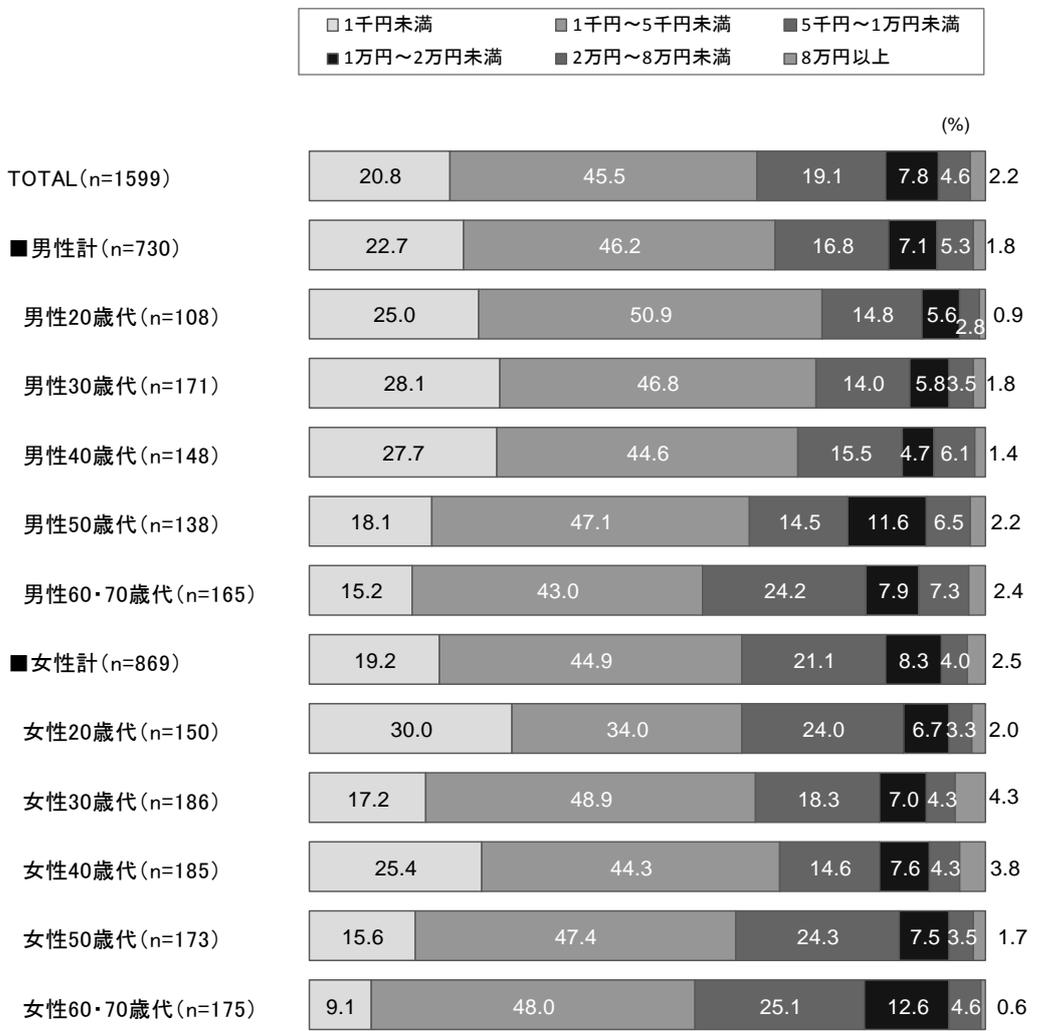
### 3. 1. 2 1か月あたりの自己負担額（問7）

問7 今年7月の1か月に、あなた自身の受診のために医療機関の窓口で支払った金額は合計でいくら位でしたか。7月の支払いがなかった方は、ここ1年の間で支払いがあった月の平均概算額をお答えください。（回答は1つ） 【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

窓口で支払う金額は、「1千円～5千円未満」が45.5%と半数近くを占めている。次いで「1千円未満」（20.8%）、「5千円～1万円未満」（19.1%）がそれぞれ2割であり、全体の8割強（85.4%）は1万円未満の支払いとなっている。

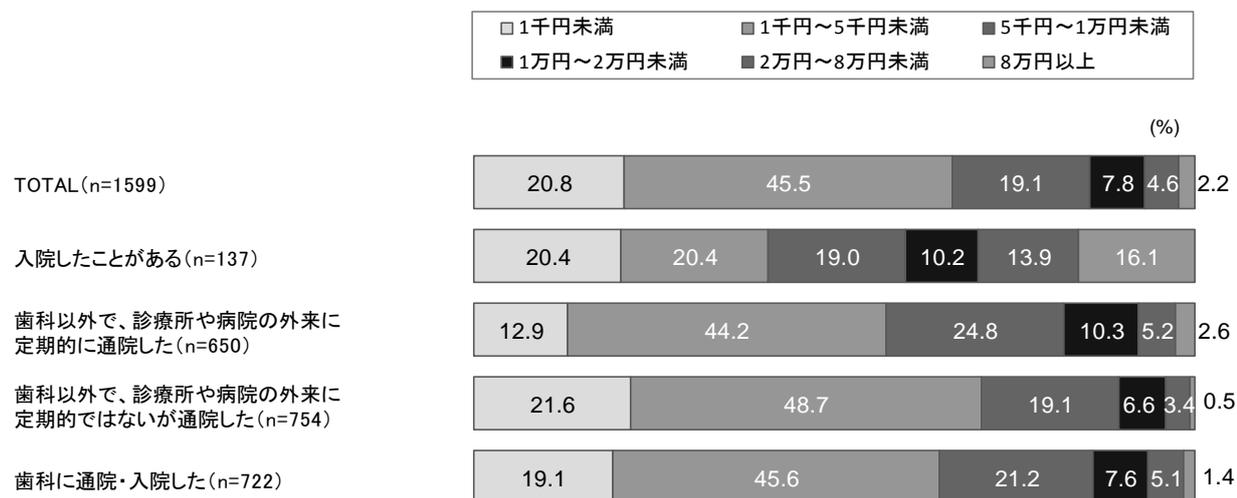
性・年代別に見ると、女性は「5千円～1万円未満」の割合が男性よりも高い。特に60・70歳代女性では「1千円未満」（9.1%）が低く、「5千円～1万円未満」（25.1%）、「1万円～2万円未満」（12.6%）の割合が高いという結果であり、他の層と比較して医療費が高額である。

問7 1か月あたりの自己負担額【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『入院したことがある』人では自己負担額2万円以上の割合が他の層より高く、3割（30.0%）を占める。また、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は5千円～2万円未満が3割強（35.1%）、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』人は「1千円～5千円未満」が半数近く（48.7%）と、他の層よりも高い割合となっている。

問7 1か月あたりの自己負担額【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



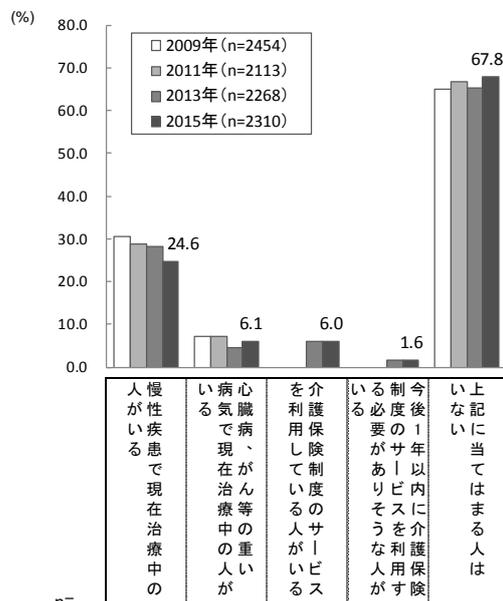
### 3. 1. 3 本人または家族の治療状況（問8）

問8 あなた自身またはご家族の中に、以下のような状態に当てはまる方はいらっしゃいますか。当てはまるものを選んでください。（回答は該当するものすべて）

本人または家族の治療状況は、「慢性疾患で現在治療中の人がある」が24.6%、「心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある」が6.1%、「介護保険制度のサービスを利用している人がある」が6.0%となっている。7割（67.8%）は、現在治療中等の人はいないと回答している。「慢性疾患で現在治療中の人がある」割合は、2009年以降、低下傾向にある。

性・年代別に見ると、男女ともに50歳代以上で「慢性疾患で現在治療中の人がある」割合が高くなっている。また、女性60・70歳代では、「介護保険制度のサービスを利用している人がある」との回答割合も高い。

問8 本人または家族の治療状況（複数回答）

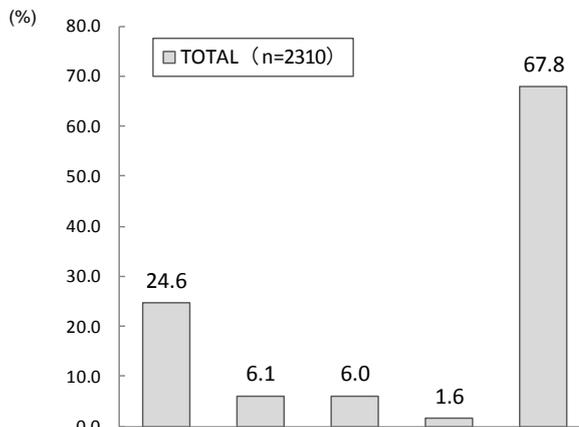


	n=	慢性疾患で現在治療中の人がある	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある	介護保険制度のサービスを利用している人がある	慢性疾患で現在治療中の人はいない	上記に当てはまる人はいない
2009年	2454	30.6	7.1	0.0	65.0	
2011年	2113	28.9	7.2	0.0	66.7	
2013年	2268	28.1	4.7	6.0	65.4	1.8
2015年	2310	24.6	6.1	6.0	67.8	1.6
■男性計	1112	24.3	5.6	6.1	67.7	1.4
男性20歳代	202	14.9	7.4	7.9	75.2	3.0
男性30歳代	263	14.1	6.1	6.5	75.3	1.5
男性40歳代	250	18.8	3.6	3.6	75.6	1.2
男性50歳代	197	34.0	4.1	6.6	59.4	1.0
男性60・70歳代	200	44.5	7.0	6.5	48.5	0.5
■女性計	1198	24.9	6.5	5.8	67.9	1.7
女性20歳代	220	19.5	5.0	5.5	74.1	1.4
女性30歳代	267	17.2	4.9	3.0	75.7	2.6
女性40歳代	269	17.8	5.9	1.1	77.0	0.4
女性50歳代	233	31.8	6.9	9.9	60.1	1.3
女性60・70歳代	209	41.6	10.5	11.5	48.3	2.9

※介護保険サービスに関する選択肢は2013年から設定。

最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『入院したことがある』人は「心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる」、「今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がありそうな人がある」割合が高い。また、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は「慢性疾患で現在治療中の人がいる」、「心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる」割合が高い。

問8 本人または家族の治療状況（複数回答）



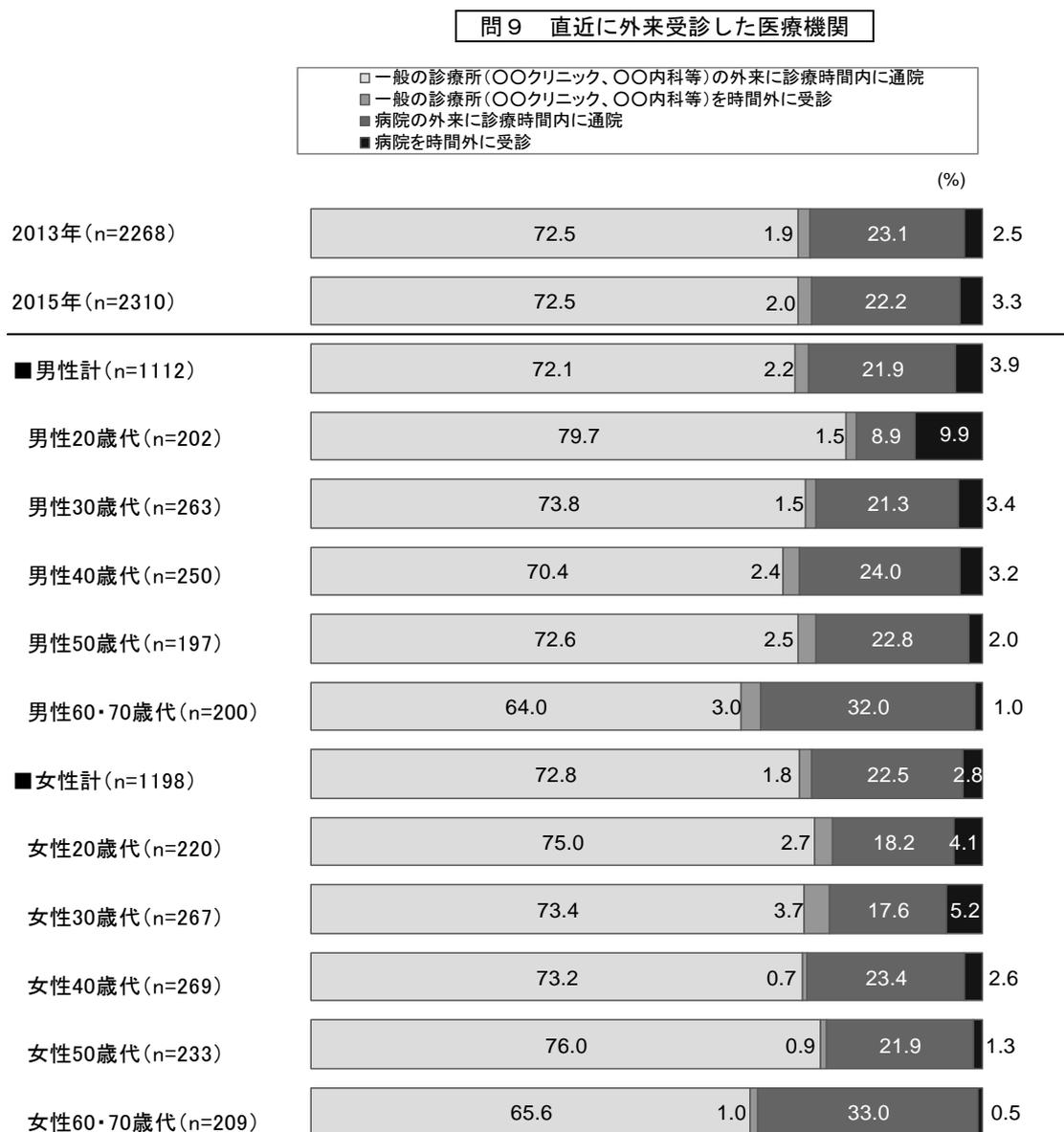
	n=	人慢性疾患で現在治療中の人がいる	心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる	介護保険制度のサービスを利用している人がある	今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がある人がある	上記に当てはまる人はいない
TOTAL	2310	24.6	6.1	6.0	1.6	67.8
入院したことがある	137	29.9	16.1	8.8	4.4	54.0
歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した	650	47.7	10.5	6.5	2.0	44.8
歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した	754	26.5	6.9	7.0	1.2	66.3
歯科に通院・入院した	722	28.1	7.2	7.8	2.2	62.6
最近1年間では医療機関にかかっていない	711	9.6	2.8	3.9	0.6	85.4

### 3. 1. 4 直近に外来受診した医療機関（問9）

問9 あなたが一番最近、外来（通院）受診した医療機関は次のどれですか。ここ1年間は医療機関にかかっていない方も、一番最近受診した医療機関についてお答えください。（回答は1つ）

直近に外来（通院）受診した医療機関としては、72.5%が「一般の診療所の外来に診療時間内に通院」と回答している。時間外を合わせると、7割強（74.5%）が診療所を、2割強（25.5%）が病院を受診している。

性・年代別に見ると、男女ともに60・70歳代では病院を受診する割合が高く、「病院の外来に診療時間内に通院」がそれぞれ3割を占める。



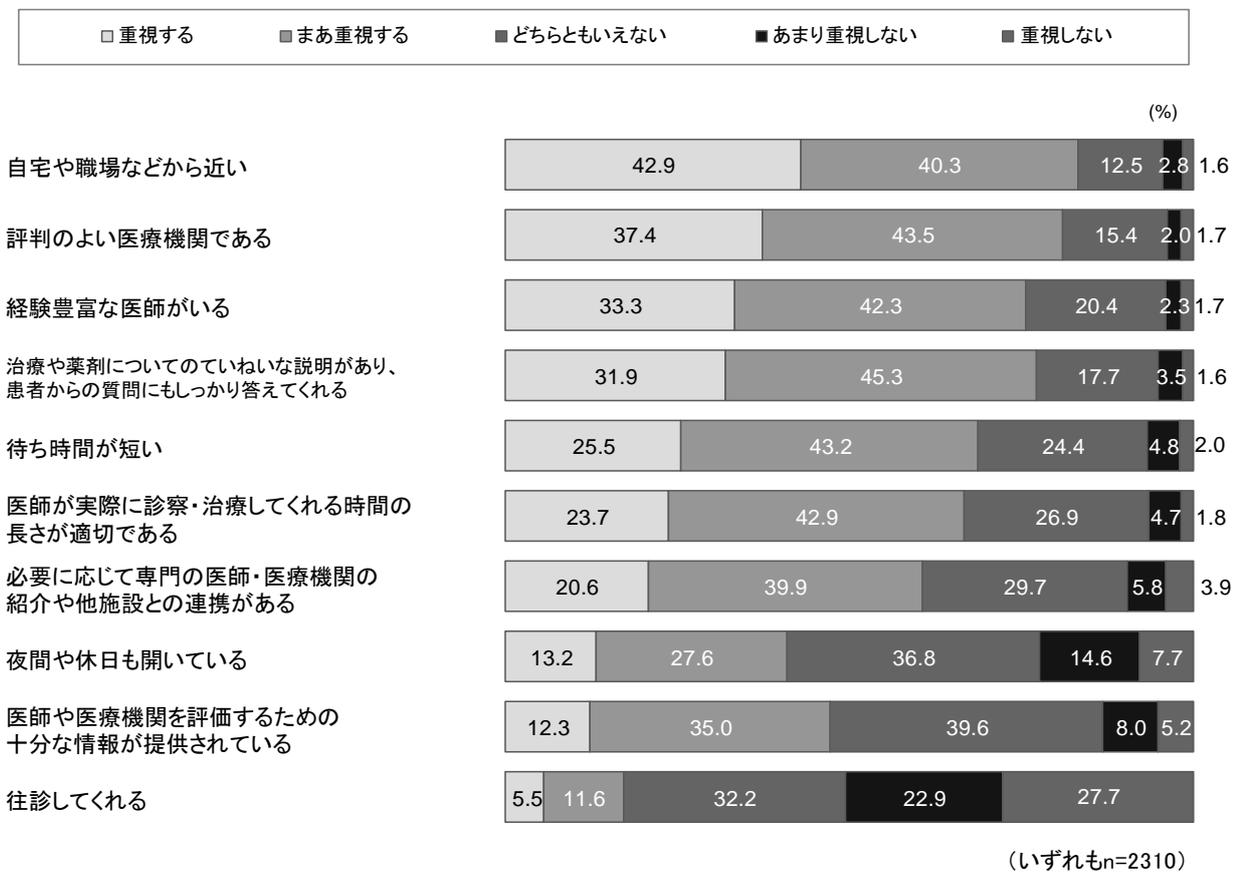
### 3. 2 医療機関に対する重視度と満足度

#### 3. 2. 1 医療機関選択時に重視する点（問10-1）

問10 あなたは外来（通院）の医療機関を選ぶ際、どのようなことを重視していますか。次の項目ごとに重視度をお答えください。（回答は1つ）

外来（通院）の医療機関を選ぶ際に重視する項目は、「自宅や職場などから近い」が4割（42.9%）で最も「重視する」割合が高く、次いで「評判のよい医療機関である」（37.4%）、「経験豊富な医師がいる」（33.3%）、「治療や薬剤についてのていねいな説明があり、患者からの質問にもしっかり答えてくれる」（31.9%）となっている。

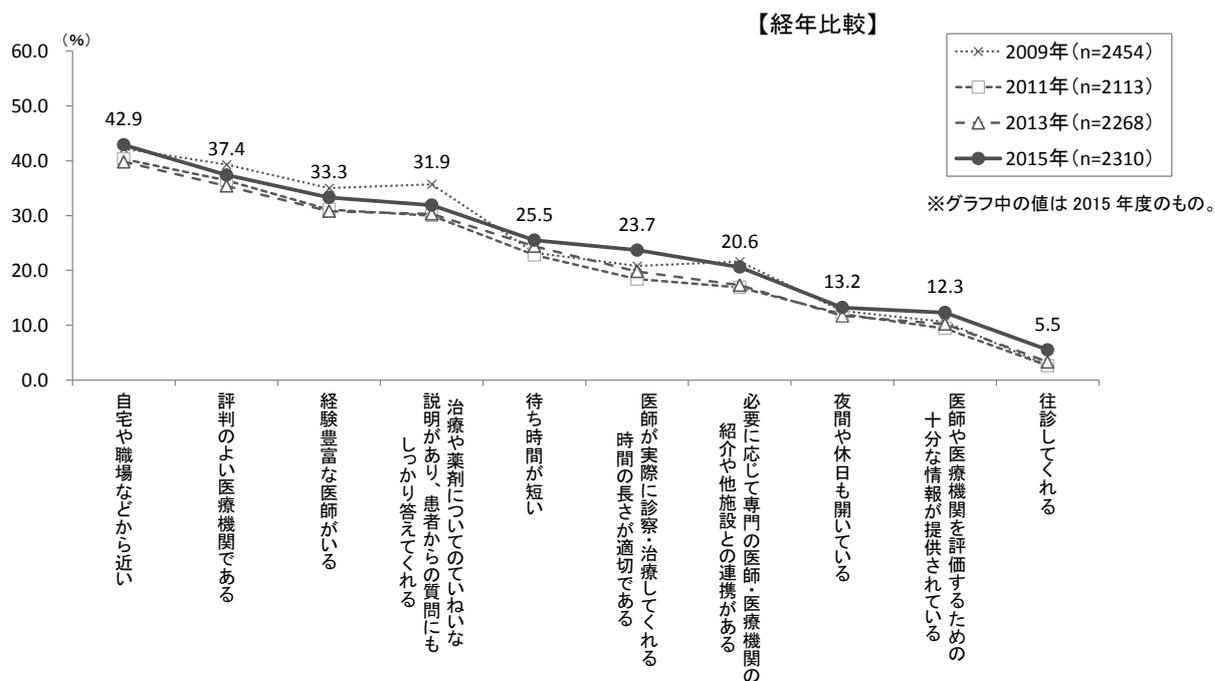
問10-1 医療機関選択時に重視する点



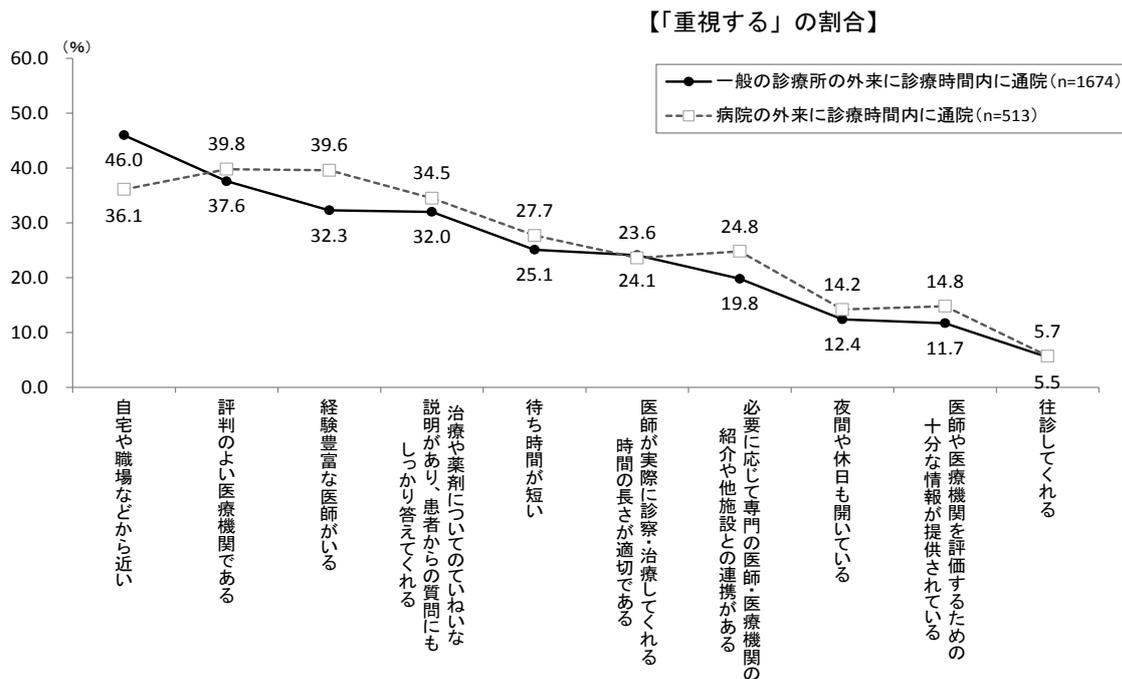
2009～2015年までの推移は以下の通りである。傾向に変化は見られない。

直近に外来受診した医療機関別（p.15：問9参照）を見ると、『一般の診療所の外来に診療時間内に通院』している人は「自宅や職場などから近い」（46.0%）ことを最も重視している。一方、『病院の外来に診療時間内に通院』している人では「評判のよい医療機関である」（39.8%）、「経験豊富な医師がいる」（39.6%）、「必要に応じて専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある」（24.8%）ことを重視する傾向が見られる。

問10-1 医療機関選択時に重視する点



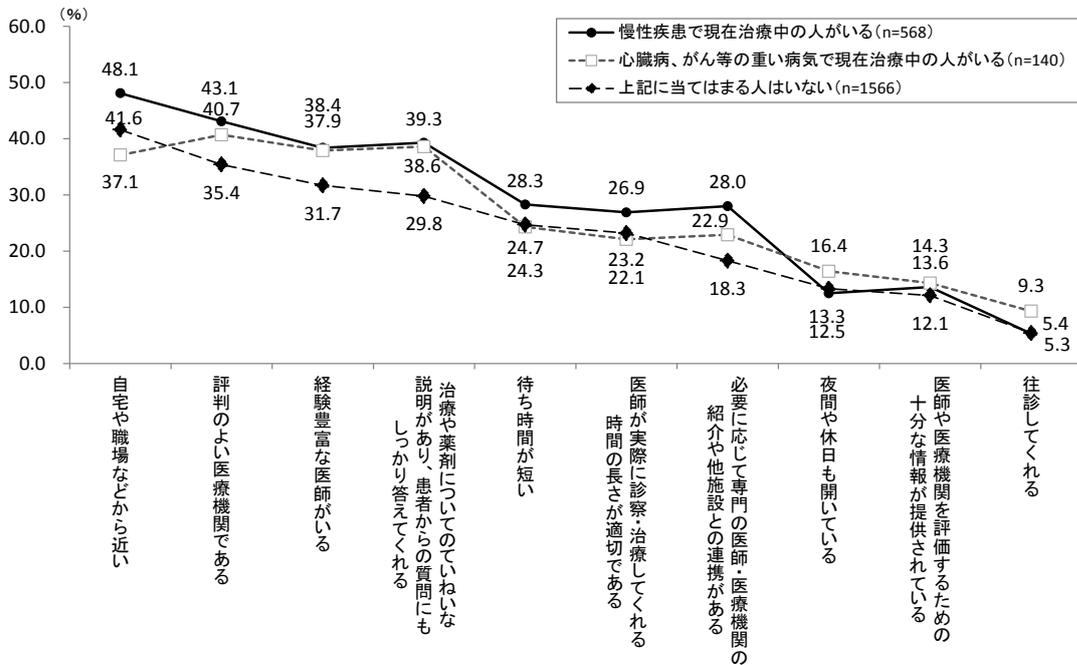
問10-1 医療機関選択時に重視する点



本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がある』世帯の人は、「自宅や職場などから近い」（48.1%）、「待ち時間が短い」（28.3%）、「必要に応じて専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある」（28.0%）、「医師が実際に診察・治療してくれる時間の長さが適切である」（26.9%）等の重視度が、他の層よりも高い。

問10-1 医療機関選択時に重視する点

【「重視する」の割合】



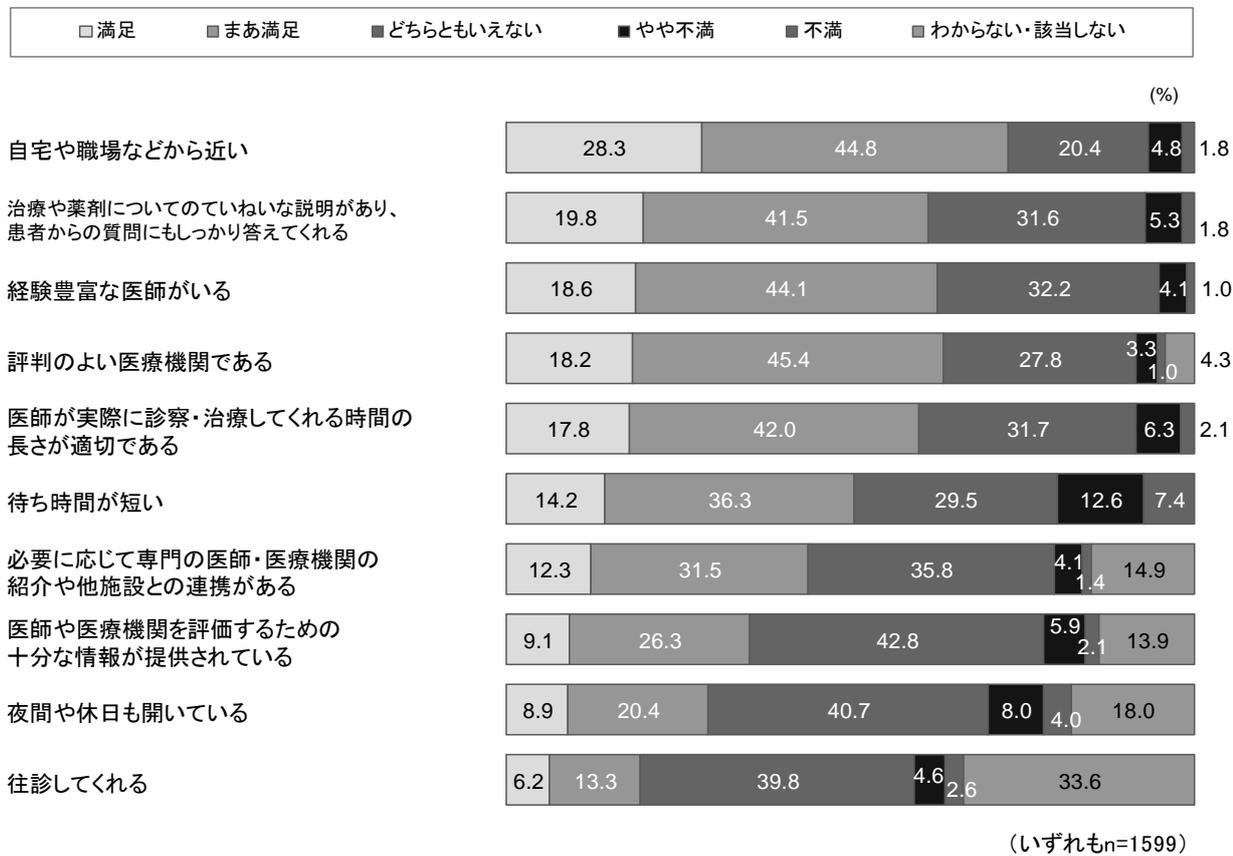
### 3. 2. 2 直近受診医療機関に対する満足度（問10-2）

問10 一番最近に外来（通院）受診した医療機関について、項目ごとの満足度をお答えください。  
（回答は1つ）

最近1年間に医療機関を受診した人の、直近に受診した医療機関に対する「満足」の割合は「自宅や職場などから近い」（28.3%）が最も高く、次いで「治療や薬剤についてのていねいな説明があり、患者からの質問にもしっかり答えてくれる」（19.8%）、「経験豊富な医師がいる」（18.6%）、「評判のよい医療機関である」（18.2%）となっている。

一方、不満（「やや不満」＋「不満」）の割合は、「待ち時間が短い」（20.0%）、「夜間や休日も開いている」（12.0%）の項目で高い。

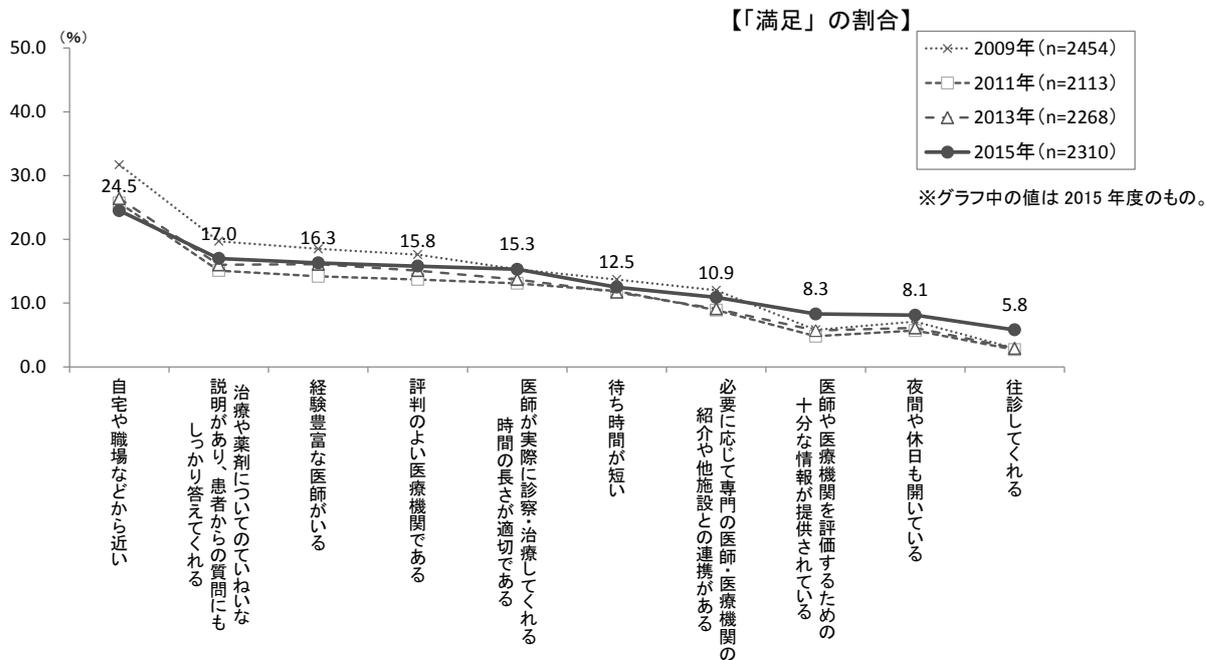
問10-2 直近受診医療機関に対する満足度  
【ベース：最近1年間での医療機関受診者】



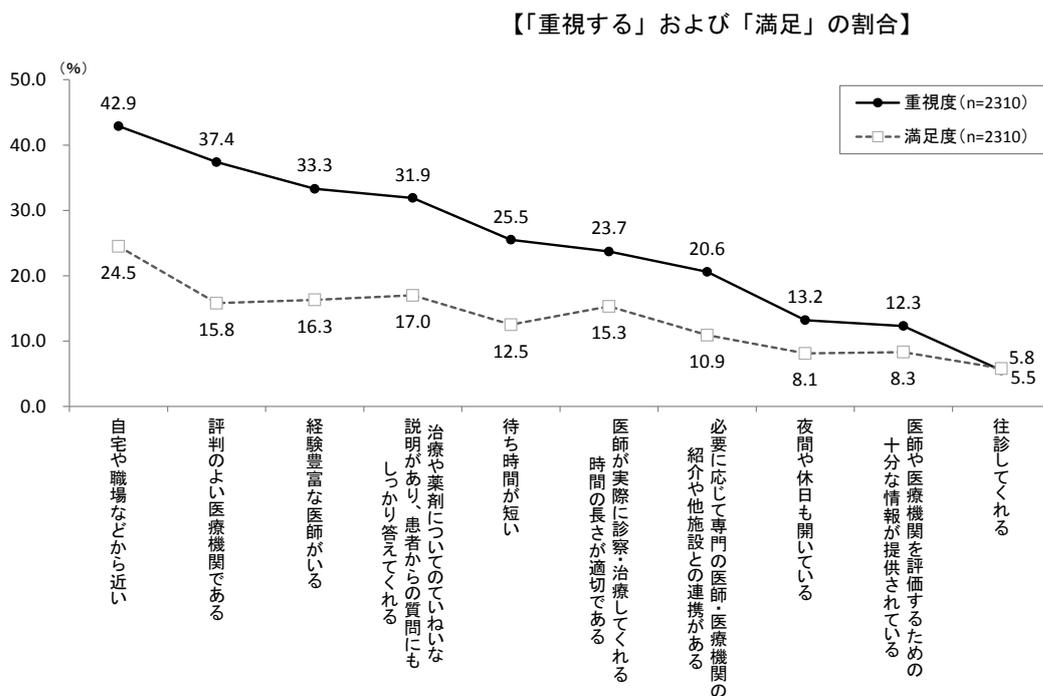
2009～2015年までの推移は以下の通りである。傾向に変化は見られない。

医療機関選択時に重視する項目（p.16：問10-1参照）と直近受診医療機関に対する項目別の満足度（p.19：問10-2参照）との関係を見ると、重視する上位5項目（「自宅や職場などから近い」、「評判のよい医療機関である」、「経験豊富な医師がいる」、「治療や薬剤についてのていねいな説明があり、患者からの質問にもしっかり答えてくれる」、「待ち時間が短い」）において、満足度との大きな開きが見られた。

問10-2 直近受診医療機関に対する項目別の満足度



問10-2 直近受診医療機関に対する項目別の満足度



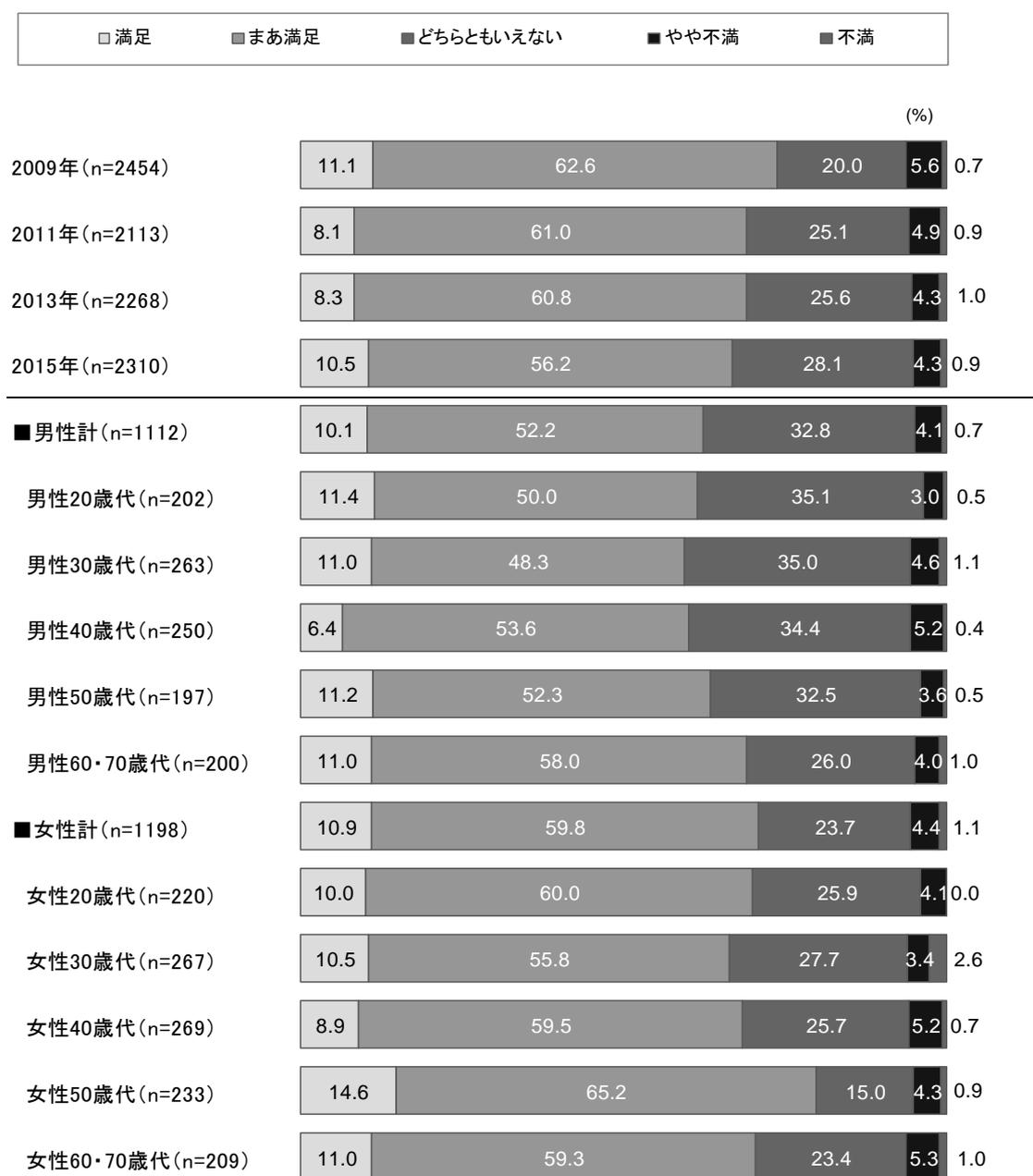
### 3. 2. 3 直近受診医療機関に対する総合満足度（問11）

問11 上記のような内容をすべて考慮すると、一番最近に外来（通院）受診した医療機関には総合的にどの程度満足していますか。（回答は1つ）

一番最近に外来（通院）受診した医療機関の総合的な満足度は、「満足」が10.5%、「まあ満足」が56.2%であり、6割強（66.7%）の人はおおむね満足と回答している。経年変化を見ると、2009年以降、満足度（「満足」＋「まあ満足」）はやや低下傾向にあるが、不満（「やや不満」＋「不満」）の割合はほぼ同程度で推移している。

性・年代別に見ると、男性よりも女性の方が満足度は高く、女性50歳代では8割（79.8%）がおおむね満足と回答している。

問11 直近受診医療機関に対する総合満足度

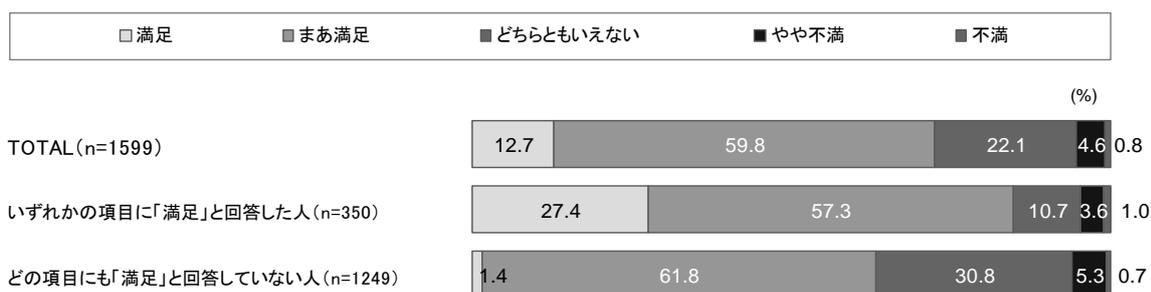


問 10-2 (p.19 参照) と問 11 の総合満足度の関係を見ると、問 10-2 でいずれかの項目に「満足」と回答した人の 8 割強 (84.7%) は、直近に受診した医療機関に対しておおむね満足 (「満足」+「まあ満足」) している。

項目別で「満足」の回答割合が最も高かった『自宅や職場などから近い』では、総合満足度における「満足」が 3 割強 (34.3%) にとどまったのに対し、他の項目で満足と回答した人の総合満足度における「満足」の割合は 4~5 割である。

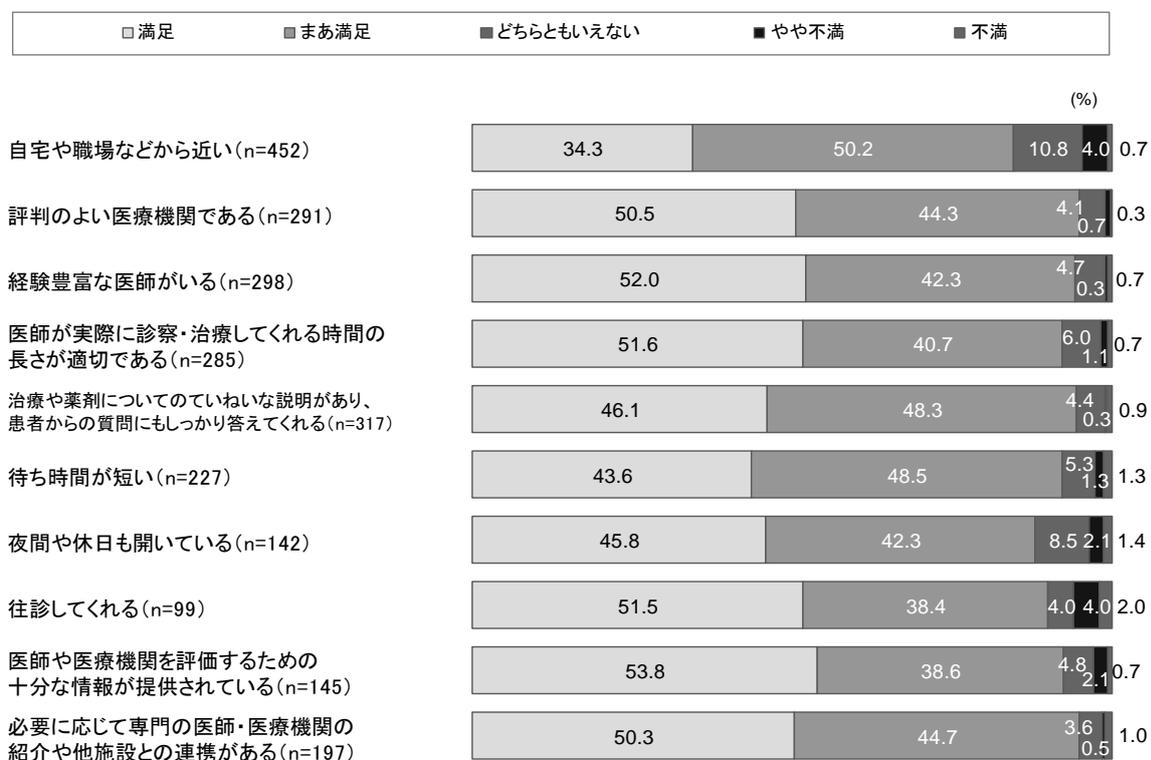
### 問 1 1 直近受診医療機関に対する総合満足度

【ベース：最近 1 年間での医療機関利用者】



### 問 1 1 直近受診医療機関に対する総合満足度

【ベース：最近 1 年間での医療機関利用者】



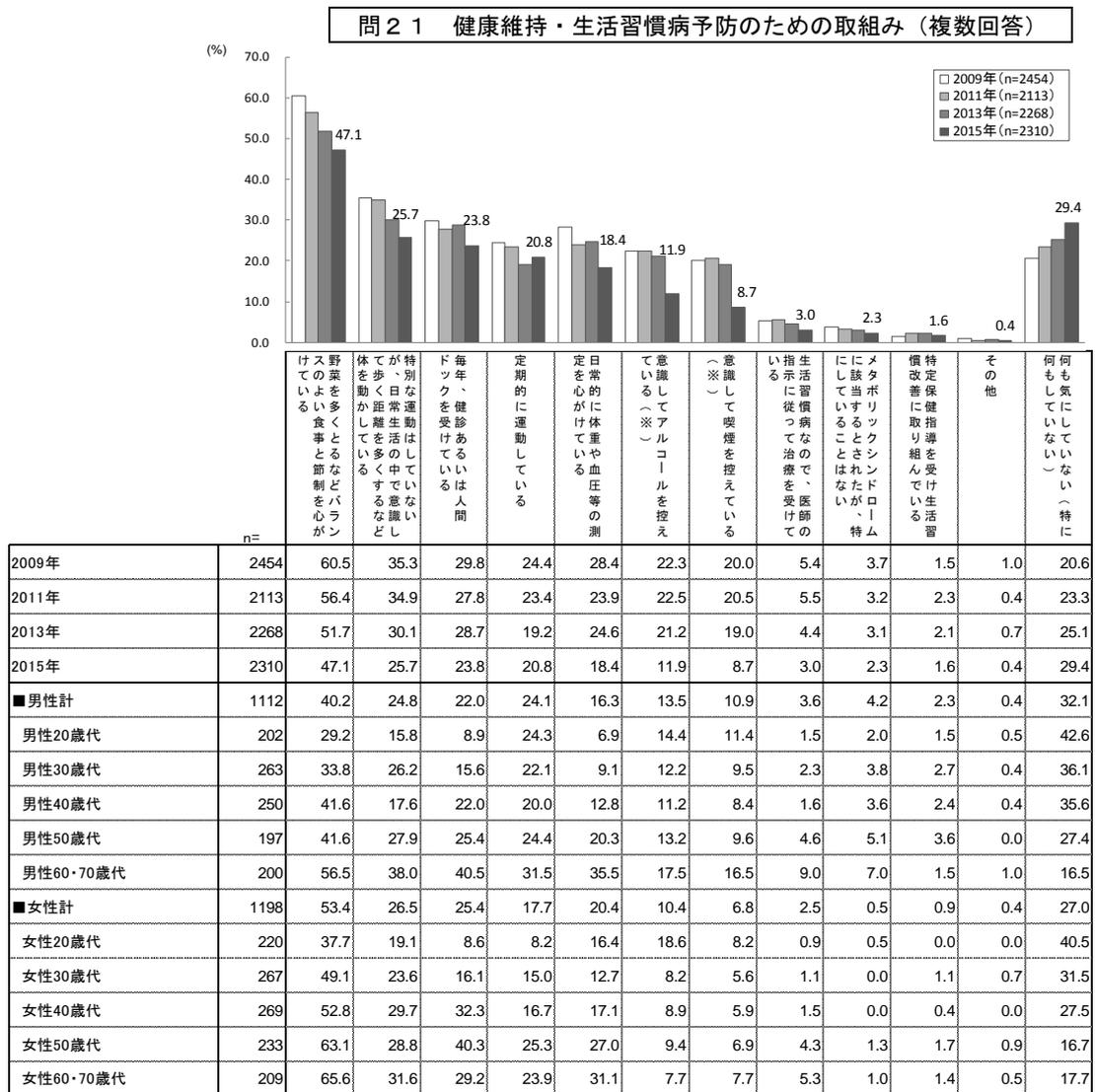
### 3. 3 健康管理と受診意向

#### 3. 3. 1 健康維持・生活習慣病予防のための取組み（問21）

問21 あなたは、高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリックシンドローム」を避けるため、あるいは健康維持のために日ごろからどのような取組みを行っていますか。次の説明をお読みのうえお答えください。（回答は該当するものすべて）

健康維持・生活習慣病予防のための取組みとしては、「野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている」が5割（47.1%）と最も高く、次いで「特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識して歩く距離を多くするなど体を動かしている」（25.7%）、「毎年、健診あるいは人間ドックを受けている」（23.8%）、「定期的に運動している」（20.8%）の順となっている。

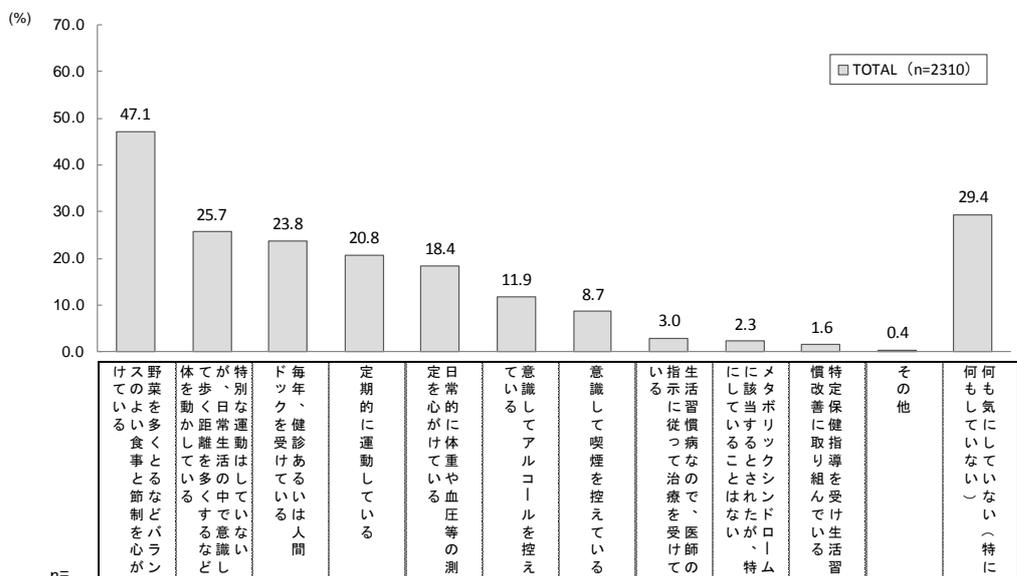
性・年代別に見ると、男性60・70歳代と女性50歳代以上では何らかの取組みをしている割合が高く、特に「野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている」、「日常的に体重や血圧等の測定を心がけている」の割合が高い。若い世代では「何も気にしていない（特に何もしていない）」割合が高く、男性20・30歳代、女性20歳代では4割前後を占めている。



※今回調査より「意識して」という表現に修正したため、2013年以前の値は参考として記載している。

本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がある』世帯の人は、何らかの取組みをしている割合が高い。治療や介護を受けている人がいない世帯（『上記に当てはまる人はいない』世帯）では、「何も気にしていない（特に何もしていない）」が3割強（35.0%）を占めている。

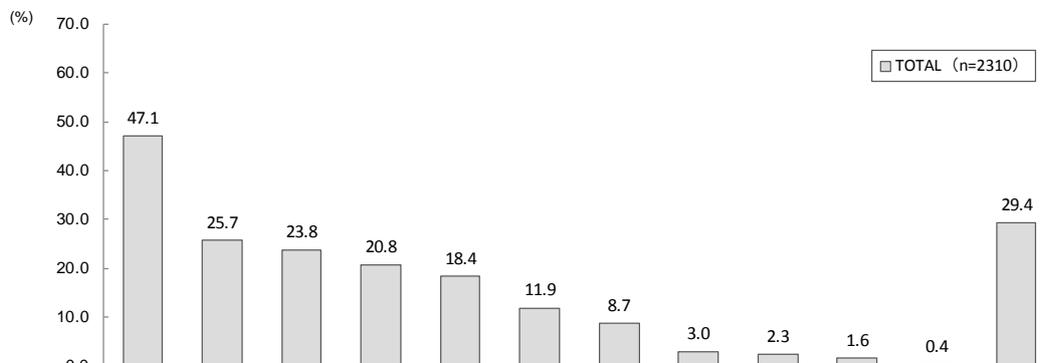
問2 1 健康維持・生活習慣病予防のための取組み（複数回答）



	n=	47.1	25.7	23.8	20.8	18.4	11.9	8.7	3.0	2.3	1.6	0.4	29.4
TOTAL	2310	47.1	25.7	23.8	20.8	18.4	11.9	8.7	3.0	2.3	1.6	0.4	29.4
慢性疾患で現在治療中の人がある	568	55.3	30.8	34.2	22.2	31.0	15.3	10.0	11.3	4.2	2.8	0.5	17.3
心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある	140	50.7	32.1	33.6	18.6	20.7	15.7	12.9	7.9	4.3	5.7	1.4	19.3
介護保険制度のサービスを利用している人がある	138	53.6	31.2	32.6	20.3	20.3	13.8	18.8	1.4	3.6	5.8	1.4	18.8
今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がある人がある	36	44.4	36.1	25.0	22.2	11.1	11.1	22.2	2.8	5.6	5.6	2.8	19.4
上記に当てはまる人はいない	1566	44.1	23.5	20.2	20.4	14.2	10.5	7.4	0.3	1.6	0.9	0.4	35.0

加入者区分別に見ると、被扶養者の女性では「野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている」が6割弱（58.2%）と高い割合である一方、「毎年、健診あるいは人間ドックを受けている」は2割弱（17.2%）にとどまっており、被保険者に比べると受診率が低い。

問 2 1 健康維持・生活習慣病予防のための取組み（複数回答）

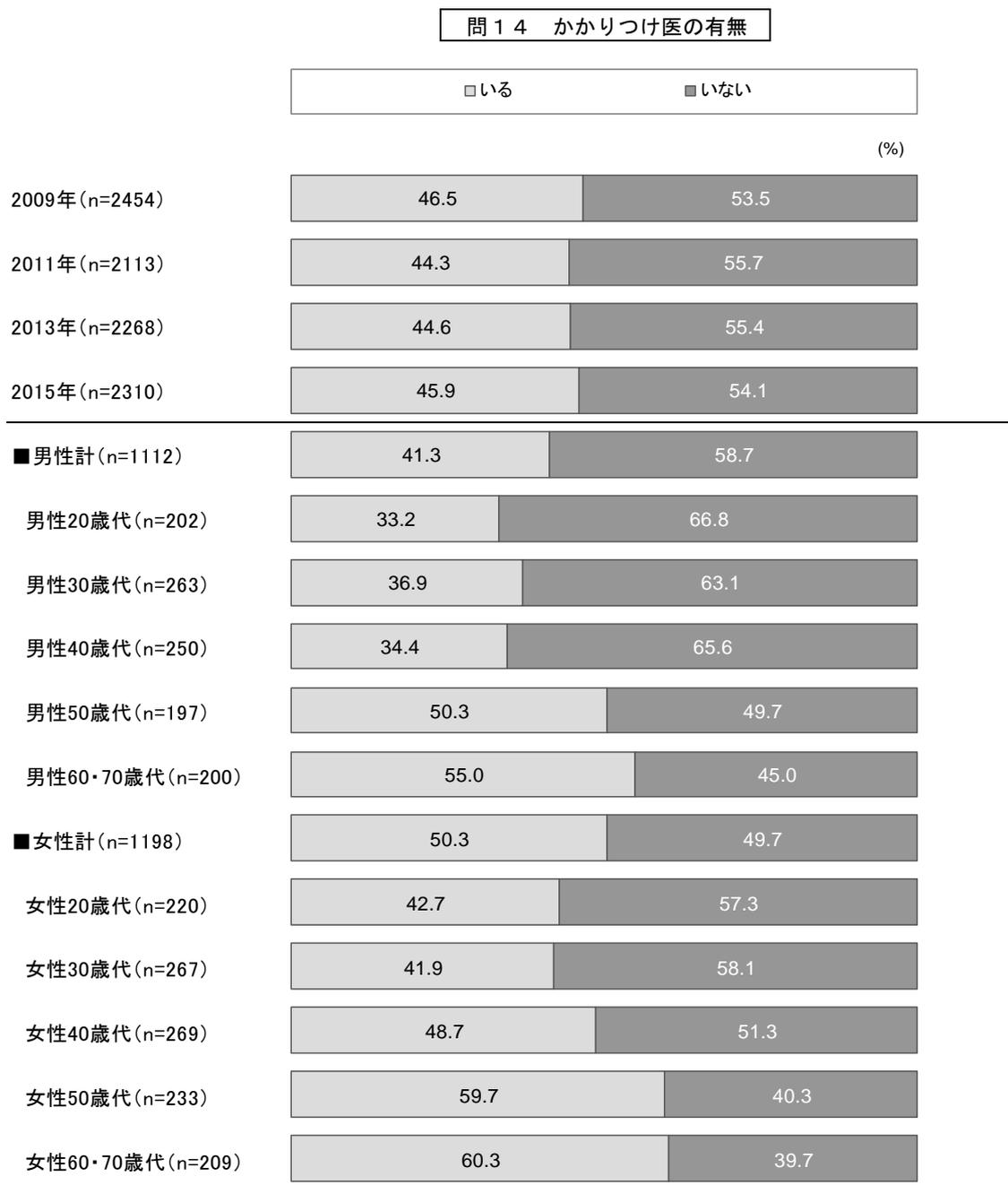


	n=	野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がける	体を動かしている	特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識している	定期的に運動している	定期的に体重や血圧等の測定を心がけている	意識してアルコールを控えている	意識して喫煙を控えている	生活習慣病の治療を受けている	メタボリックシンドロームに該当するが、特	特定保健指導を受け生活習慣改善に取り組んでいる	その他	何もしていない（特に
TOTAL	2310	47.1	25.7	23.8	20.8	18.4	11.9	8.7	3.0	2.3	1.6	0.4	29.4
■被保険者	1687	44.5	25.2	26.6	21.6	17.6	12.3	8.6	2.7	3.0	1.5	0.4	29.4
男性	1011	40.9	24.9	23.1	24.6	16.1	13.4	10.2	3.5	4.5	2.1	0.4	30.9
女性	676	49.7	25.6	31.7	17.0	19.8	10.8	6.2	1.5	0.7	0.6	0.3	27.2
■被扶養者	623	54.1	27.1	16.2	18.6	20.5	10.8	9.1	4.0	0.5	1.9	0.6	29.5
男性	101	32.7	23.8	10.9	18.8	17.8	14.9	17.8	5.0	2.0	5.0	1.0	44.6
女性	522	58.2	27.8	17.2	18.6	21.1	10.0	7.5	3.8	0.2	1.3	0.6	26.6

### 3. 3. 2 かかりつけ医の有無（問14）

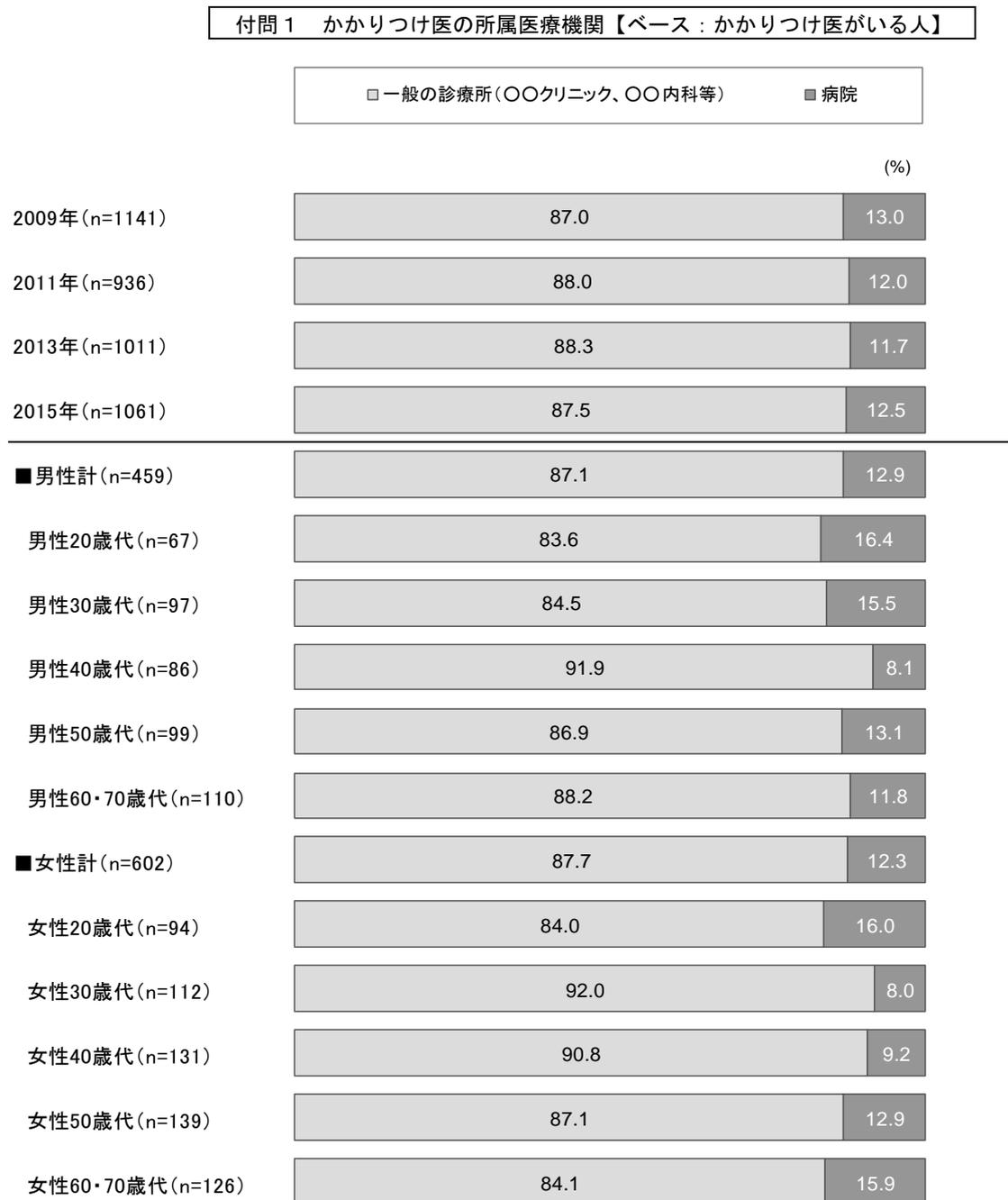
問14 あなたには、熱が高いなど体の具合が悪い時、まず診てもらったり相談したりすることのできる「かかりつけ医」がいますか。（回答は1つ）

かかりつけ医がいるのは45.9%で、2009年以降、ほぼ同程度の割合で推移している。  
 性・年代別に見ると、男性20～40歳代ではかかりつけ医がいるのは3分の1程度にとどまっている。  
 一方、男性60・70歳代と女性50歳代以上はかかりつけ医がいる割合が他の層よりも高く、6割前後にかかりつけ医がいる。



付問1 その医師のいる医療機関は、次のどれですか。(回答は1つ)【ベース：かかりつけ医がいる人】

かかりつけ医の所属する医療機関は 87.5%が「一般の診療所」である。2009 年以降、同程度の割合で推移しており、性・年代別でも特に違いは見られない。



付問2 その医師をかかりつけ医として選んだ理由は何ですか。(回答は該当するものすべて)

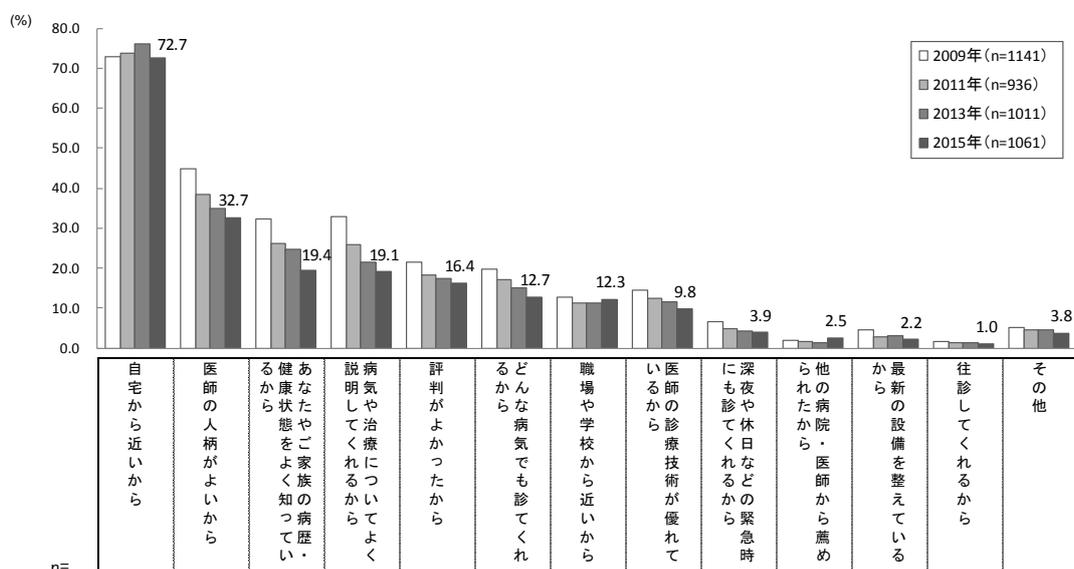
【ベース：かかりつけ医がいる人】

かかりつけ医を選んだ理由は「自宅から近いから」(72.7%)が最も多く、次いで「医師の人柄がよいから」(32.7%)、「あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから」(19.4%)、「病気や治療についてよく説明してくれるから」(19.1%)の順となっている。

性・年代別に見ると、男性20歳代では「自宅から近いから」(85.1%)、男性60・70歳代では「あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから」(28.2%)、女性60・70歳代では「医師の人柄がよいから」(43.7%)、「病気や治療についてよく説明してくれるから」(31.0%)の割合が高い。

2009年からの推移を見ると、全体的に各項目の割合は徐々に低くなってきている。

付問2 かかりつけ医を選んだ理由(複数回答)【ベース：かかりつけ医がいる人】



n=	自宅から近いから	医師の人柄がよいから	健康状態をよく知っているから	あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから	説明してくれるから	評判がよかったから	どんな病気でも診てくれるから	職場や学校から近いから	医師の診療技術が優れているから	深夜や休日などの緊急時にも診てくれるから	他の病院・医師から薦められたから	最新の設備を整えているから	往診してくれるから	その他
2009年	1141	72.8	44.8	32.3	33.0	21.4	19.9	12.9	14.5	6.6	2.1	4.5	1.8	5.3
2011年	936	73.7	38.4	26.2	25.9	18.4	17.2	11.2	12.5	4.9	1.8	2.9	1.4	4.6
2013年	1011	76.0	35.0	24.7	21.4	17.4	15.2	11.3	11.5	4.3	1.5	3.0	1.3	4.5
2015年	1061	72.7	32.7	19.4	19.1	16.4	12.7	12.3	9.8	3.9	2.5	2.2	1.0	3.8
■男性計	459	70.4	30.7	20.0	16.8	16.3	12.4	13.1	9.8	4.6	2.6	2.8	1.3	3.3
男性20歳代	67	85.1	22.4	16.4	9.0	16.4	9.0	10.4	11.9	7.5	1.5	1.5	1.5	1.5
男性30歳代	97	66.0	23.7	14.4	12.4	15.5	10.3	13.4	10.3	4.1	4.1	0.0	0.0	3.1
男性40歳代	86	69.8	31.4	20.9	16.3	19.8	11.6	19.8	3.5	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3
男性50歳代	99	70.7	34.3	18.2	22.2	19.2	12.1	16.2	7.1	7.1	1.0	3.0	2.0	5.1
男性60・70歳代	110	65.5	38.2	28.2	20.9	11.8	17.3	6.4	15.5	4.5	5.5	6.4	2.7	3.6
■女性計	602	74.4	34.2	18.9	20.9	16.4	13.0	11.8	9.8	3.3	2.3	1.7	0.8	4.2
女性20歳代	94	74.5	29.8	17.0	18.1	21.3	10.6	11.7	8.5	3.2	1.1	0.0	1.1	7.4
女性30歳代	112	73.2	31.3	15.2	15.2	16.1	7.1	20.5	6.3	0.9	1.8	1.8	0.9	2.7
女性40歳代	131	70.2	37.4	17.6	17.6	14.5	9.9	10.7	8.4	3.8	2.3	1.5	0.0	3.8
女性50歳代	139	77.7	28.1	23.7	21.6	17.3	17.3	10.8	10.1	4.3	2.9	2.9	2.2	4.3
女性60・70歳代	126	76.2	43.7	19.8	31.0	14.3	18.3	6.3	15.1	4.0	3.2	1.6	0.0	3.2

### 3. 3. 3 早期受診意向の有無（問12）

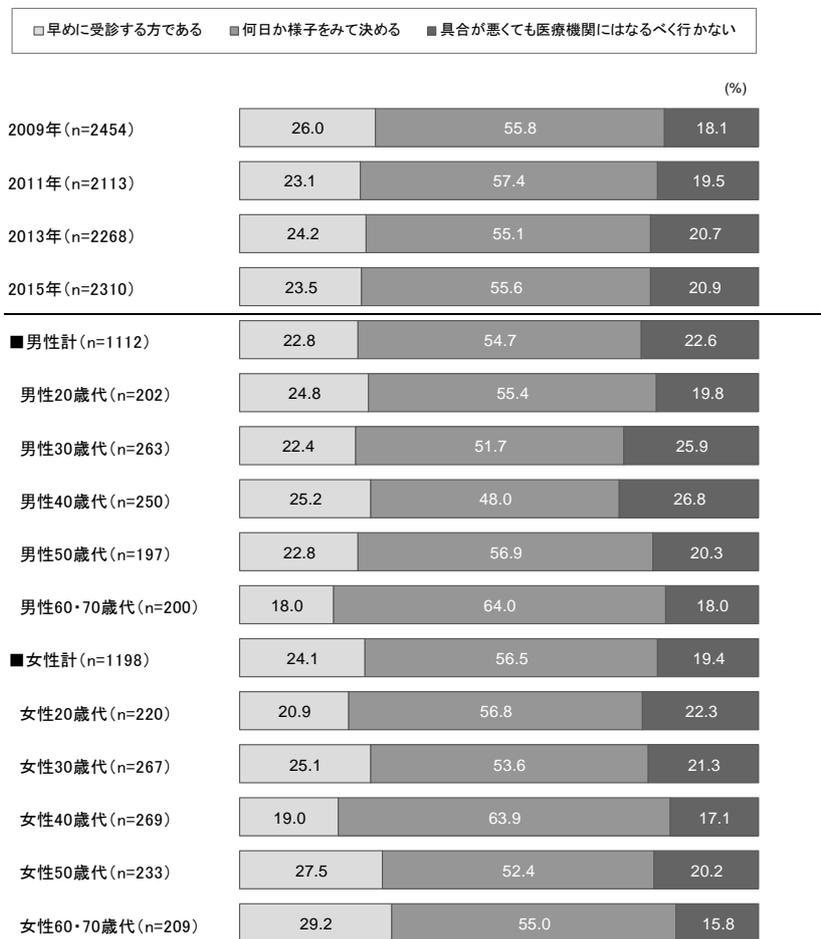
問12 あなたは、熱が出るなど体の具合が悪い時には早めに医療機関を受診する方ですか。（回答は1つ）

具合が悪い時の受診のタイミングは、「何日か様子を見て決める」が5割強（55.6%）、「早めに受診する方である」（23.5%）、「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」（20.9%）はそれぞれ2割程度で、2013年とほぼ同様の傾向である。

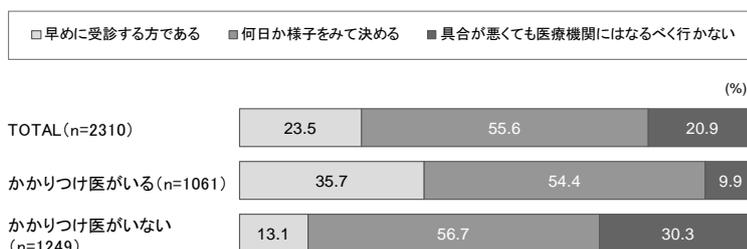
性・年代別に見ると、女性60・70歳代では「早めに受診する方である」が3割（29.2%）と他の層より早期受診の意向が高い。一方、男性30・40歳代では「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」割合が高い。

かかりつけ医の有無別（p.26：問14参照）に見ると、かかりつけ医がいる人では「早めに受診する方である」が3割強（35.7%）とかかりつけ医がいない人よりも割合が高く、一方、かかりつけ医がいない人では3割（30.3%）が「具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない」と回答している。

問12 早期受診意向の有無



問12 早期受診意向の有無



### 3. 3. 4 初診時の受診意向（問13）

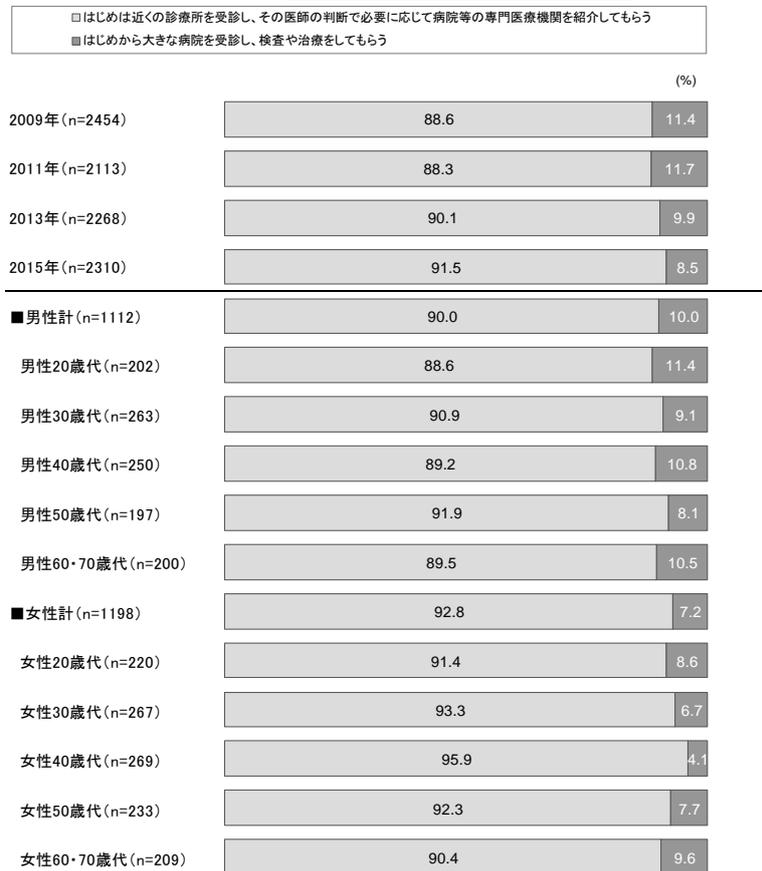
問13 あなたは、熱が高いなど体の具合が悪くて医療機関を外来受診する際、どのように医療機関を選んでいきますか。あまり医療機関にかからない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は1つ）

外来受診する際の医療機関の選び方は、「はじめは近くの診療所を受診し、その医師の判断で必要に応じて病院等の専門医療機関を紹介してもらう」が91.5%、「はじめから大きな病院を受診し、検査や治療をしてもらう」が8.5%である。2009年以降、初診時は近くの診療所等に行くという割合が徐々に高くなっている。

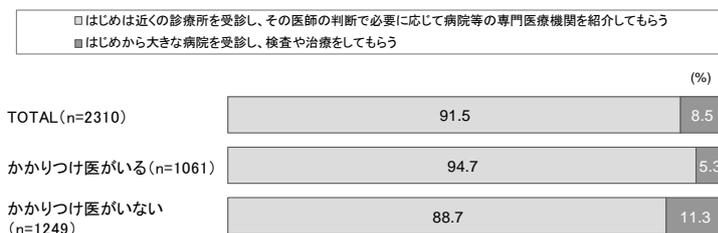
性・年代別に見ると、女性よりも男性の方が「はじめから大きな病院を受診し、検査や治療をしてもらう」割合が高い。

かかりつけ医の有無別（p.26：問14参照）に見ると、かかりつけ医がいない人の1割（11.3%）は「はじめから大きな病院を受診する」と回答している。

#### 問13 初診時の受診意向



#### 問13 初診時の受診意向



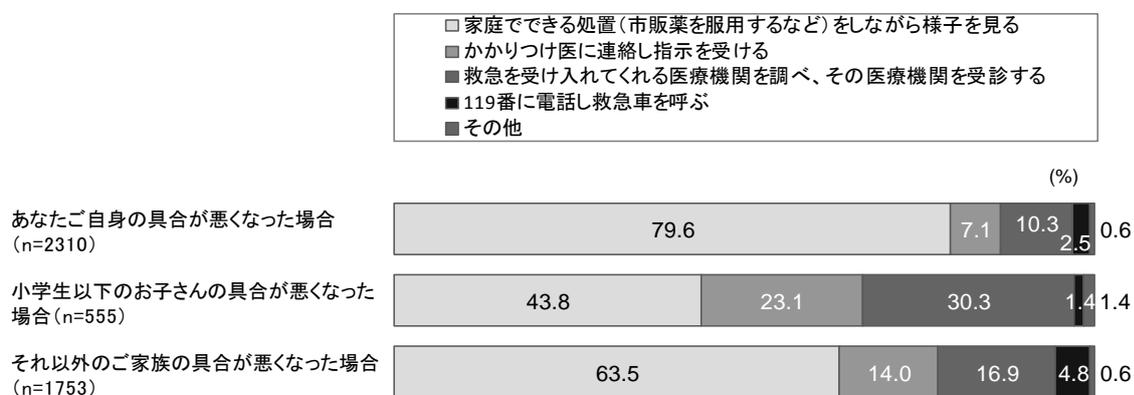
### 3. 3. 5 夜間救急時の受診意向（問15）

問15 あなたは、休日や深夜に、あなた自身やご家族が急な発熱などで具合が悪くなった時、どのように対応しますか。休日・深夜に具合が悪くなったことがない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は横の行ごとに1つずつ）

自分自身の具合が悪くなった場合には、「家庭でできる処置（市販薬を服用するなど）をしながら様子を見る」が8割（79.6%）を占める。

一方、小学生以下の子どもの具合が悪くなった場合には、「家庭でできる処置（市販薬を服用するなど）をしながら様子を見る」が4割（43.8%）、「救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する」が3割（30.3%）と、自分自身の場合と比べて救急医療機関の対応を考える割合が高い。

問15 夜間救急時の受診意向



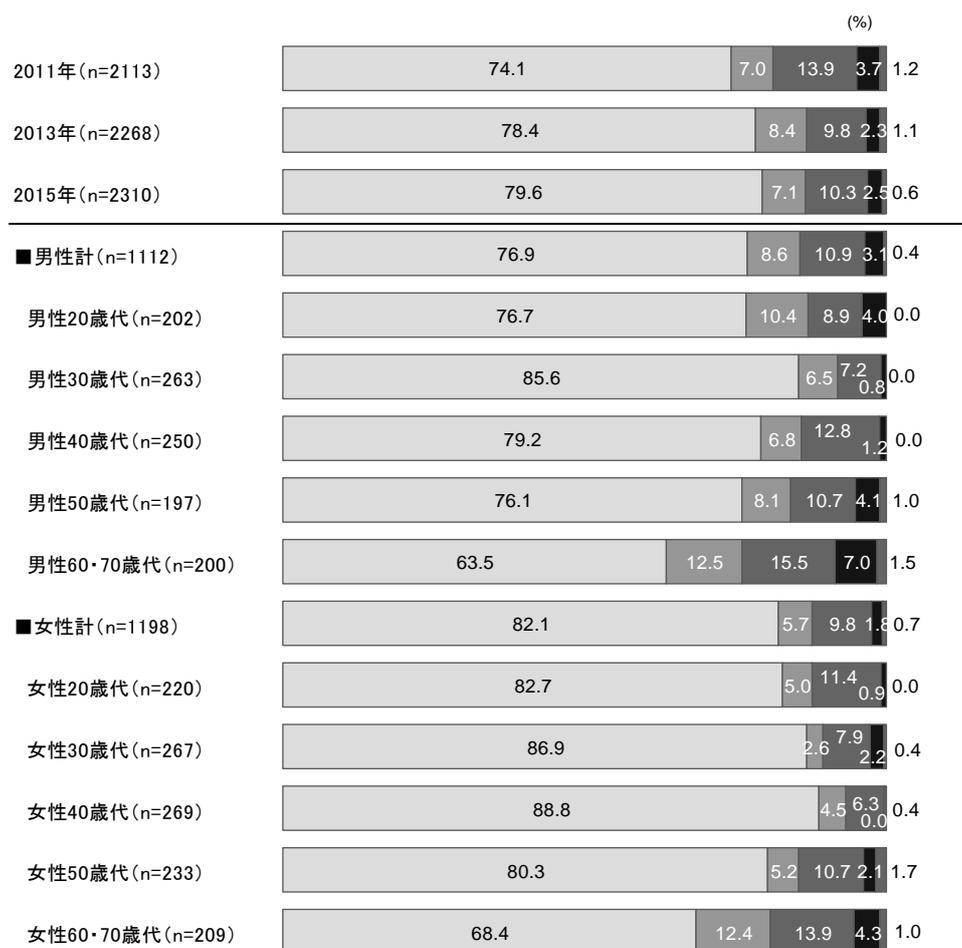
自分自身の具合が悪くなった場合の対応を性・年代別に見ると、男性 30 歳代、女性 30・40 歳代では「家庭でできる処置(市販薬を服用するなど)をしながら様子を見る」が他の層よりも高い割合である。また、男女とも 60・70 歳代では「かかりつけ医に連絡し指示を受ける」割合が高い。

かかりつけ医の有無別 (p.26 : 問 14 参照) に見ると、『かかりつけ医がいる』人の 1 割 (13.1%) は「かかりつけ医に連絡し指示を受ける」と回答している。

問 1 5 夜間救急時の受診意向

【あなたご自身の具合が悪くなった場合】

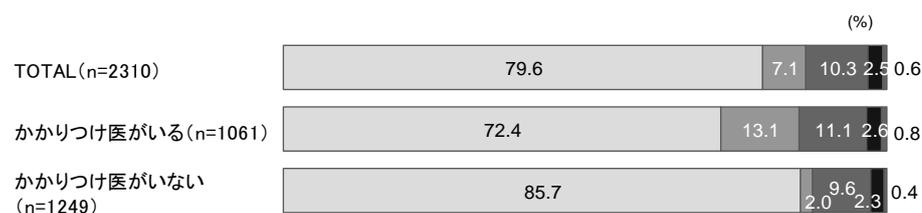
- 家庭でできる処置(市販薬を服用するなど)をしながら様子を見る
- かかりつけ医に連絡し指示を受ける
- 救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する
- 119番に電話し救急車を呼ぶ
- その他



問 1 5 夜間救急時の受診意向

【あなたご自身の具合が悪くなった場合】

- 家庭でできる処置(市販薬を服用するなど)をしながら様子を見る
- かかりつけ医に連絡し指示を受ける
- 救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する
- 119番に電話し救急車を呼ぶ
- その他



### 3. 4 薬局利用状況

#### 3. 4. 1 薬局の利用状況（問16）

問16 あなたは、医療機関から処方せんを受け取った際に利用する薬局を決めていますか。この1年間の利用の仕方として、最も当てはまるものをお答えください。（回答は1つ）

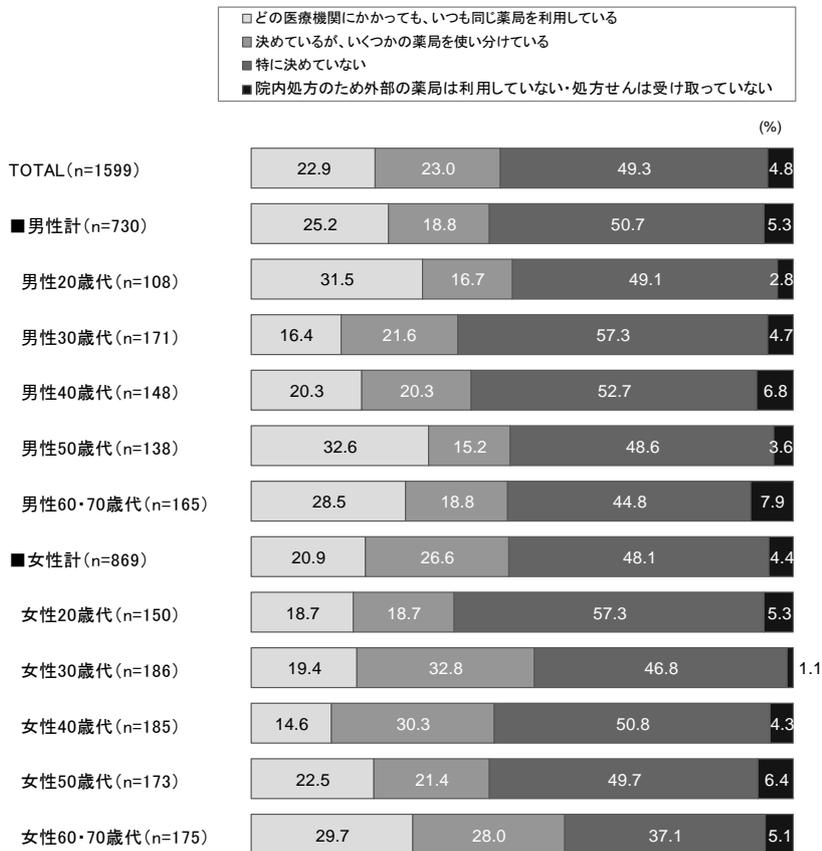
【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

「どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している」（22.9%）、「決めているが、いくつかの薬局を使い分けている」（23.0%）がそれぞれ2割、半数（49.3%）は「特に決めていない」と回答している。

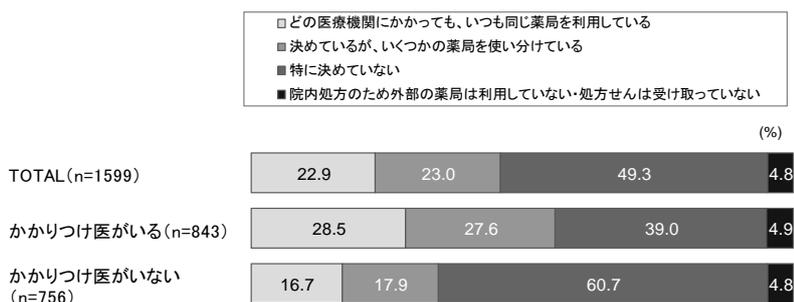
性・年代別に見ると、男性30歳代、女性20歳代は「特に決めていない」割合が高く6割弱を占める。

かかりつけ医の有無別（p.26：問14参照）に見ると、『かかりつけ医がない』人では「特に決めていない」が6割（60.7%）を占める。

問16 薬局の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



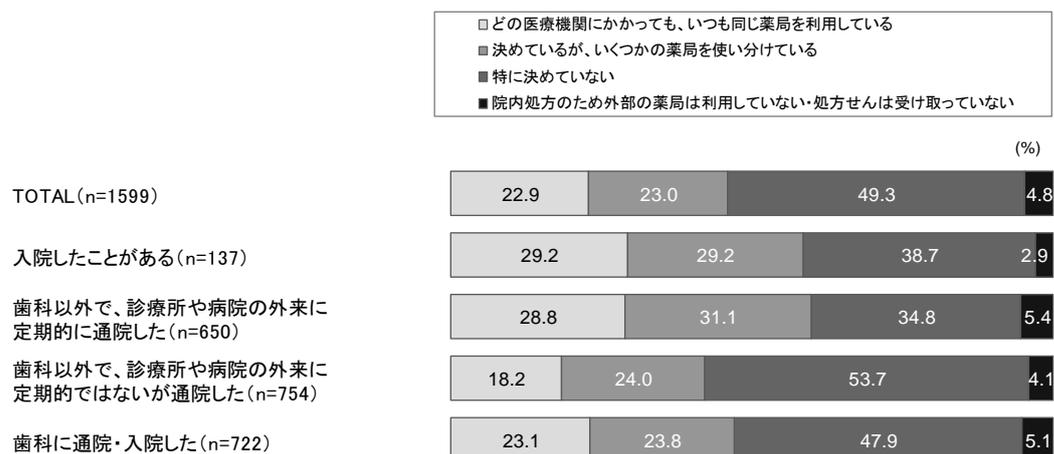
問16 薬局の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



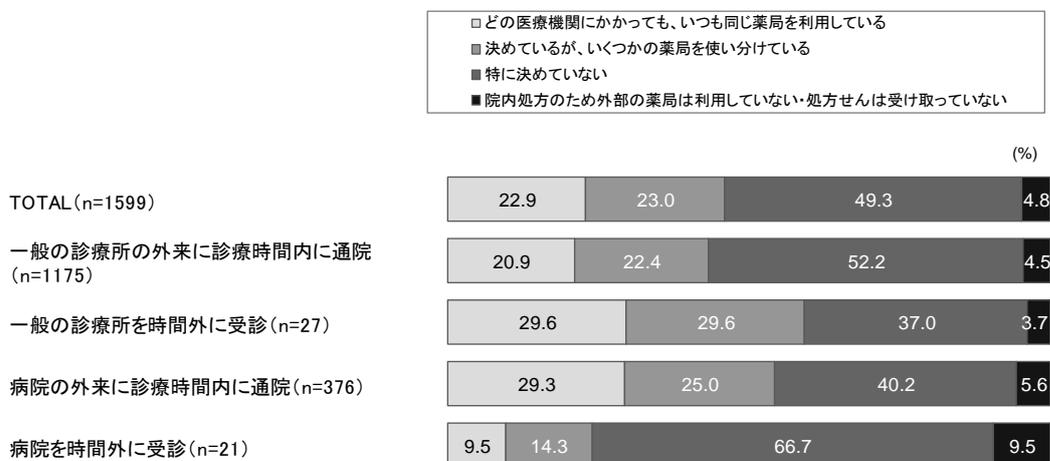
最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『入院したことがある』、または『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は利用する薬局が決まっている割合が高いのに対し、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』人の半数（53.7%）は「特に決めていない」と回答している。

直近に外来受診した医療機関別（p.15：問9参照）に見ると、『病院の外来に診療時間内に通院』した人は利用する薬局が決まっている割合が高い。

**問16 薬局の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】**



**問16 薬局の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】**



※n<30の項目については参考値

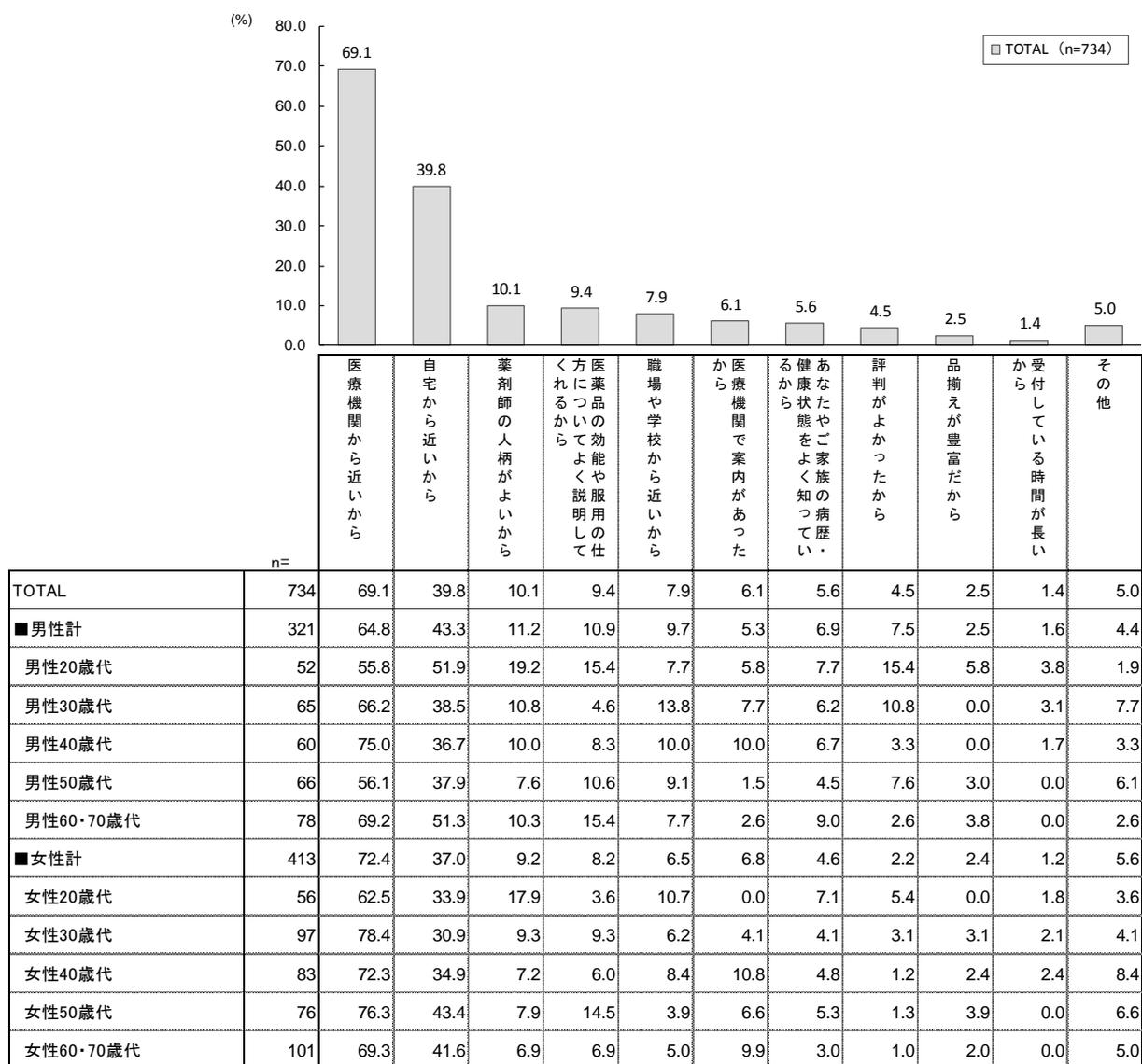
### 3. 4. 2 利用する薬局を決めている理由（問16付問1）

付問1 その薬局を利用することに決めている理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）  
 【ベース：利用する薬局を決めている人】

利用する薬局を決めている理由は、「医療機関から近いから」が7割（69.1%）と最も割合が高く、次いで「自宅から近いから」が4割（39.8%）である。

性・年代別に見ると、女性は「医療機関が近いから」（72.4%）を理由とする割合が男性よりも高く、男性は「評判がよかったから」（7.5%）の割合が高い。また、男性60・70歳代では、「自宅から近いから」（51.3%）も他の層よりも高い割合となっている。

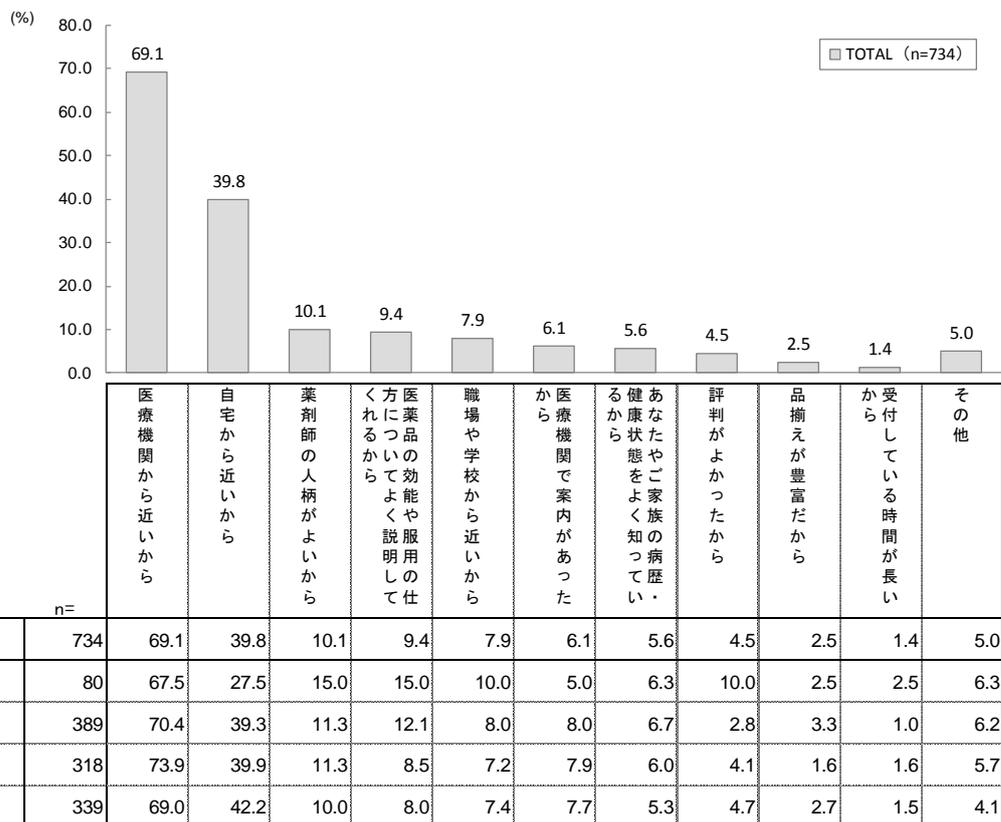
付問1 利用する薬局を決めている理由（複数回答）  
 【ベース：利用する薬局を決めている人】



最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外に定期的ではないが通院した』人は「医療機関が近いから」（73.9%）の割合が高い。『歯科以外で、診療所や病院の外に定期的に通院した』人は「医療品の効能や服用の仕方についてよく説明してくれるから」（12.1%）、「医療機関で案内があったから」（8.0%）の割合が高い。

付問1 利用する薬局を決めている理由（複数回答）

【ベース：利用する薬局を決めている人】



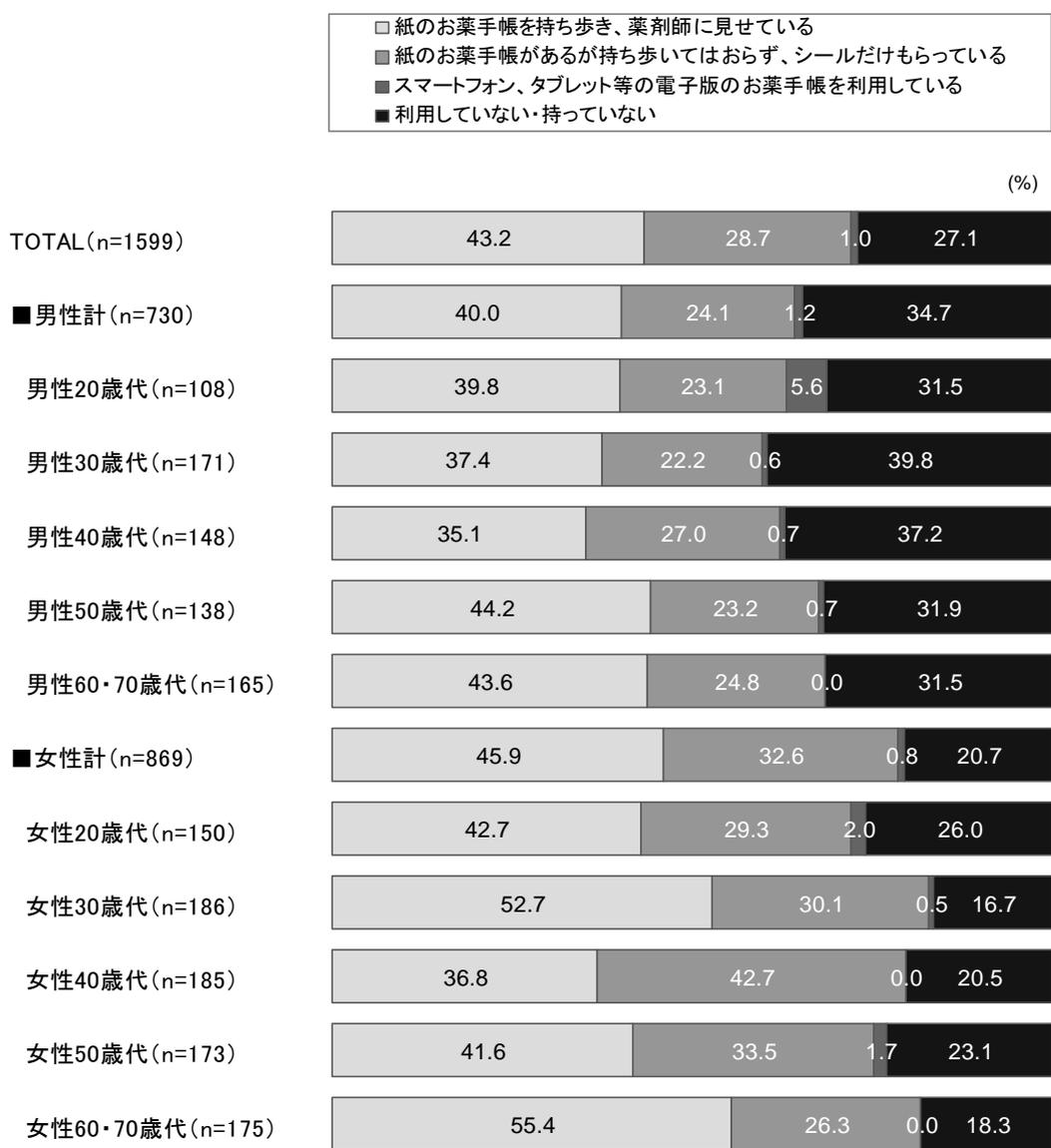
### 3. 4. 3 お薬手帳の利用状況（問17）

問17 あなたは、「お薬手帳」を利用していますか。最も当てはまるものをお答えください。（回答は1つ）  
 【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

お薬手帳の利用状況としては、「紙のお薬手帳を持ち歩き、薬剤師に見せている」が4割（43.2%）、  
 「紙のお薬手帳があるが持ち歩いてはおらず、シールだけもらっている」（28.7%）、「利用していない・  
 持っていない」（27.1%）がそれぞれ3割弱である。

性・年代別に見ると、男性は女性に比べお薬手帳の所持・利用率が低く、男性30・40歳代の4割は  
 「利用していない・持っていない」と回答している。女性30歳代および60・70歳代では「紙のお薬手  
 帳を持ち歩き、薬剤師に見せている」が半数以上となっている。

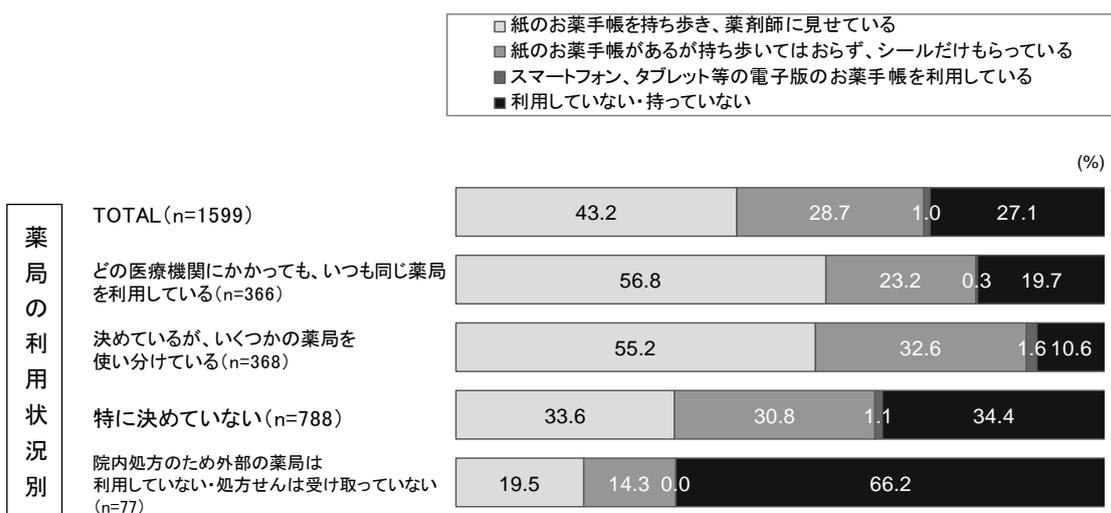
問17 お薬手帳の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



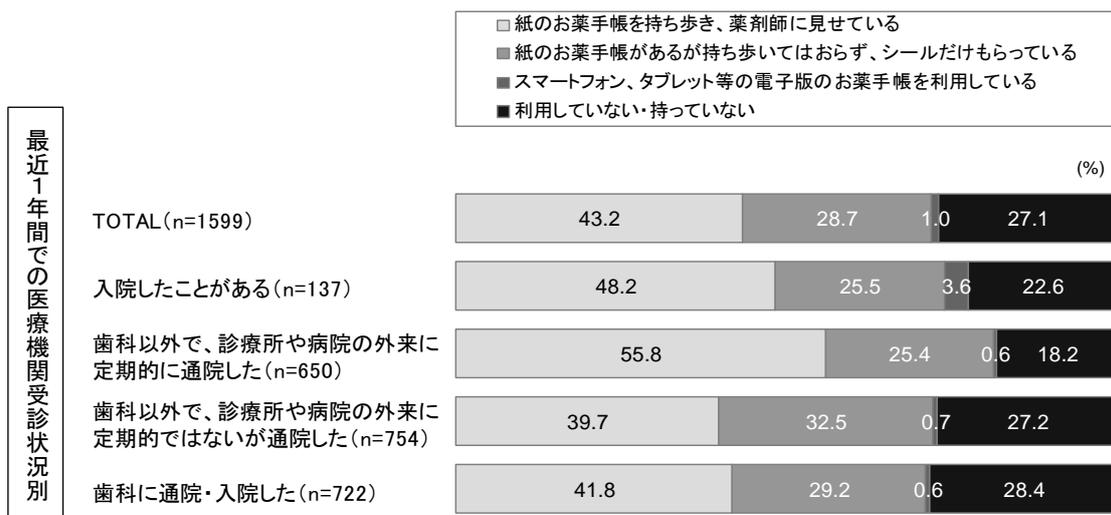
薬局の利用状況別（p.33：問 16 参照）に見ると、利用する薬局が決まっている人の8割以上がお薬手帳を所持・利用しているのに対し、『特に決めていない』人では所持・利用率が低く、3割強（34.4%）は「利用していない・持っていない」と回答している。

最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は「紙のお薬手帳を持ち歩き、薬剤師に見せている」（55.8%）割合が高く、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』人は「紙のお薬手帳があるが持ち歩いてはならず、シールだけもらっている」（32.5%）割合が高い。

問 17 お薬手帳の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



問 17 お薬手帳の利用状況【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

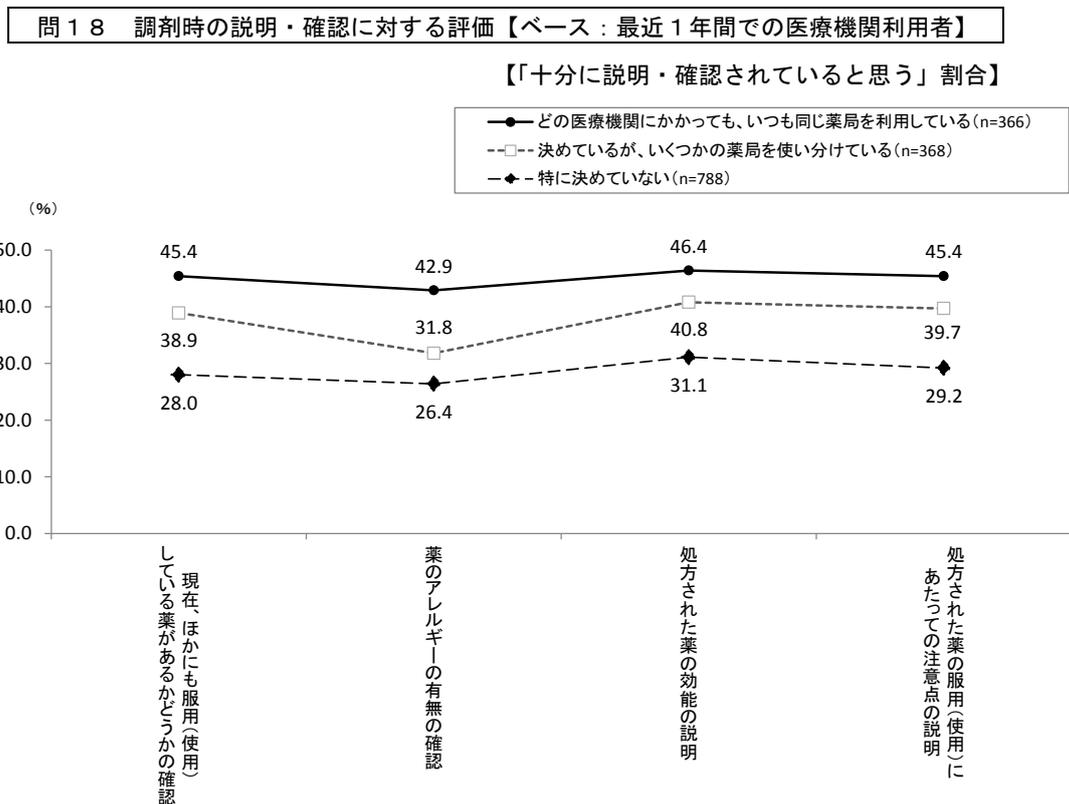
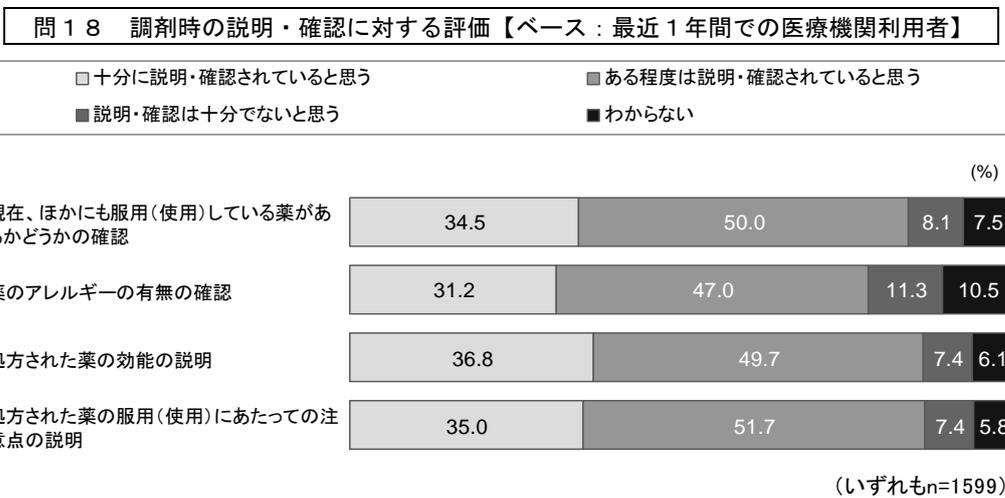


### 3. 4. 4 調剤時の説明・確認に対する評価（問18）

問18 薬局で薬を受け取る際、薬についての説明や確認は十分にされていると思いますか。（回答は1つ）  
【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

調剤時の説明や確認に対する評価は、いずれの項目とも「十分に説明・確認されていると思う」が3割程度である。「ある程度は説明・確認されていると思う」と合わせると、8割前後は説明・確認がなされていると評価している。4項目の中では、「薬のアレルギーの有無の確認」の評価がやや低い。

薬局の利用状況別（p.33：問16参照）に見ると、『どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している』人は、各項目とも「十分に説明・確認されていると思う」割合が高い。一方、『特に決めていない』人は、「十分に説明・確認されていると思う」割合が低く、各項目とも3割前後にとどまっている。



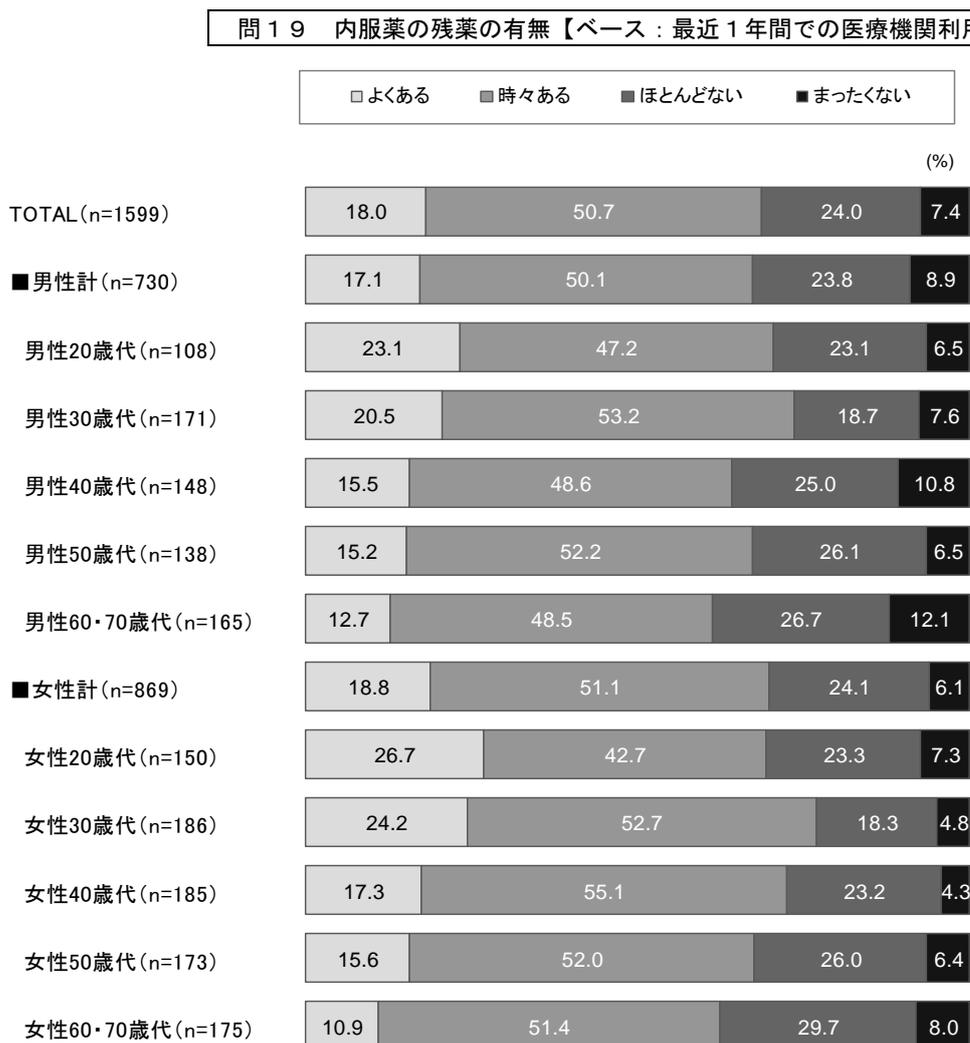
### 3. 4. 5 残薬の有無（問19）

問 19 医療機関から処方された薬に飲み残し（内服薬：錠剤など）、使い残し（外用薬：湿布、目薬、軟膏など）が生じることはありますか。（回答は1つ）【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

#### ① 内服薬（錠剤など）

内服薬（錠剤など）の飲み残しが「よくある」は18.0%、「時々ある」は50.7%で、7割弱（68.7%）は内服薬を飲み残すことがあると回答している。

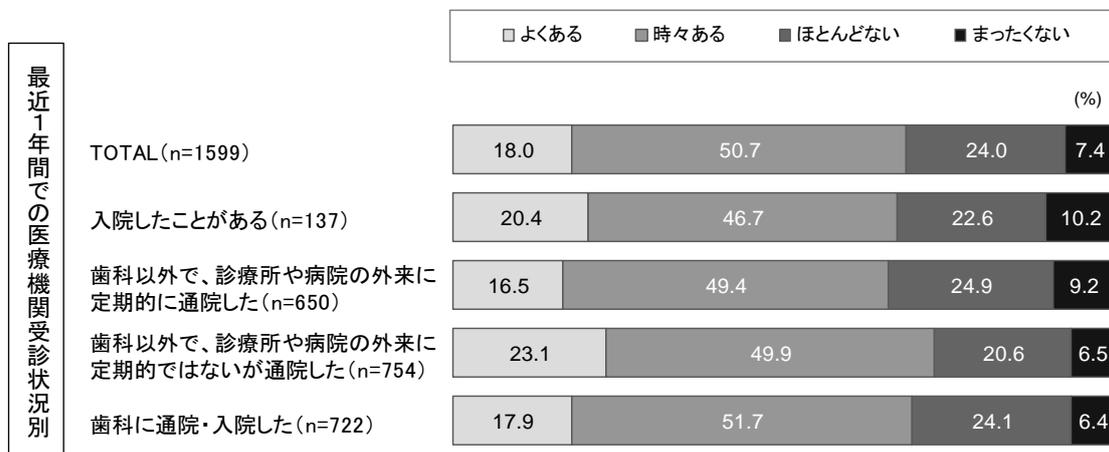
性・年代別に見ると女性20・30歳代は飲み残すことが「よくある」割合が高く、女性60・70歳代では低い。



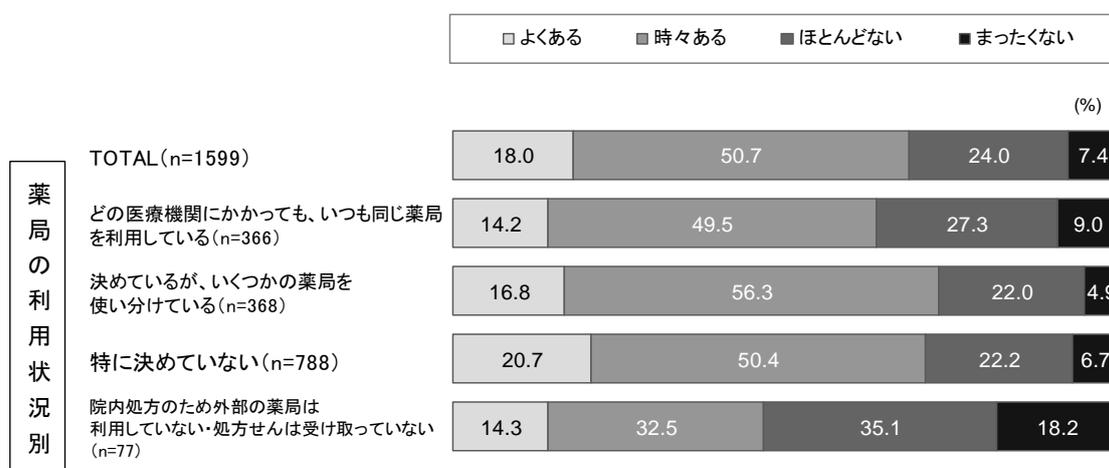
最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外に定期的ではないが通院した』人は飲み残すことが「よくある」割合が高い。

薬局の利用状況別（p.33：問16参照）別に見ると、『特に決めていない』人は内服薬を飲み残すことが「よくある」割合が高い。

問19 内服薬の残薬の有無【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



問19 内服薬の残薬の有無【ベース：最近1年間での医療機関利用者】

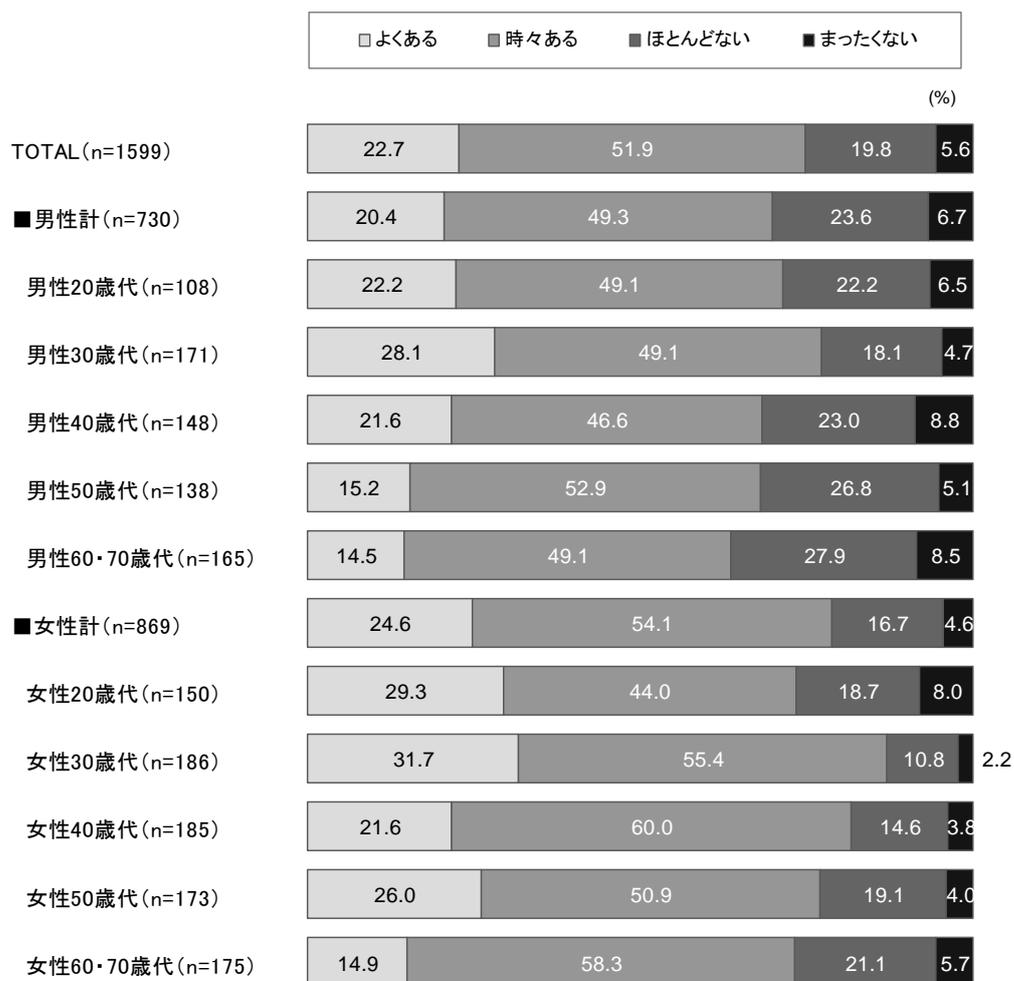


② 外用薬（湿布、目薬、軟膏など）

外用薬（湿布、目薬、軟膏など）の使い残しが「よくある」は22.7%、「時々ある」は51.9%で、7割強（74.6%）は外用薬を使い残すことがあると回答している。

性・年代別に見ると、女性30・40歳代では8割以上が外用薬を使い残すことがある（「よくある」＋「時々ある」）と回答している。

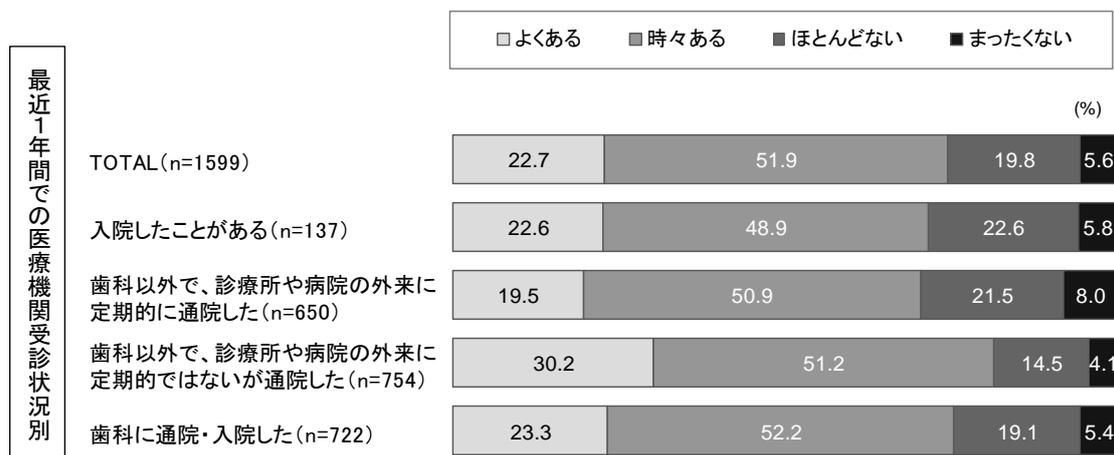
問19 外用薬の残薬の有無【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



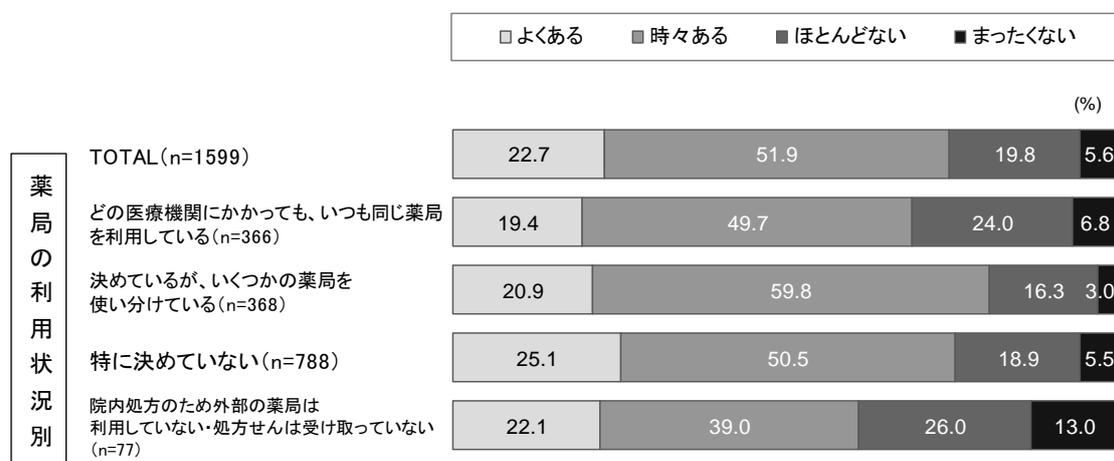
最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外に定期的ではないが通院した』人は使い残すことが「よくある」割合が高く、3割（30.2%）を占める。

薬局の利用状況別（p.33：問16参照）別に見ると、『特に決めていない』人は外用薬を使い残すことが「よくある」割合が高い。

問19 外用薬の残薬の有無【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



問19 外用薬の残薬の有無【ベース：最近1年間での医療機関利用者】



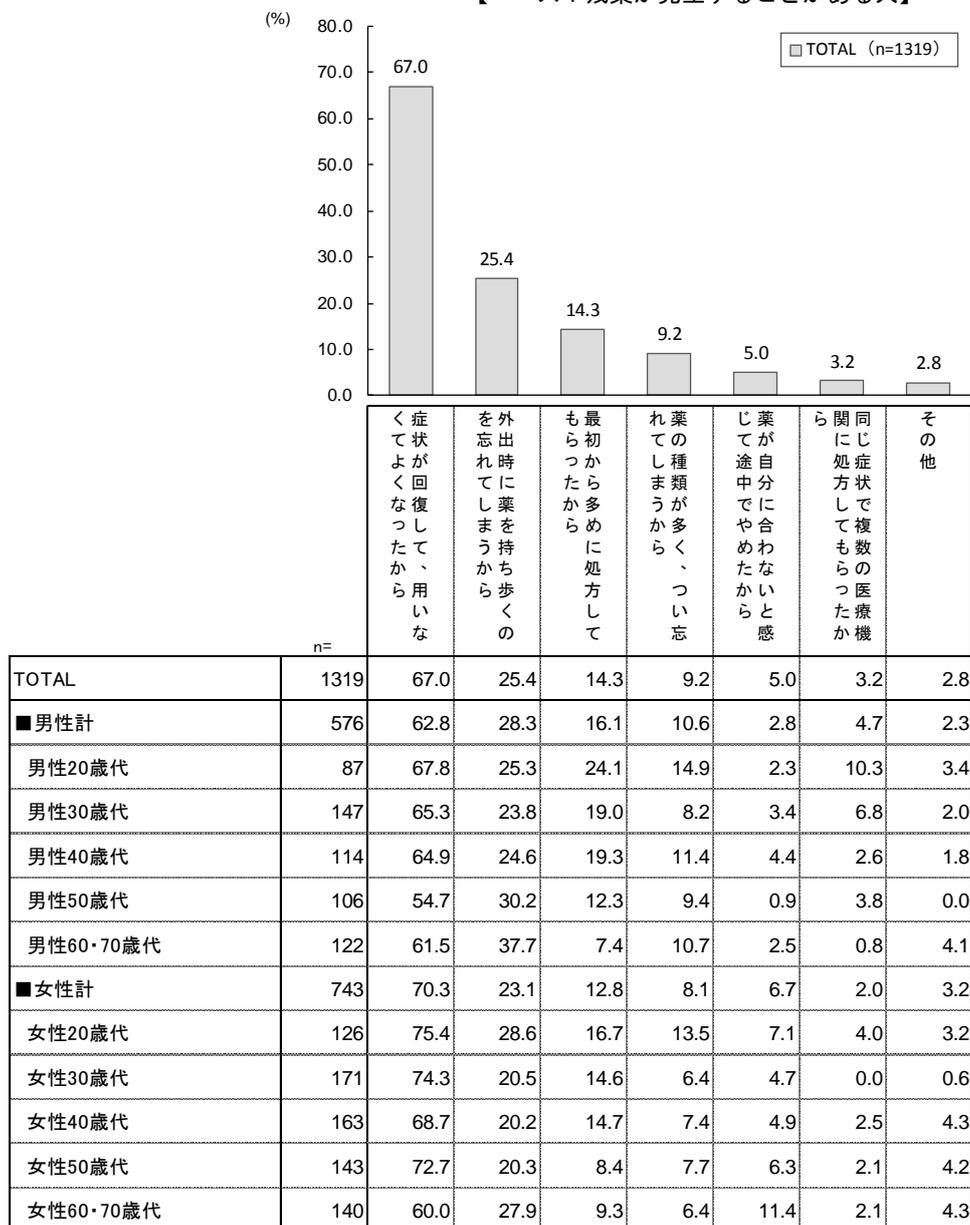
### 3. 4. 6 残薬が生じた理由（問19付問1）

付問1 飲み残し、使い残しが生じた理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）  
 【ベース：残薬が発生することがある人】

残薬が生じる理由は、「症状が回復して、用いなくてよくなったから」（67.0%）が最も多く、次いで「外出時に薬を持ち歩くのを忘れてしまうから」（25.4%）、「最初から多めに処方してもらったから」（14.3%）の順である。

性・年代別に見ると、「症状が回復して、用いなくてよくなったから」という理由は女性に多く、20・30歳代では75%前後にのぼる。男性60・70歳代では「外出時に薬を持ち歩くのを忘れてしまうから」、男性20・30歳代では「同じ症状で複数の医療機関に処方してもらったから」の割合が高い。

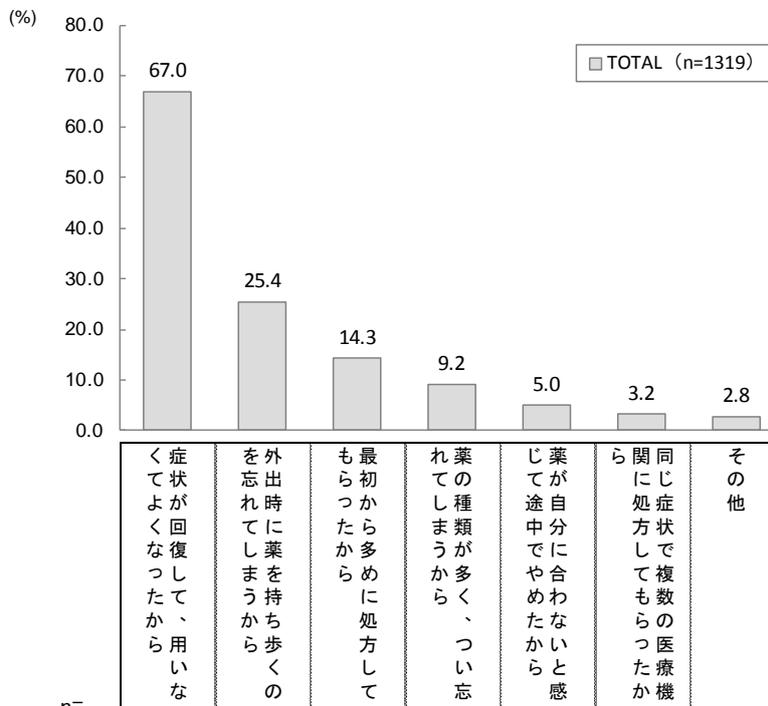
付問1 残薬が生じた理由（複数回答）  
 【ベース：残薬が発生することがある人】



薬局の利用状況別（p.33：問 16 参照）に見ると、『特に決めていない』人では、「症状が回復して、用いなくてよくなったから」（71.4%）の割合が高い。

付問 1 残薬が生じた理由（複数回答）

【ベース：残薬が発生することがある人】

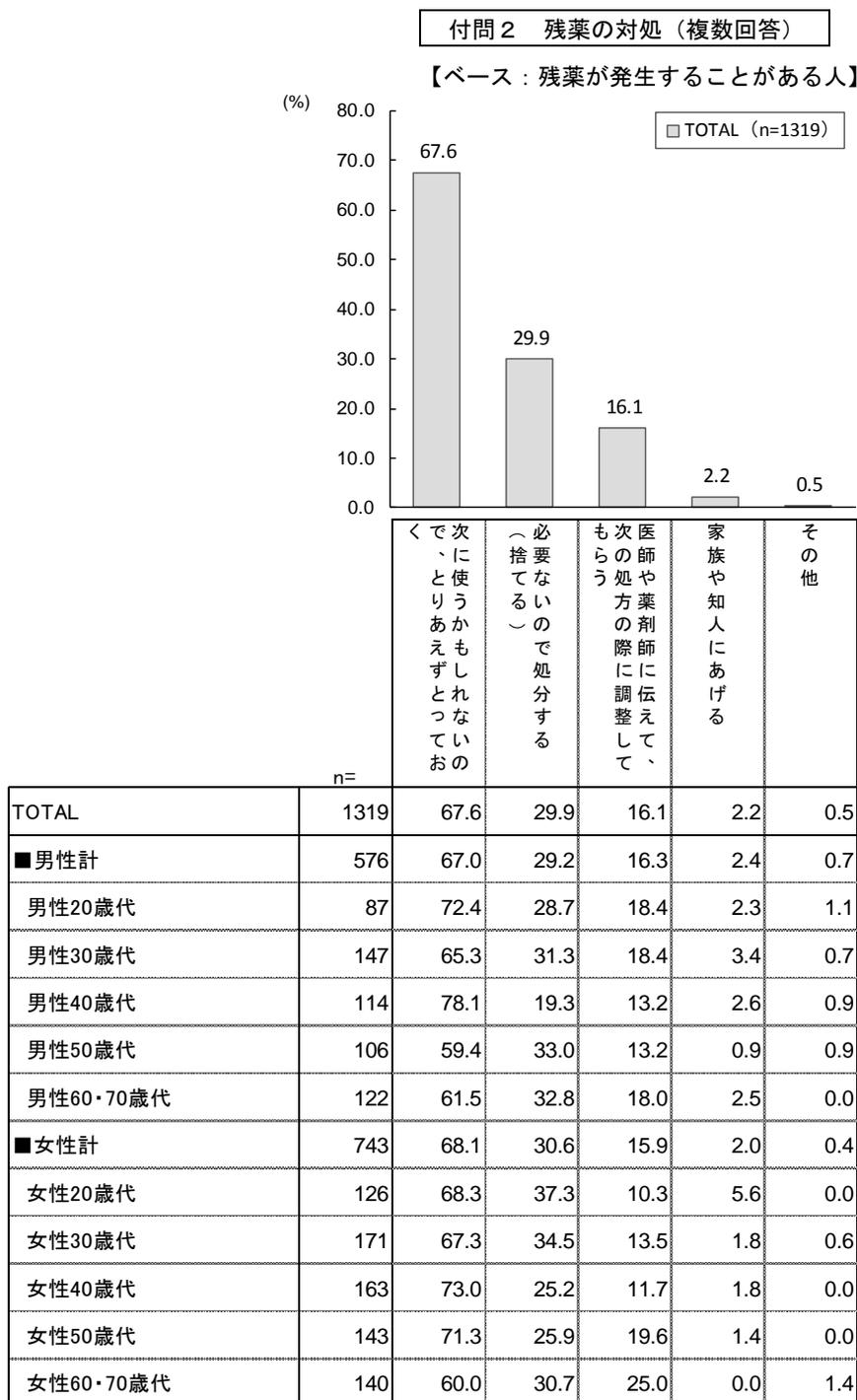


	n=	く症状がよく回復して、用いなく	を外出時に薬を持ち歩くのを忘れてしまったから	も最初から多めに処方してしまっ	れ薬の種類が多いため、つい忘れ	じ薬が途中で合わないと感じ	ら同じ処方でも複数の医療機関	その他
TOTAL	1319	67.0	25.4	14.3	9.2	5.0	3.2	2.8
どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している	287	60.3	24.0	15.0	9.4	4.5	4.2	3.8
決めているが、いくつかの薬局を使い分けている	322	62.4	24.2	14.6	13.4	5.6	5.9	1.9
特に決めていない	658	71.4	27.2	14.0	7.6	5.2	1.7	2.4
院内処方のため外部の薬局は利用していない・処方せんは受け取っていない	52	76.9	17.3	11.5	1.9	1.9	0.0	7.7

### 3. 4. 7 残薬の対処（問19付問2）

付問2 薬が残った場合はどのように対処していますか。（回答は該当するものすべて）  
 【ベース：残薬が発生することがある人】

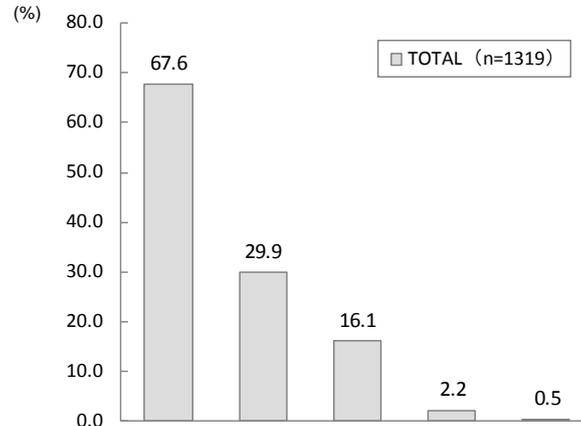
薬が残った場合の対処としては、「次に使うかもしれないので、とりあえずとっておく」が7割弱（67.6%）と最も割合が高く、次いで「必要ないので処分する（捨てる）」が3割（29.9%）である。  
 性・年代別に見ると、女性60・70歳代では「医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう」が2割強（25.0%）と他の層よりも高い。



薬局の利用状況別（p.33：問 16 参照）に見ると、利用する薬局が決まっている人では「医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう」割合が高いのに対し、『特に決めていない』人では、1割（10.0%）と低い割合にとどまっている。

付問 2 残薬の対処（複数回答）

【ベース：残薬が発生することがある人】

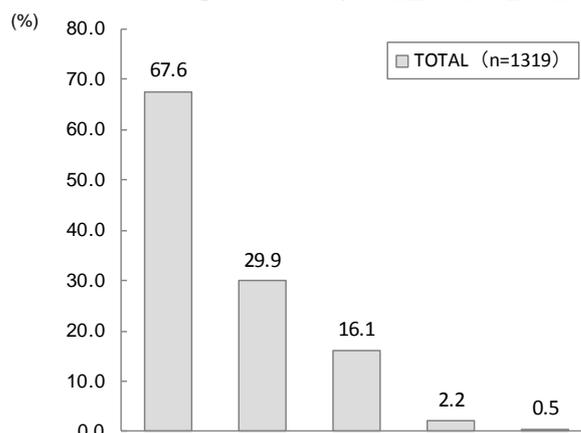


	n=	次、と使うあかもせずとれないおの	必要なので処分する	医師や薬剤師に伝えて、	家族や知人にあげる	その他
TOTAL	1319	67.6	29.9	16.1	2.2	0.5
どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している	287	63.1	30.7	20.9	1.7	0.7
決めているが、いくつかの薬局を使い分けている	322	66.8	28.3	23.3	3.1	0.6
特に決めていない	658	69.6	31.5	10.0	2.0	0.3
院内処方のため外部の薬局は利用していない・処方せんは受け取っていない	52	73.1	17.3	21.2	1.9	1.9

最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は「医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう」割合が高い。『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』人は、「医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう」割合が低く、「次に使うかもしれないので、とりあえずとっておく」割合が高い。

付問2 残薬の対処（複数回答）

【ベース：残薬が発生することがある人】



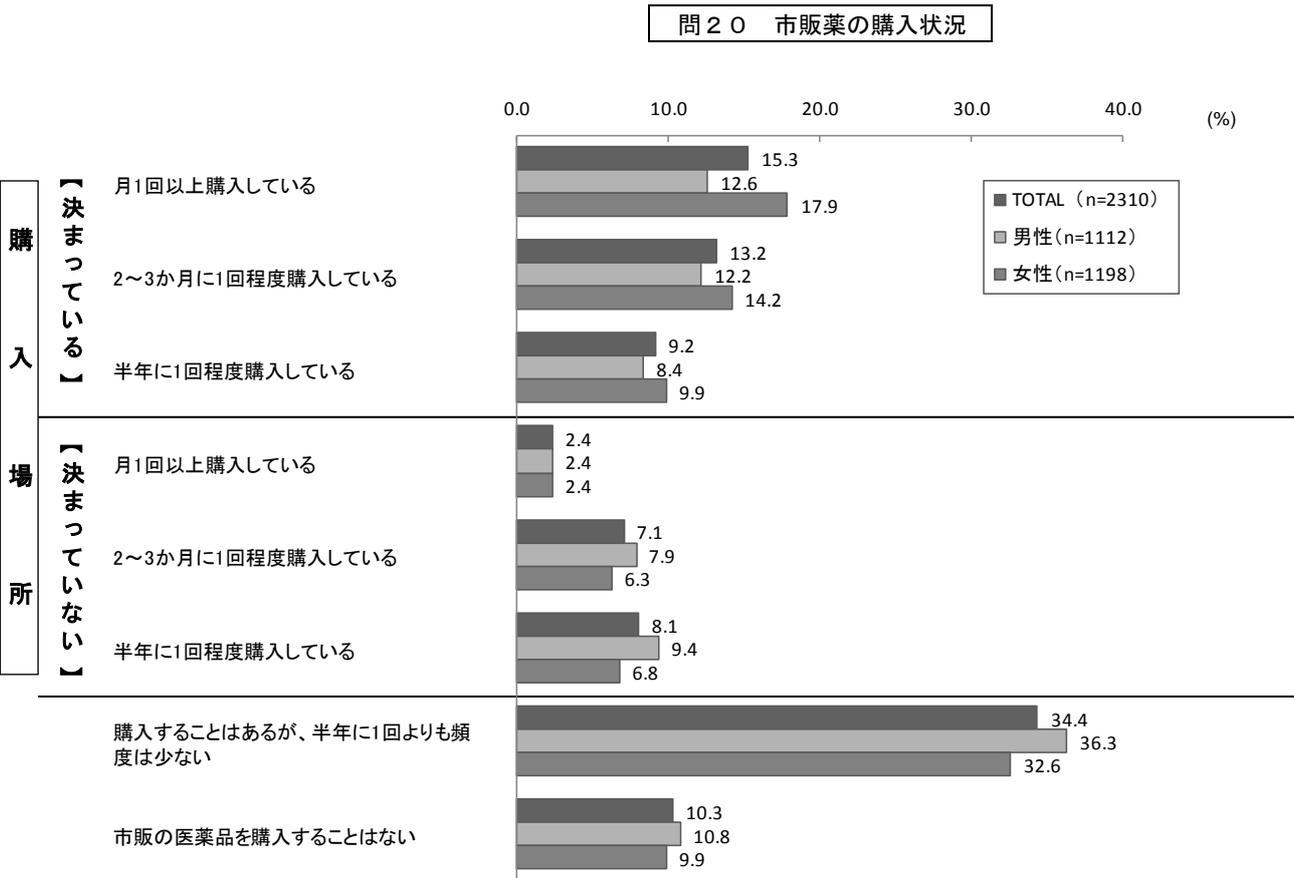
	n=	次に使うかもしれないのでとっておく	必要ないので処分する（捨てる）	医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう	家族や知人にあげる	その他
TOTAL	1319	67.6	29.9	16.1	2.2	0.5
入院したことがある	109	63.3	34.9	19.3	3.7	2.8
歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した	528	63.1	28.0	25.6	2.8	0.8
歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した	653	74.4	29.2	11.5	2.5	0.6
歯科に通院・入院した	600	68.5	30.7	17.0	2.2	0.3

### 3. 4. 8 市販薬の購入状況（問20）

問20 あなたは、市販の医薬品を購入する場合、利用する薬局やドラッグストアは決まっていますか。購入する方は、購入頻度も合わせてお答えください。（回答は1つ）

市販の医薬品を購入する際、利用する薬局やドラッグストアが決まっているのは4割弱（37.7%）、購入する頻度が少ない、または購入することはない人が4割強（44.7%）を占めている。

性別に見ると、男性よりも女性の方が市販の医薬品を購入することが多く、特に、決まった薬局・ドラッグストアで月1回以上購入している人が2割弱（17.9%）と高い割合である。



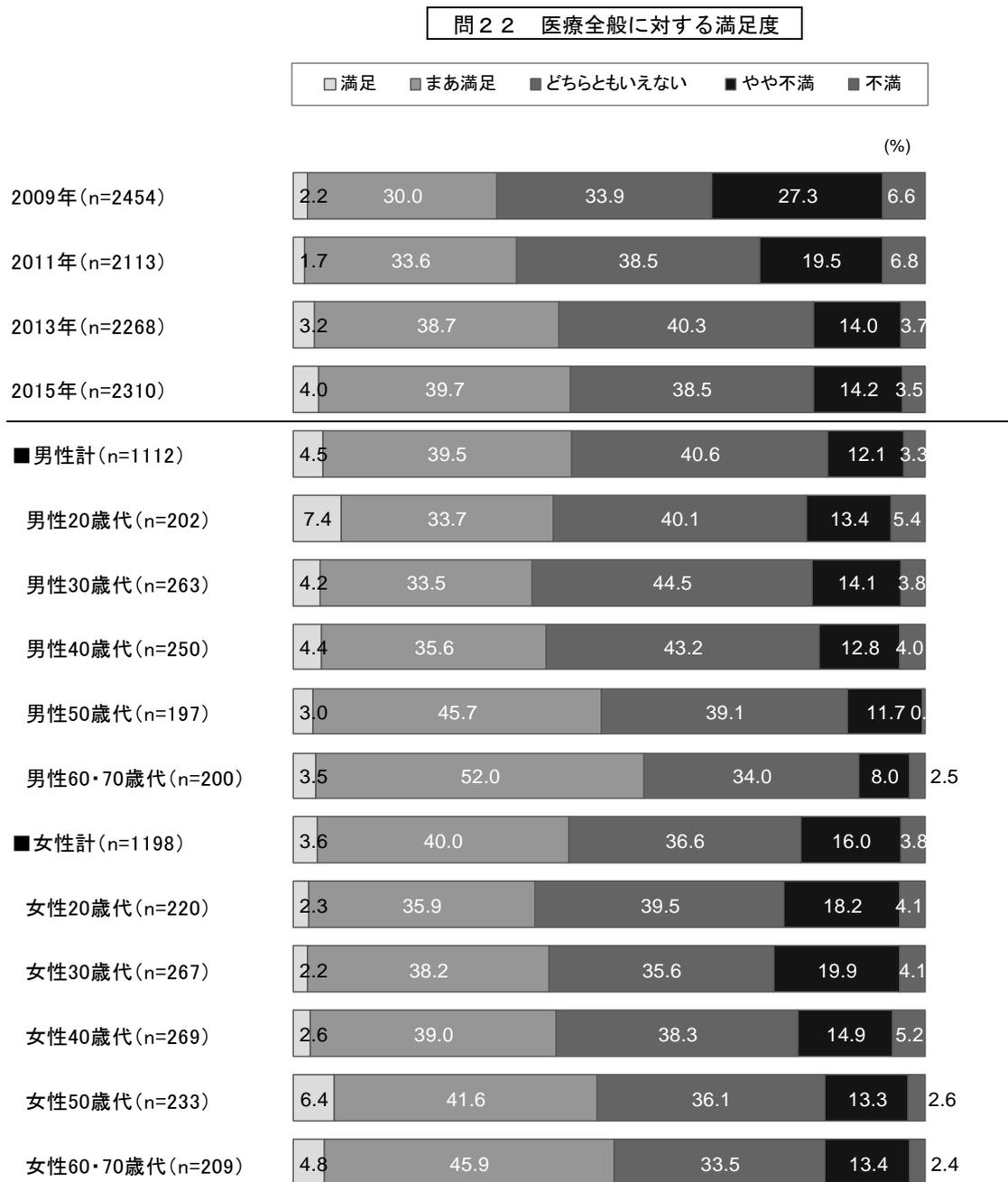
### 3. 5 医療制度に関する意識

#### 3. 5. 1 医療全般に対する満足度（問22）

問22 あなたは、受診のしやすさや、受診した際の自己負担や健康保険料など、日本の医療水準を総合的に考えると、医療全般についてどの程度満足していますか。（回答は1つ）

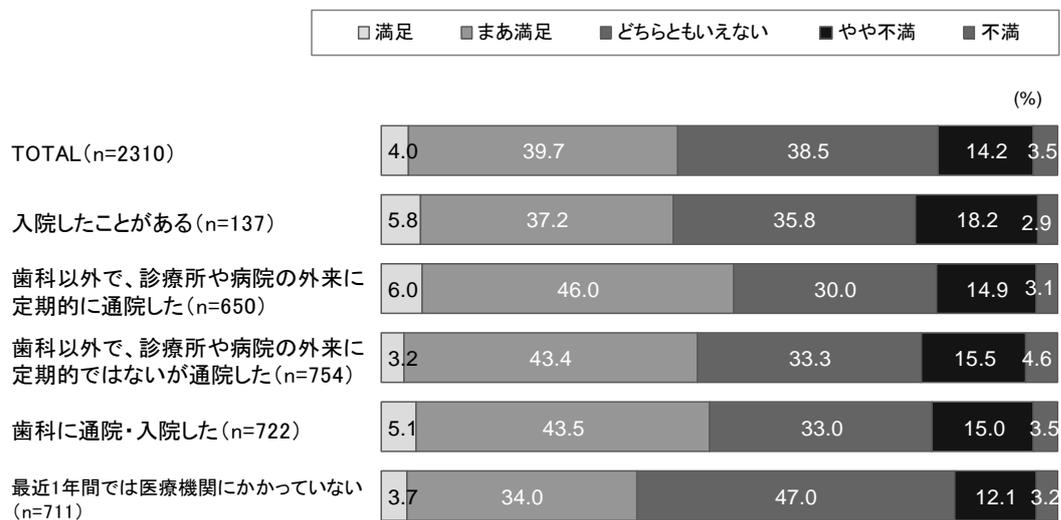
日本の医療全般に対しては、「満足」と「まあ満足」を合わせて4割（43.7%）がおおむね満足と回答している。2009年以降、「満足」、「まあ満足」の割合は徐々に高くなっており、2009年は32.2%だった満足度が、11.5ポイント上昇している。

性年代別に見ると、男女ともに60・70歳代以上は半数以上がおおむね満足と回答しており、他の層よりも高い割合である。



最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）を見ると、受診機会があった人の方が満足度が高く、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』、『歯科に通院・入院した』人の半数前後はおおむね満足（「満足」＋「まあ満足」）と回答している。

問2 2 医療全般に対する満足度

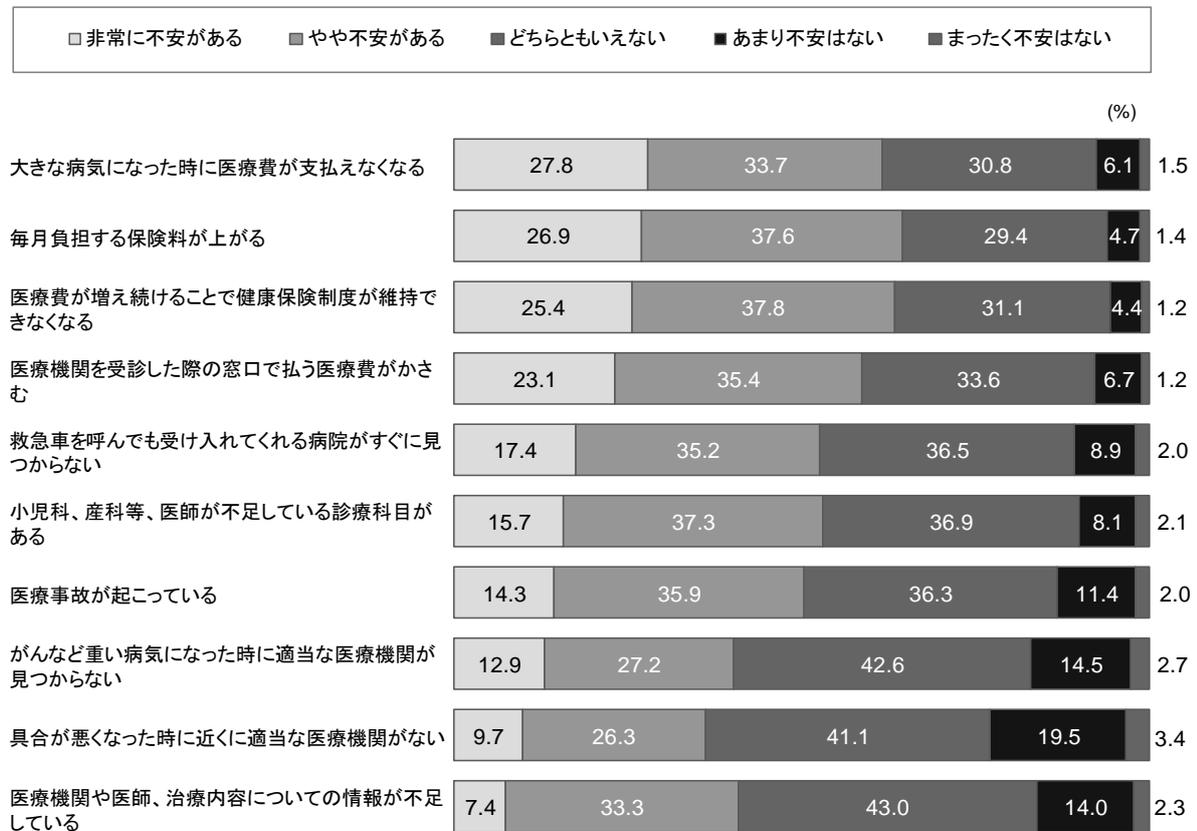


### 3. 5. 2 医療全般に対する不安（問23）

問23 あなたは医療全般に関し、次の項目についてどの程度不安に感じていますか。項目ごとにお答えください。（回答は横の行ごとに1ずつ）

医療に対する不安を「非常に不安がある」の割合が高い順に見ると、「大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる」（27.8%）、「毎月負担する保険料が上がる」（26.9%）、「医療費が増え続けることで健康保険制度が維持できなくなる」（25.4%）、「医療機関を受診した際の窓口で払う医療費がかさむ」（23.1%）となっており、医療費負担に対する不安が大きい。

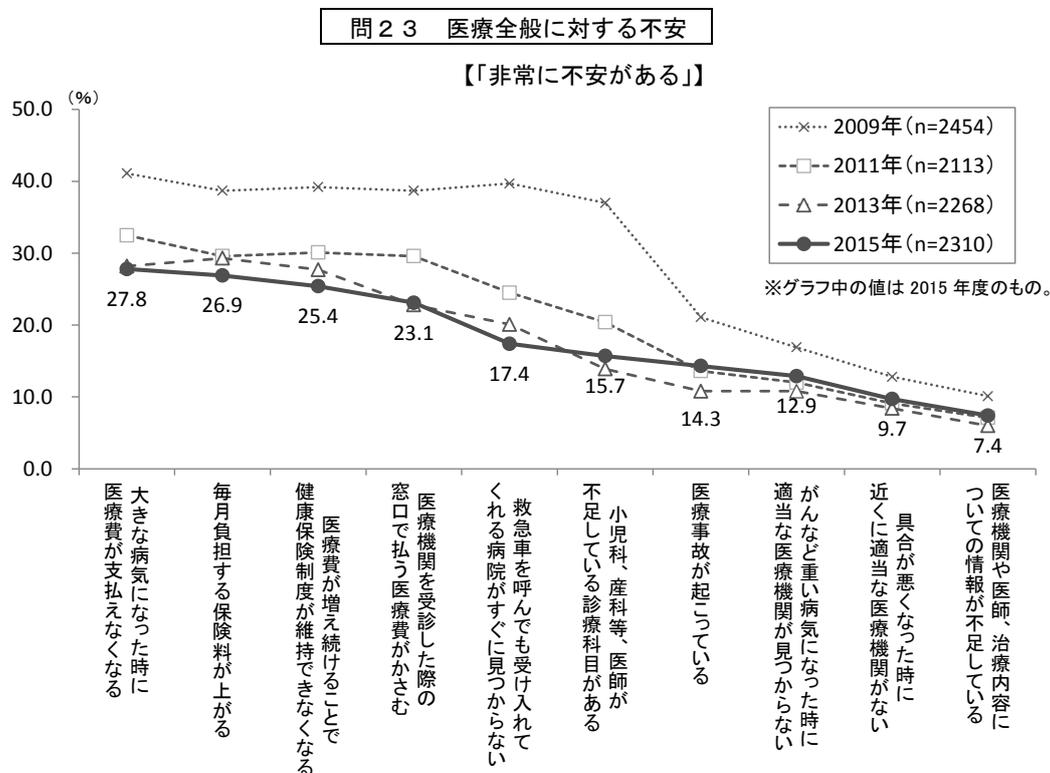
問23 医療全般に対する不安



(いずれもn=2310)

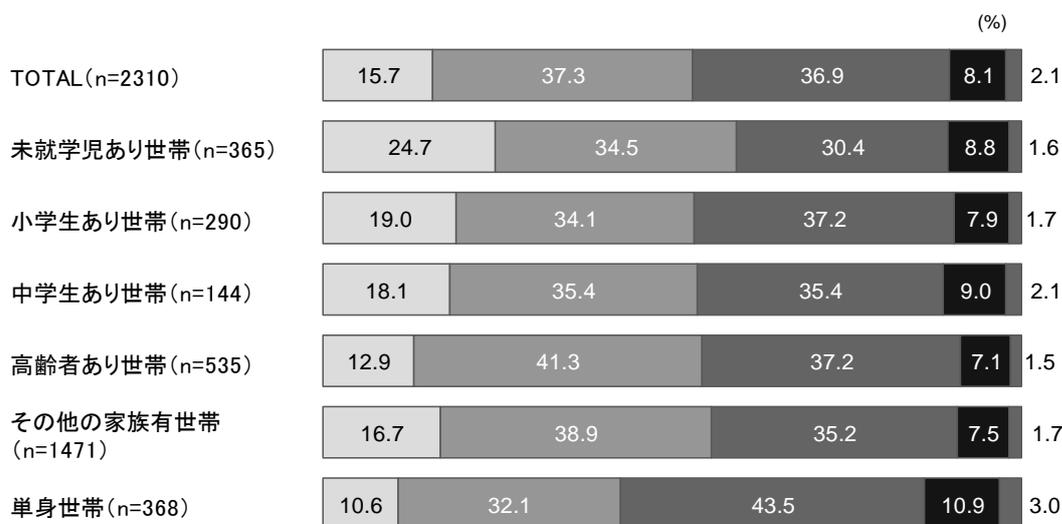
2009年以降の「非常に不安がある」の推移を見ると、全体的に「非常に不安がある」とする割合は低くなってきており、2013年とほぼ同程度の結果である。

世帯構成別に見ると、「小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある」については、『未就学児あり世帯』の人の不安が高く、「非常に不安がある」が2割強（24.7%）である。



**問 2 3 医療全般に対する不安（小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある）**

□ 非常に不安がある ■ やや不安がある ■ どちらともいえない ■ あまり不安はない ■ まったく不安はない



付問1 上記以外で医療全般に関し、不安に感じていることがあればご自由にお書きください。

医療全般に関して不安に感じていることとしては、「医療費の高さ、今後の自己負担の増加」という費用面の不安が最も多く、今後医療費が支払えなくなるのではないかと、医療費負担が重いので受診を控えている、といった意見が見られた。次いで、「医療機関・医師の質（知識や技術、モラル等）」、「保険料の高さ、今後の負担の増加」、「大病・難病や入院時の治療内容、医療費」と続き、必要な時に適切な医療が受けられるかどうかを心配する声が多く寄せられている。

2013年と比較すると、「医療費の高さ、今後の自己負担の増加」に関する記述が最も多いのは変わっていない。「大病・難病や入院時の治療内容、医療費」、「夜間・休日や救急対応（たらいまわし）」、「医療ミス・誤診」等に関する記述件数は増加している。

＜医療全般に関して、不安に感じていること＞

No.	主な内容	件数
1	医療費の高さ、今後の自己負担の増加	92
2	医療機関・医師の質（知識や技術、モラル等）	46
3	保険料の高さ、今後の負担の増加	30
4	大病・難病や入院時の治療内容、医療費	27
5	夜間・休日や救急対応（たらいまわし）	23
5	無駄の多さ（過剰投薬・検査、安易な受診等）	23
5	診療時間に対する不満（待ち時間が長い・診察時間が短い）	23
8	親身・信頼できる医師や医療機関の不足	21
9	健康保険や医療制度の破綻	20
10	医師・看護師・診療科の不足	19
11	老後の医療や生活に対する不安	18
12	将来に関する漠然とした不安	17
13	高齢化による医療費の増大	16
14	高齢者・生活保護受給者の受診頻度や負担に対する不満	15
14	医療ミス・誤診	15

＜参考：医療全般に関して、不安に感じていること（2013年）＞

No.	主な内容	件数
1	医療費の高さ、今後の自己負担の増加	139
2	将来に関する漠然とした不安	52
3	医師不足、小児科・産科等の診療科不足	42
4	医師の質（知識や技術、モラル等）	42
5	医療の地域格差	39
6	保険料の高さ、今後の負担の増加	37
7	高齢者の受診頻度増や医療費負担の増加	29
8	国の対応（保険料、医療費、薬の認定、制度等）に不満	27
9	過剰な投薬・無駄な受診	24
10	健康保険や医療制度の破綻	23
11	時間がかかる受診	23
12	病院や医師選びの情報不足	21
13	親身になってくれる医師・信用できる医師不足	18
14	夜間や救急対応（たらいまわし）	16
14	医療費（詳細等）が不明瞭	16

※2013年調査を基に今年度調査の記述内容を分類しているが、記述内容に合わせて細分化や分類名の修正を行ったため、2013年とは分類名が一致しないものがある。

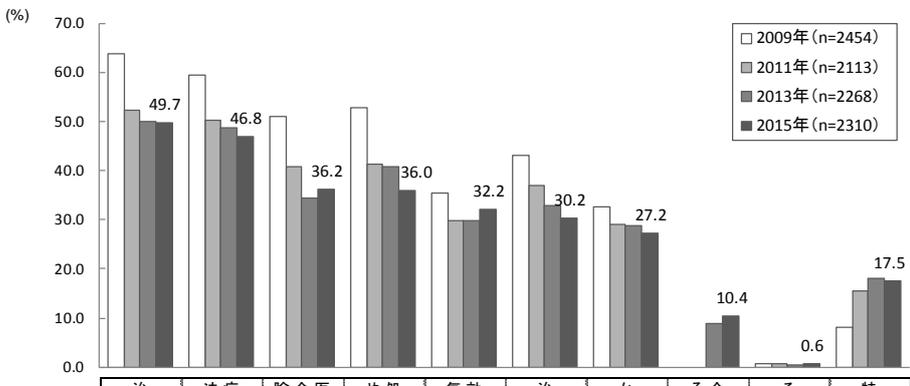
### 3. 5. 3 健康や医療についてほしい情報（問24）

問24 あなたは健康や医療についてどのような情報をほしいと思いますか。（回答は該当するものすべて）

医療や健康についてほしい情報としては、「治療にかかる費用の目安」（49.7%）、「病気の原因や症状、治療法」（46.8%）の割合が高い。2009年以降、全体的に情報を必要とする回答割合は低くなり、「特にない」が徐々に高まっている。

性・年代別に見ると、男性に比べ女性の方が情報をほしいと回答する割合が高く、特に「治療にかかる費用の目安」については女性20～50歳代の半数以上がほしいと回答している。また、「介護保険サービスに関する情報」は女性50歳代以上で高く、2割がほしい情報であるとしている。

問24 健康や医療についてほしい情報（複数回答）



	n=	治療にかかる費用の目安	病気の原因や症状、治療法	保険制度の自己負担など健康保険	医療費が高額になった場合	処方される薬の効能効果や副作用	効果的な健康づくりや病気の予防方法	治療にかかる期間	かかりつけ医の選び方	介護保険サービスに関する情報	その他	特にない
2009年	2454	63.7	59.4	51.1	52.8	35.5	43.0	32.5	0.0	0.7	8.0	
2011年	2113	52.3	50.2	40.8	41.4	29.7	37.0	29.1	0.0	0.7	15.4	
2013年	2268	50.0	48.7	34.4	40.8	29.8	32.8	28.9	8.9	0.4	18.0	
2015年	2310	49.7	46.8	36.2	36.0	32.2	30.2	27.2	10.4	0.6	17.5	
■男性計	1112	44.0	42.4	29.9	31.0	31.7	27.0	23.7	6.7	0.5	23.0	
男性20歳代	202	43.6	42.1	29.7	32.2	34.2	32.2	26.7	6.4	0.5	23.3	
男性30歳代	263	46.8	41.8	28.5	28.5	37.6	30.0	26.2	6.1	1.1	21.3	
男性40歳代	250	42.8	40.8	28.0	28.4	29.2	20.0	20.0	4.8	0.0	26.4	
男性50歳代	197	45.2	43.1	33.0	32.0	24.4	26.4	23.4	5.6	0.5	22.3	
男性60・70歳代	200	41.0	44.5	31.5	35.5	32.0	27.0	22.5	11.5	0.5	21.5	
■女性計	1198	55.1	50.9	42.1	40.6	32.6	33.1	30.5	13.9	0.6	12.4	
女性20歳代	220	57.7	49.1	42.3	41.8	35.9	34.5	33.2	7.7	0.9	15.0	
女性30歳代	267	55.8	46.8	39.3	38.2	31.1	35.6	30.3	8.2	0.4	13.5	
女性40歳代	269	57.6	51.3	44.2	38.3	28.6	36.1	31.6	13.8	0.4	12.3	
女性50歳代	233	54.9	57.9	44.2	41.2	36.9	30.5	28.8	19.3	0.4	9.4	
女性60・70歳代	209	48.3	49.8	40.2	44.5	31.6	27.8	28.2	21.5	1.0	12.0	

※「介護保険サービスに関する情報」は2013年から設定。

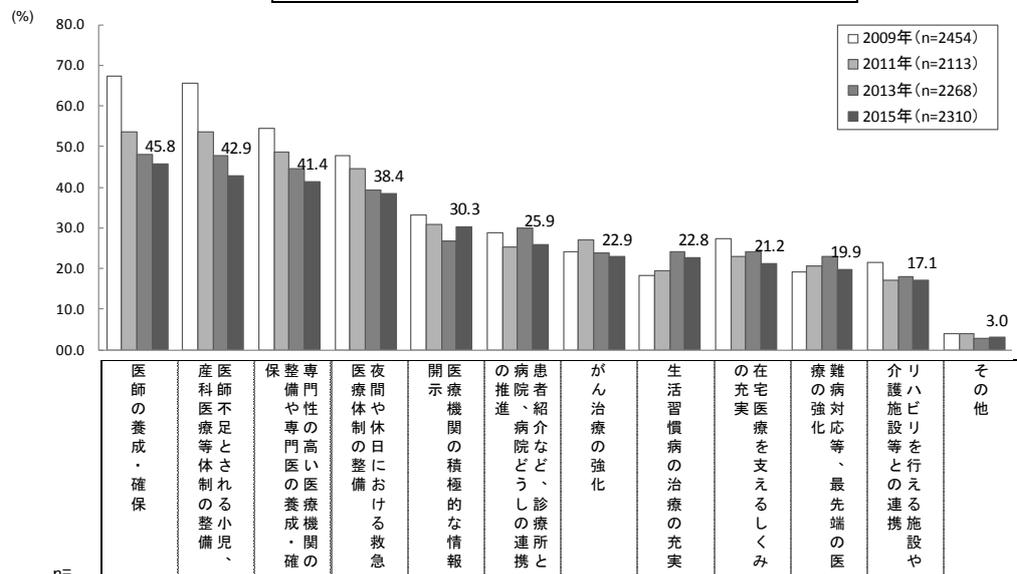
### 3. 5. 4 期待する医療政策（問31）

問31 あなたは、今後の日本の医療についてどのようなことを望みますか。特に希望したいことを5つまでお答えください。（回答は5つまで）

日本の医療に対して望むことは、「医師の養成・確保」（45.8%）、「医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備」（42.9%）、「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保」（41.4%）等の割合が高いが、これらの項目は2009年以降、徐々に割合は低下してきている。

性・年代別に見ると、女性20・30歳代では「医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備」や「夜間や休日における救急医療体制の整備」を求める割合が他の層よりも高い。また、男性60・70歳代と女性50歳代以上では「在宅医療を支えるしくみの充実」や「リハビリを行える施設や介護施設等との連携」といった在宅医療や介護の充実を望む割合が高い。

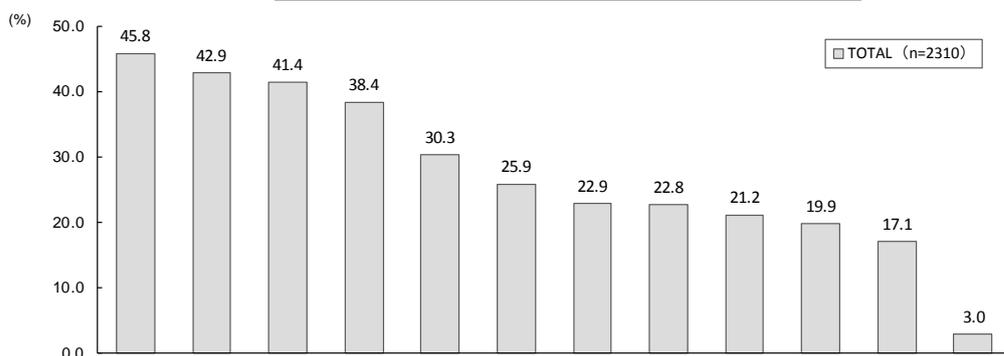
問31 期待する医療政策（複数回答：5つまで）



n=	2009年	2011年	2013年	2015年	■男性計	男性20歳代	男性30歳代	男性40歳代	男性50歳代	男性60・70歳代	■女性計	女性20歳代	女性30歳代	女性40歳代	女性50歳代	女性60・70歳代
2454	67.3	53.5	48.1	45.8	1112	202	263	250	197	200	1198	220	267	269	233	209
2113	65.7	53.7	47.8	42.9	46.3	47.0	46.8	45.6	45.7	46.5	45.2	45.5	51.7	46.1	44.2	36.8
2268	54.6	48.8	44.5	41.4	37.9	35.6	42.6	35.6	37.6	37.5	47.5	52.7	59.6	37.5	42.5	45.0
2310	47.9	44.6	39.4	38.4	40.7	29.7	39.2	40.0	44.2	51.5	42.0	33.6	44.6	42.4	44.6	44.0
	33.1	30.9	26.8	30.3	35.7	38.1	30.0	30.0	33.5	36.0	29.7	25.0	23.2	29.4	34.3	38.3
	28.7	25.3	30.0	25.9	22.1	20.3	19.8	18.4	23.4	30.5	29.5	20.5	25.8	32.7	34.8	33.5
	24.1	27.0	23.9	22.9	24.3	21.3	26.6	24.8	22.8	25.0	21.6	22.7	25.5	20.8	17.6	21.1
	18.3	19.6	24.1	22.8	18.2	18.3	10.6	21.6	25.9	25.0	22.9	23.2	16.5	17.8	25.8	34.0
	27.3	23.0	24.1	21.2	18.9	16.8	22.1	13.6	24.4	29.0	24.0	14.1	15.4	23.0	35.6	34.0
	19.2	20.5	23.0	19.9	20.8	22.3	12.5	18.4	11.2	19.5	20.8	27.7	19.1	17.5	18.0	23.0
	21.5	17.2	18.0	17.1	13.4	12.9	12.5	10.4	11.7	20.5	20.5	11.4	12.7	17.1	33.9	29.7
	3.9	4.0	2.7	3.0	3.3	2.0	5.3	3.2	1.5	4.0	2.8	0.9	2.2	5.6	2.6	1.9

本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がある』世帯の人は全体的にほかの層よりも望む割合が高く、特に「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保」（49.5%）、「患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進」（34.2%）、「生活習慣病の治療の充実」（28.7%）等の割合が高い。『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある』世帯の人は、「専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保」（56.4%）、「がん治療の強化」（32.1%）、『介護保険制度のサービスを利用している人がある』または『今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がありそうな人がある』世帯では、「在宅医療を支えるしくみの充実」や「リハビリを行える施設や介護施設等との連携」をあげる割合が高い。

問3 1 期待する医療政策（複数回答：5つまで）



	n=	医師の養成・確保	産科医療等体制の整備、医師不足とされる小児、保整備や専門性の高い医療機関の養成・確保	夜間や休日における救急医療体制の整備	開示医療機関の積極的な情報	患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進	がん治療の強化	生活習慣病の治療の充実	在宅医療を支えるしくみの充実	難病対応等、最先端の医療の強化	リハビリを行える施設や介護施設等との連携	その他	
TOTAL	2310	45.8	42.9	41.4	38.4	30.3	25.9	22.9	22.8	21.2	19.9	17.1	3.0
慢性疾患で現在治療中の人がある	568	47.2	46.0	49.5	40.5	32.6	34.2	22.7	28.7	27.1	23.6	22.2	3.7
心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある	140	52.9	39.3	56.4	45.0	32.9	32.1	32.1	27.9	20.7	22.9	15.7	2.9
介護保険制度のサービスを利用している人がある	138	42.0	44.2	43.5	43.5	28.3	31.2	13.8	23.2	28.3	21.0	28.3	5.1
今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がありそうな人がある	36	52.8	41.7	50.0	52.8	44.4	22.2	11.1	19.4	19.4	11.1	38.9	0.0
上記に当てはまる人はいない	1566	45.3	42.3	38.2	37.5	29.9	23.0	22.7	20.4	18.8	18.1	14.8	2.6

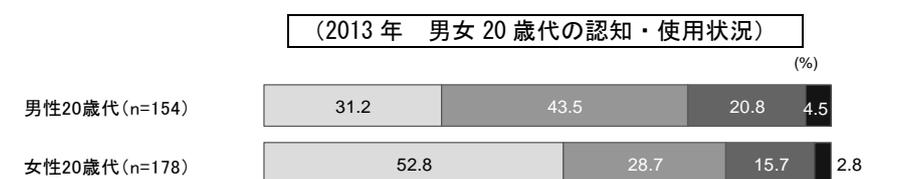
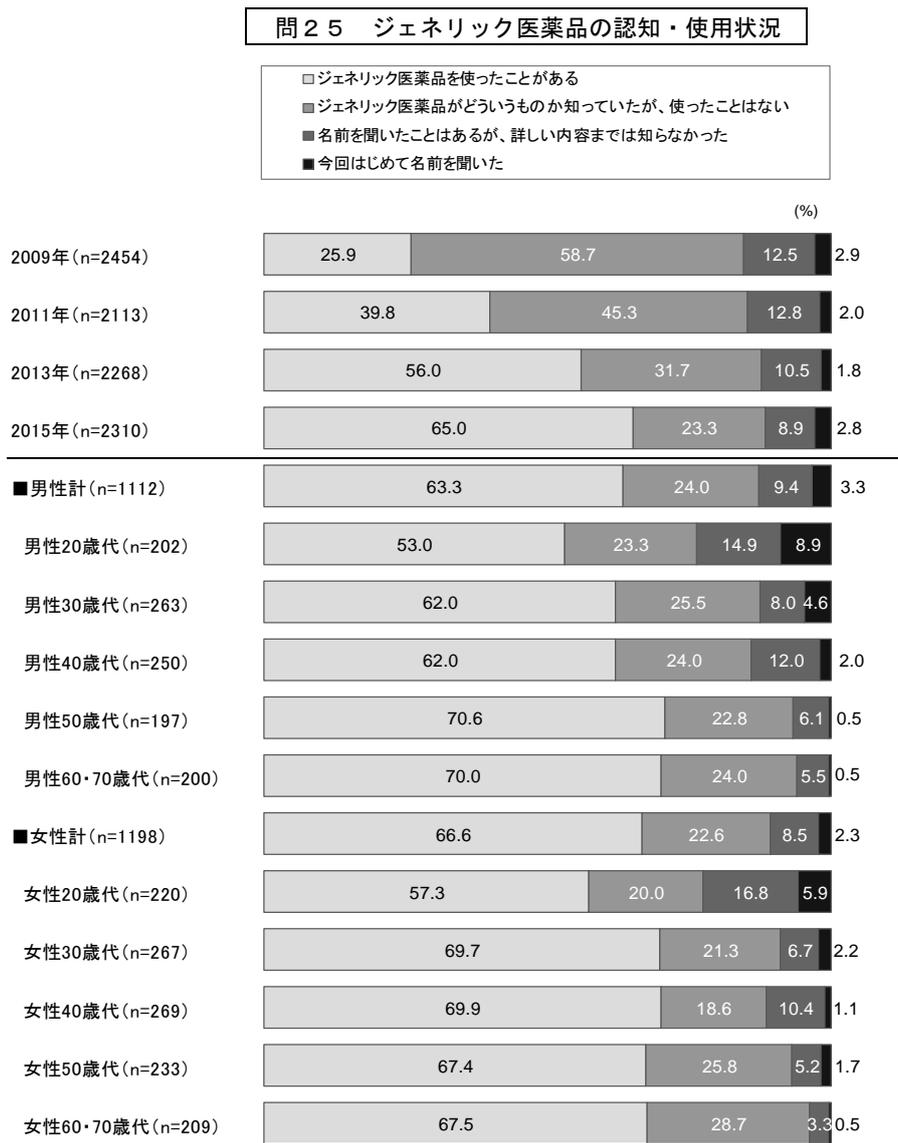
### 3. 6 医療制度の認知と状況

#### 3. 6. 1 ジェネリック医薬品の認知・使用状況（問25）

問25 あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。（回答は1つ）

「ジェネリック医薬品を使ったことがある」と回答したのは65.0%で、2013年と比べ9.0ポイント上昇している。「ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない」（23.3%）と合わせると認知率は9割弱（88.3%）であり、2013年（87.7%）とほぼ同程度である。

性・年代別に見ると、男女ともに20歳代の使用経験が少ないが、2013年に比べると上昇している。

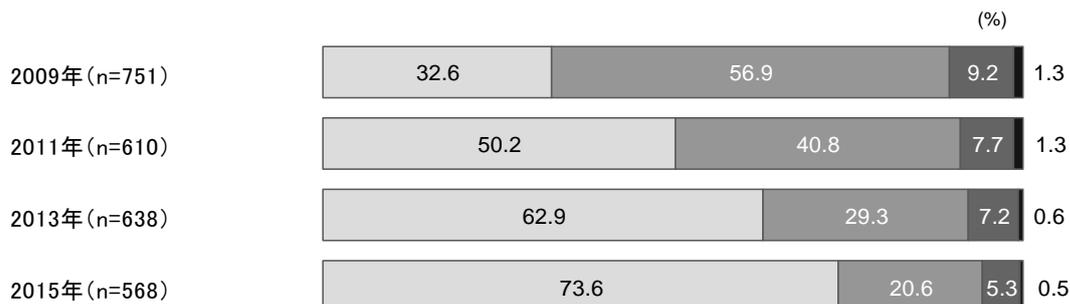


本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がある』世帯の人、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある』世帯の人は、「ジェネリック医薬品を使ったことがある」割合が高く、7割前後に使用経験がある。

**問25 ジェネリック医薬品の認知・使用状況**

**【慢性疾患で現在治療中の人がある】**

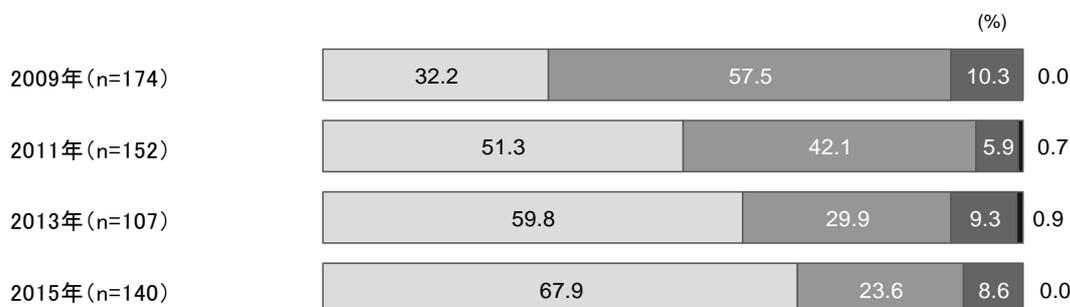
- ジェネリック医薬品を使ったことがある
- ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
- 名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
- 今回はじめて名前を聞いた



**問25 ジェネリック医薬品の認知・使用状況**

**【心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある】**

- ジェネリック医薬品を使ったことがある
- ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
- 名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
- 今回はじめて名前を聞いた



### 3. 6. 2 ジェネリック医薬品の未使用理由（付問1）

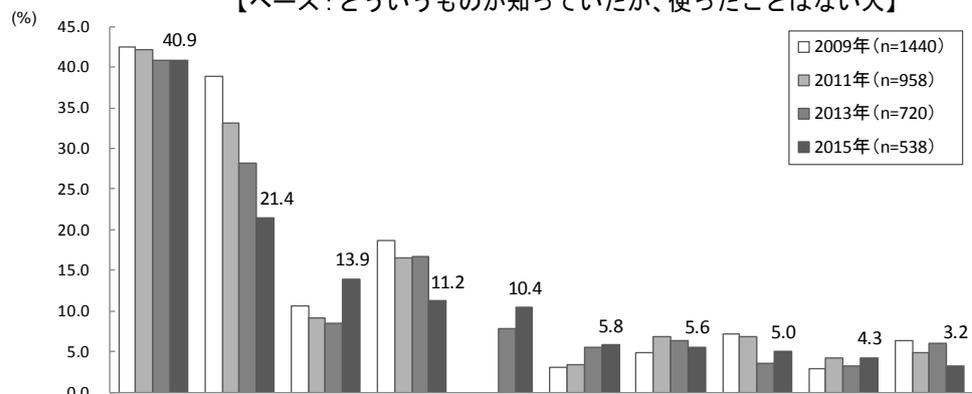
付問1 「どういものか知っていたが、使ったことはない」のは、どのような理由からですか。（回答は該当するものすべて） 【ベース：どういものか知っていたが、使ったことはない人】

「医療機関を受診していない、または受診しても投薬されなかったから」を除くと、「医師や薬剤師から話をしてくれないと、自分からは言い出せないから」が2割（21.4%）と最も高いが、その割合は2009年以降、年々低下している。次いで高いのが「効き目や安全性に不安があるから」（13.9%）であるが、この項目については2013年よりも5.4ポイント上昇している。

性・年代別に見ると、「効き目や安全性に不安があるから」をあげるのは女性に多く、特に50歳代以上でその割合が高い。

付問1 ジェネリック医薬品の未使用理由（複数回答）

【ベース：どういものか知っていたが、使ったことはない人】



	n=	さい医療機関を受診しなかつたから	いく医療機関を受診しなかつたから	る効き目や安全性に不安があるから	入手方法が分からないから	薬もその代用品が出ていないから	あまり安くならないから	だりジェネリック医薬品への切り替えが難しい処方せん	今の薬を変えたくないから	なしたが、ジェネリック医薬品を希望するから	その他
2009年	1440	42.4	38.8	10.6	18.6	0.0	3.1	4.9	7.2	2.9	6.3
2011年	958	42.2	33.1	9.2	16.6	0.0	3.4	6.8	6.9	4.2	4.8
2013年	720	40.8	28.2	8.5	16.7	7.8	5.6	6.4	3.6	3.3	6.1
2015年	538	40.9	21.4	13.9	11.2	10.4	5.8	5.6	5.0	4.3	3.2
■男性計	267	38.6	22.5	7.1	11.6	10.5	7.5	6.7	4.5	4.9	3.4
男性20歳代	47	40.4	23.4	6.4	10.6	12.8	4.3	6.4	4.3	4.3	0.0
男性30歳代	67	40.3	17.9	9.0	20.9	6.0	14.9	3.0	3.0	4.5	3.0
男性40歳代	60	40.0	23.3	6.7	10.0	8.3	5.0	3.3	3.3	6.7	5.0
男性50歳代	45	42.2	20.0	6.7	8.9	6.7	2.2	11.1	4.4	4.4	4.4
男性60・70歳代	48	29.2	29.2	6.3	4.2	20.8	8.3	12.5	8.3	4.2	4.2
■女性計	271	43.2	20.3	20.7	10.7	10.3	4.1	4.4	5.5	3.7	3.0
女性20歳代	44	36.4	31.8	9.1	25.0	11.4	11.4	4.5	6.8	6.8	0.0
女性30歳代	57	33.3	26.3	21.1	10.5	12.3	3.5	5.3	5.3	3.5	1.8
女性40歳代	50	48.0	18.0	16.0	12.0	8.0	6.0	6.0	4.0	4.0	4.0
女性50歳代	60	55.0	18.3	23.3	6.7	6.7	0.0	5.0	5.0	3.3	5.0
女性60・70歳代	60	41.7	10.0	30.0	3.3	13.3	1.7	1.7	6.7	1.7	3.3

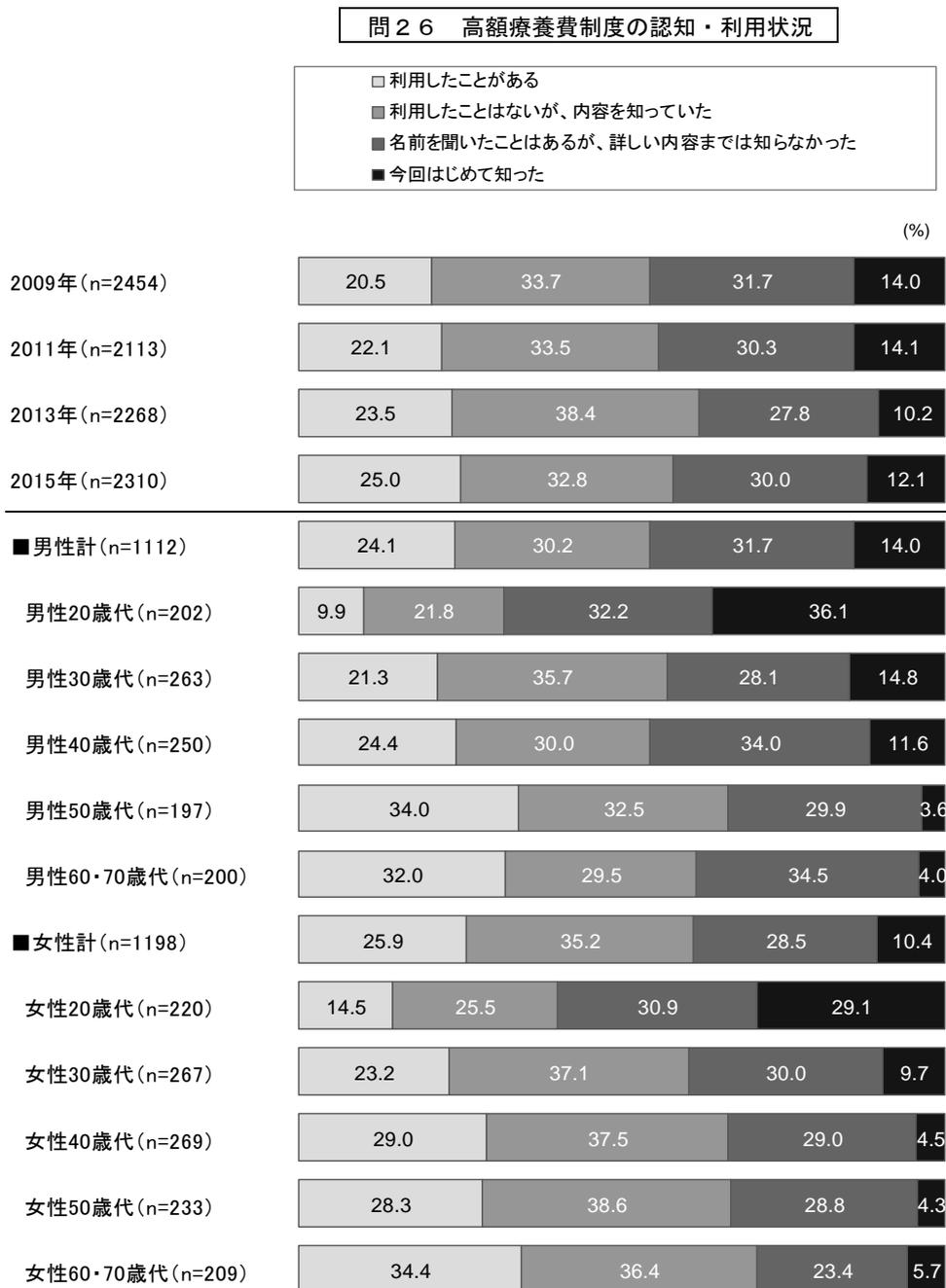
### 3. 6. 3 高額療養費制度および限度額適用認定証の認知・利用状況（問26）

問26 あなたは「高額療養費制度」および「限度額適用認定証」をご存知ですか。（回答はそれぞれ1つ）

#### ① 高額療養費

高額療養費制度を「利用したことがある」のは25.0%、「利用したことはないが、内容を知っていた」（32.8%）と合わせると認知率は6割弱（57.8%）である。2009年以降、「利用したことがある」割合は微増傾向にある。

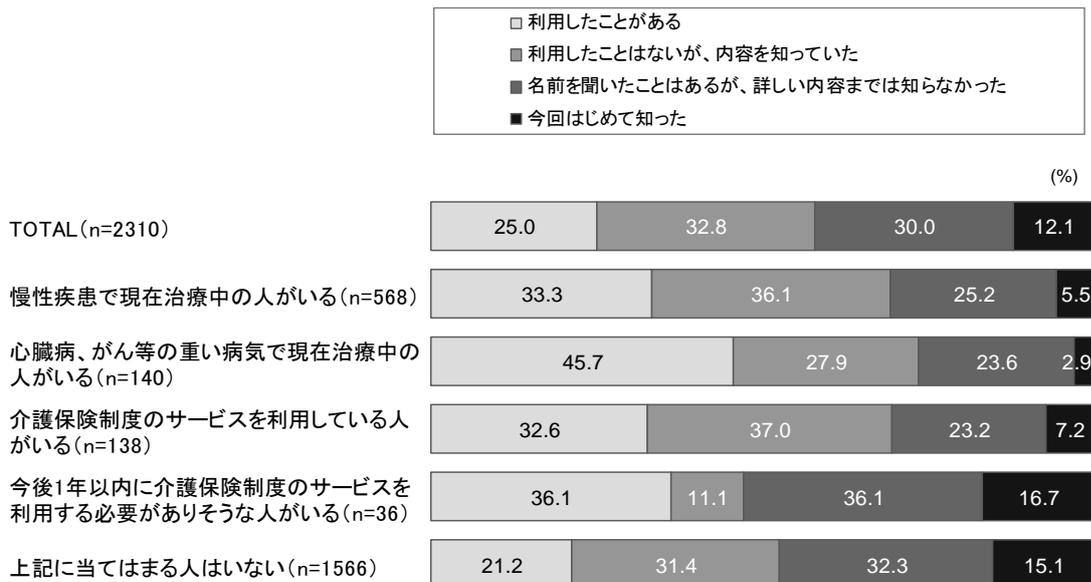
性・年代別に見ると、男女ともに年代が高いほど認知率も高い傾向にあり、男性50歳代以上、女性60・70歳代では「利用したことがある」割合が3割を超える。



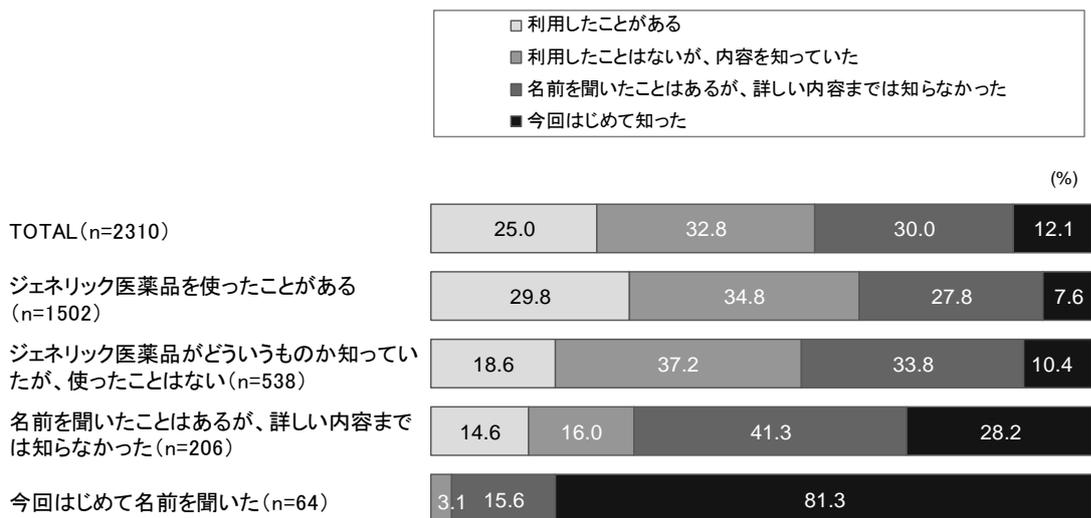
本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は「利用したことがある」割合が4割強（45.7%）と高い。

ジェネリック医薬品の認知・使用経験別（p.58：問25参照）に見ると、「ジェネリック医薬品を使ったことがある」人は3割（29.8%）が「利用したことがある」と回答しており、「利用したことはないが、内容を知っていた」と合わせると、認知率は6割強（64.6%）である。一方、「今回はじめて名前を聞いた」人では、高額療養費制度についても「今回はじめて知った」割合が8割（81.3%）と認知率が低い。

問26 高額療養費制度の認知・利用状況



問26 高額療養費制度の認知・利用状況

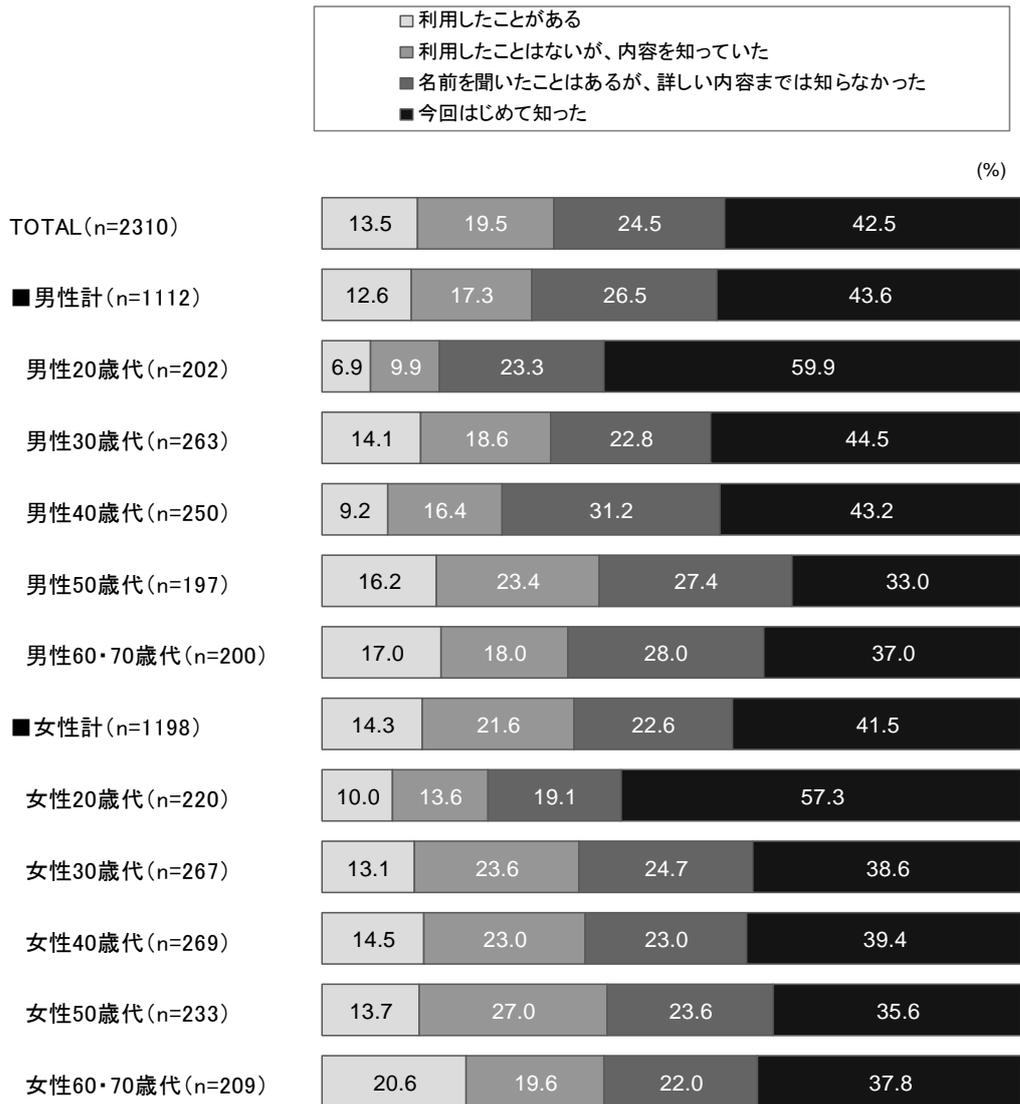


## ② 限度額適用認定証

限度額適用認定証を「利用したことがある」のは 13.5%、「利用したことはないが、内容を知っていた」(19.5%) と合わせると、認知率は3割(33.0%)である。

性・年代別に見ると、女性 60・70 歳代では「利用したことがある」が2割(20.6%)と、他の層よりも高い割合である。男女とも 20 歳代では認知率が低く、6割は「今回はじめて知った」と回答している。

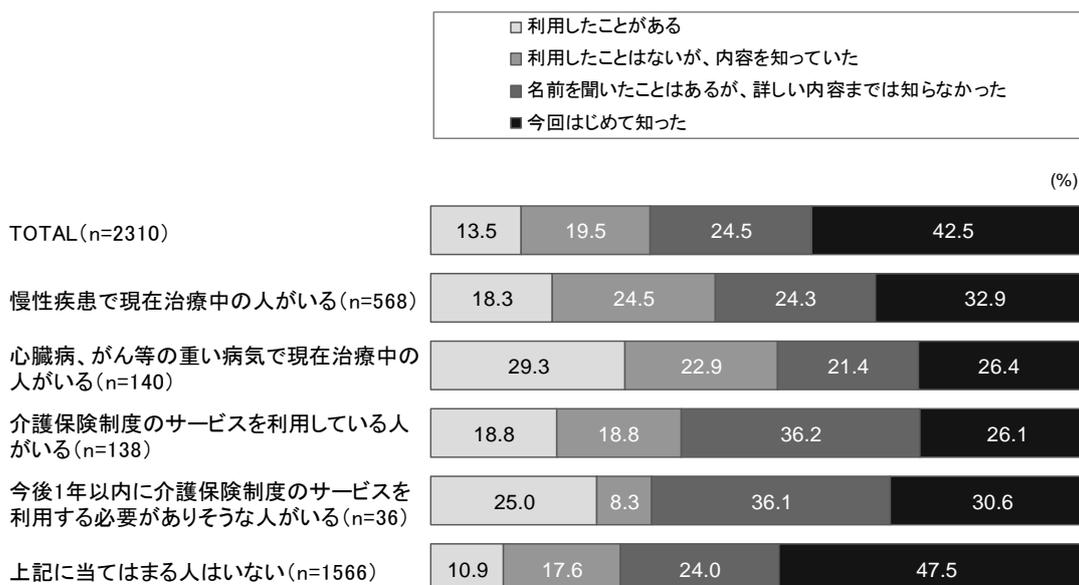
問 2 6 限度額適用認定証の認知・利用状況



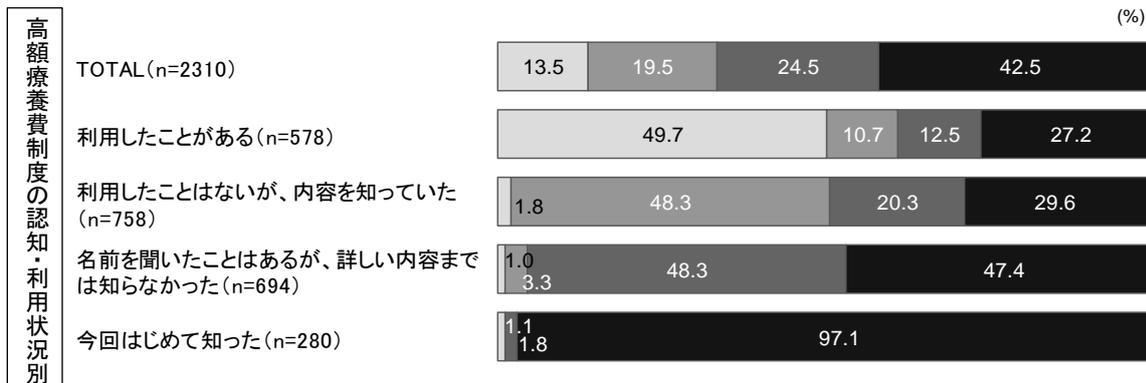
本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がいる』世帯の人は、3割（29.3%）が「利用したことがある」と回答しており、他の層よりも高い割合である。

高額療養費制度の認知・利用状況別（p.61：問26参照）に見ると、高額療養費制度を「利用したことがある」人の半数（49.7%）は、限度額適用認定証も「利用したことがある」と回答しており、「利用したことはないが、内容を知っていた」と合わせると、認知率は6割（60.4%）である。

問26 限度額適用認定証の認知・利用状況



問26 限度額適用認定証の認知・利用状況



### 3. 7 医療費負担

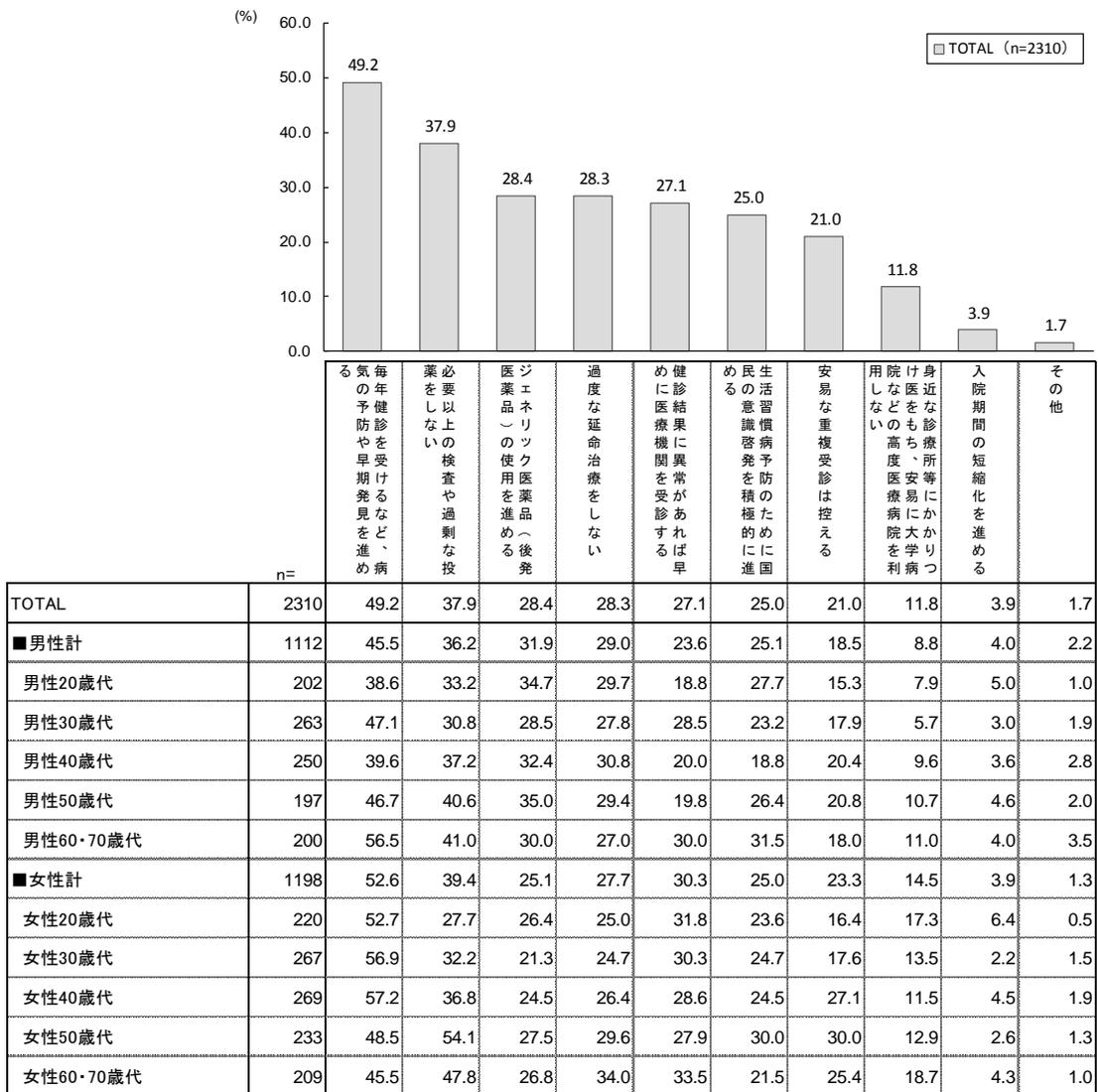
#### 3. 7. 1 医療費適正化に対する考え（問27）

問27 日本では高齢化や医療の高度化等によって、医療費は毎年増え続けています。あなたは、どのような取組みを進めるべきだと思いますか。特に必要だと思うものを3つまでに絞ってお答えください。（回答は3つまで）

医療費の増加に対する取組みとしては、「毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める」（49.2%）、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」（37.9%）等が上位にあげられている。

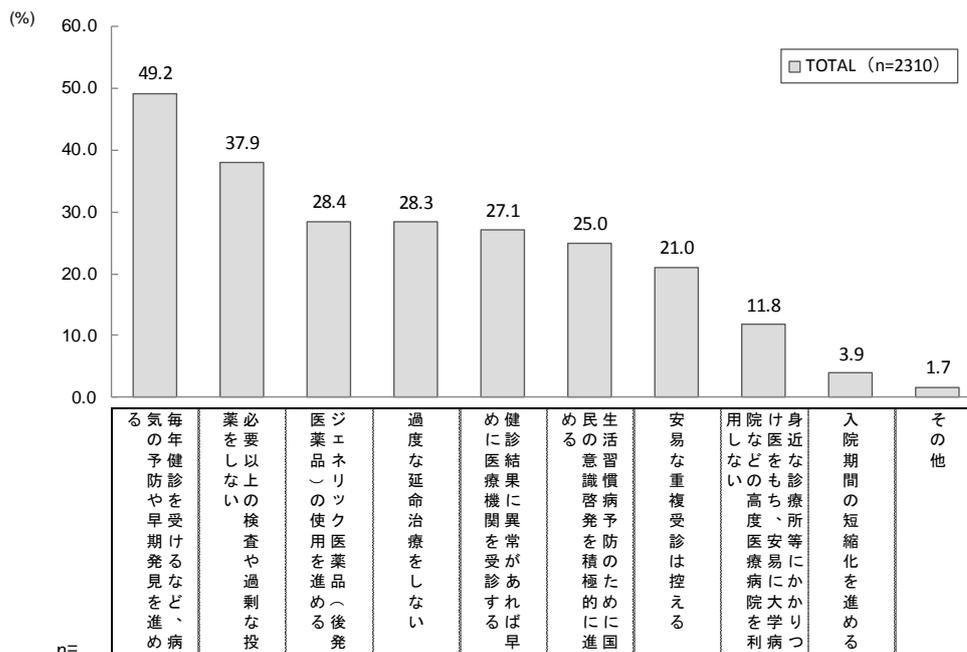
性・年代別に見ると、「毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める」は男性60・70歳代と女性30・40歳代で高く、「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」は女性50歳代以上で高い。男性20歳代および50歳代では「ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める」の割合が高い。

問27 医療費適正化に対する考え（複数回答：3つまで）



本人・家族の治療状況別（p.13：問8参照）に見ると、『慢性疾患で現在治療中の人がある』世帯の人は「必要以上の検査や過剰な投薬をしない」、「健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する」、「生活習慣病予防のために国民の意識啓発を積極的に進める」といった取組みが必要であるとする割合が高い。『心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある』または『介護保険制度のサービスを利用している人がある』世帯の人では、「健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する」の割合が高い。なお、『介護保険制度のサービスを利用している人がある』世帯の人では「過度な延命治療をしない」が2割（20.3%）と、他の層よりも低い割合である。

問27 医療費適正化に対する考え（複数回答：3つまで）



	n=	毎年の健診や早期発見など、病気の予防を進める	必要以上の検査や過剰な投薬をしない	ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める	過度な延命治療をしない	健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する	生活習慣病予防のために国民の意識啓発を進める	安易な重複受診は控える	入院期間の短縮を進める	その他	
TOTAL	2310	49.2	37.9	28.4	28.3	27.1	25.0	21.0	11.8	3.9	1.7
慢性疾患で現在治療中の人がある	568	52.8	42.3	30.5	26.6	32.2	32.4	23.1	13.9	3.9	1.2
心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある	140	54.3	45.0	28.6	25.0	38.6	27.1	18.6	13.6	4.3	2.1
介護保険制度のサービスを利用している人がある	138	44.9	39.1	26.8	20.3	36.2	28.3	23.9	18.1	4.3	2.9
今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がある人がある	36	41.7	36.1	27.8	27.8	27.8	33.3	19.4	19.4	5.6	0.0
上記に当てはまる人はいない	1566	48.1	36.1	27.7	29.5	24.5	22.3	20.6	10.9	3.7	1.8

### 3. 7. 2 適切な医療費のまかない方（問28）

問28 増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があるとします。国民の負担が増えるとした場合、あなたは医療費をどのようにまかなっていくのが適切だと思いますか。  
（回答は該当するものすべて）

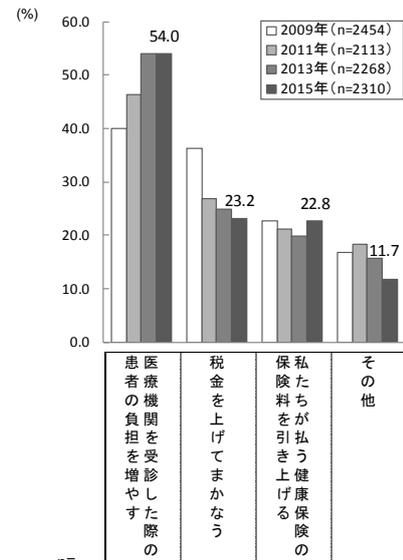
医療費負担に関する対策としては、5割強（54.0%）が「医療機関を受診した際の患者の負担を増やす」としている。次いで「税金を上げてまかなう」（23.2%）、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」（22.8%）となっており、2013年と比較すると「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」の割合が上昇している。

選択の内訳を見ると、「医療機関を受診した際の患者の負担を増やす」のみの選択割合は年々高まっている。また、「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」のみの選択割合は、2013年までと比較して上昇している。

性・年代別に見ると、男性20歳代では「税金を上げてまかなう」が3割（32.7%）と、他の層よりも高い割合である。

問28 適正な医療費のまかない方（複数回答）

各選択肢 選択率				
回答方法	2009年	2011年	2013年	2015年
「受診時の患者の負担を増やす」のみ選択	32.1%	38.6%	44.9%	45.7%
「税金を上げてまかなう」のみ選択	26.9%	20.9%	18.0%	18.0%
「健康保険の保険料を引き上げる」のみ選択	13.9%	13.5%	11.6%	15.9%
「その他」のみ選択	14.1%	16.3%	13.9%	10.8%
複数選択	13.0%	10.7%	11.6%	9.6%

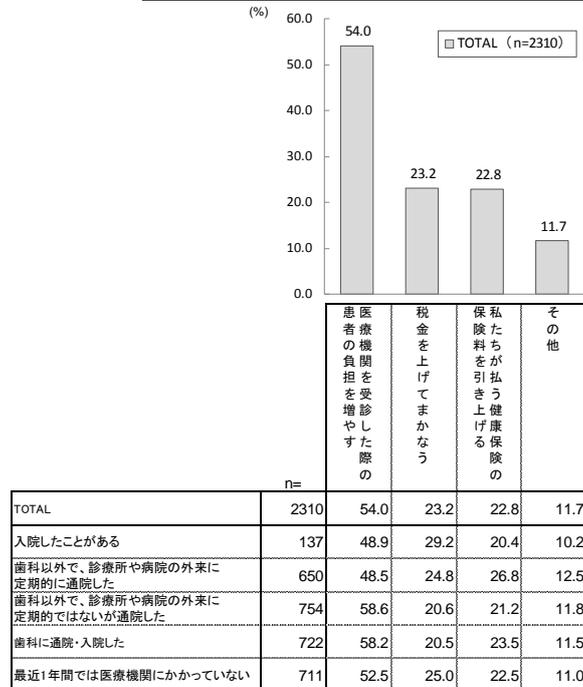


	n=	患者の負担を増やす	税金を上げてまかなう	私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる	その他
2009年	2454	40.0	36.2	22.6	16.7
2011年	2113	46.4	26.9	21.1	18.4
2013年	2268	54.1	25.0	19.8	15.6
2015年	2310	54.0	23.2	22.8	11.7
■ 男性計	1112	56.0	25.7	23.5	9.7
男性20歳代	202	50.0	32.7	27.2	7.9
男性30歳代	263	57.0	22.1	22.4	12.9
男性40歳代	250	60.0	22.4	23.2	8.4
男性50歳代	197	56.9	25.4	22.3	7.6
男性60・70歳代	200	55.0	28.0	22.5	11.0
■ 女性計	1198	52.2	20.8	22.1	13.5
女性20歳代	220	45.0	23.6	25.0	12.7
女性30歳代	267	50.2	19.1	22.1	13.9
女性40歳代	269	50.9	17.1	24.5	15.6
女性50歳代	233	60.1	23.6	18.0	9.9
女性60・70歳代	209	55.0	21.5	20.6	15.3

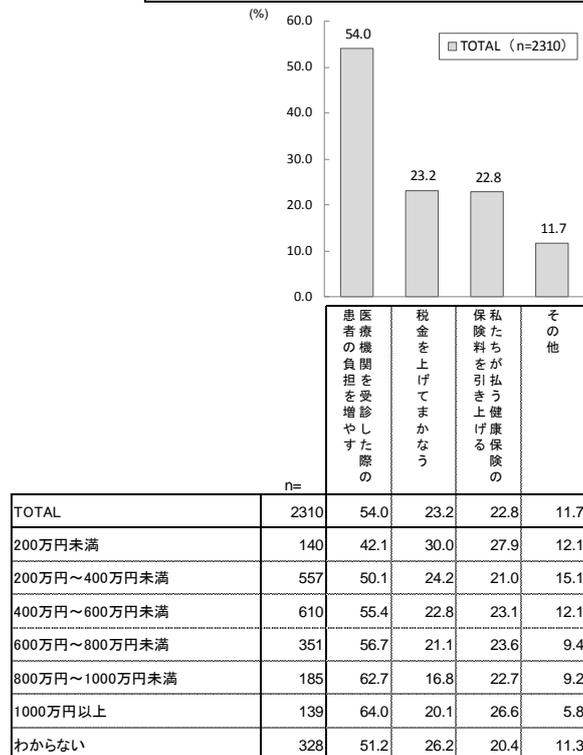
最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した』人、『歯科に通院・入院した』人は「医療機関を受診した際の患者の負担を増やす」と回答する割合が高く、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人は「私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる」と回答する割合が高い。

世帯年収別に見ると、「医療機関を受診した際の患者の負担を増やす」との回答は、年収400万円未満の層では割合が低く、年収800万円以上の層では高い。

問28 適正な医療費のまかない方（複数回答）



問28 適正な医療費のまかない方（複数回答）

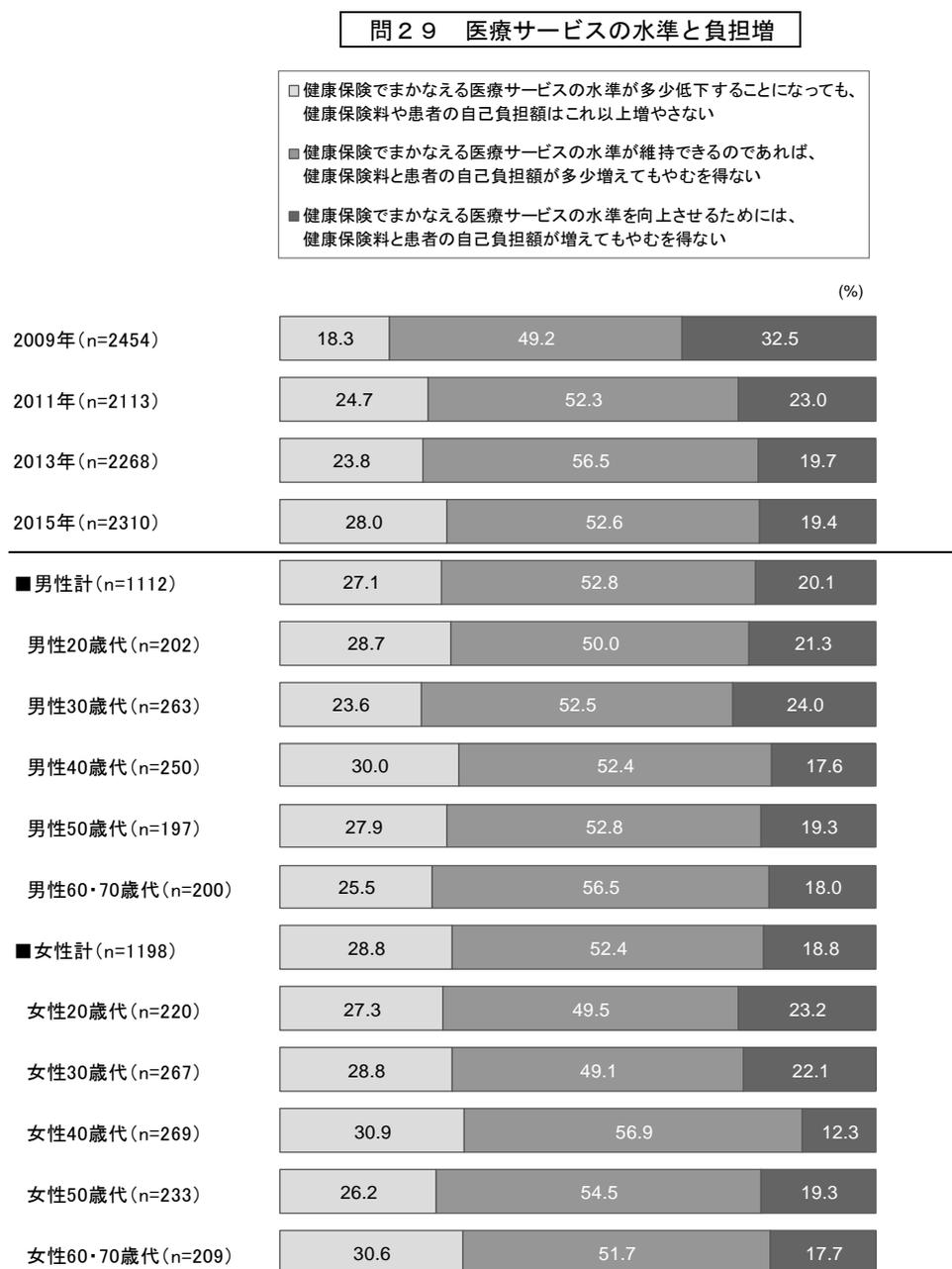


### 3. 7. 3 医療サービス水準と負担増（問29）

問29 医療サービスの水準と費用負担との関係について、次のいずれかの考え方を選ばなければならないとしたら、あなたはどの考え方を選択しますか。（回答は1つ）

医療サービスの水準と費用負担についての考え方は半数（52.6%）が「健康保険でまかなえる医療サービスの水準が維持できるのであれば、健康保険料と患者の自己負担額が多少増えてもやむを得ない」と回答している。2013年と比較すると、「健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない」割合が高まっている。

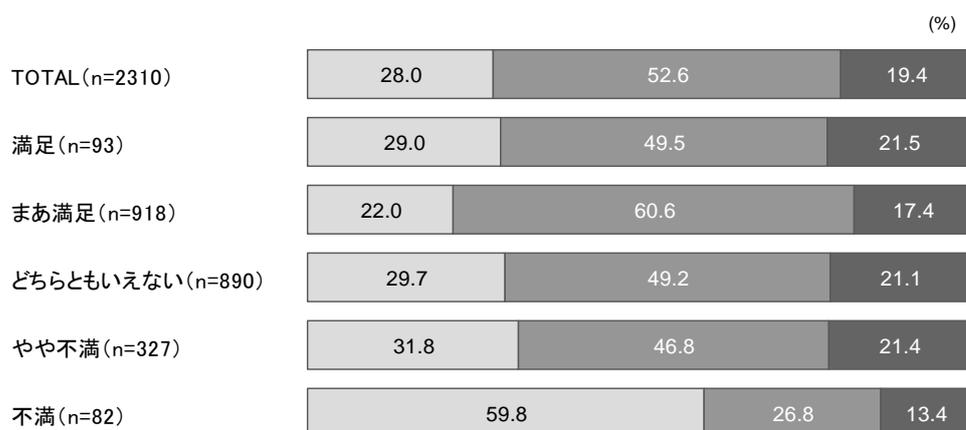
性・年代による違いは見られない。



医療全般に対する満足度別（p.50：問 22 参照）に見ると、不満度が高くなるにつれて「健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない」割合も高くなる傾向があり、『不満』がある人では6割（59.8%）にのぼる。

問 2 9 医療サービスの水準と負担増

- 健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない
- 健康保険でまかなえる医療サービスの水準が維持できるのであれば、健康保険料と患者の自己負担額が多少増えてもやむを得ない
- 健康保険でまかなえる医療サービスの水準を向上させるためには、健康保険料と患者の自己負担額が増えてもやむを得ない



### 3. 7. 4 医療サービスの見直し（問29付問1）

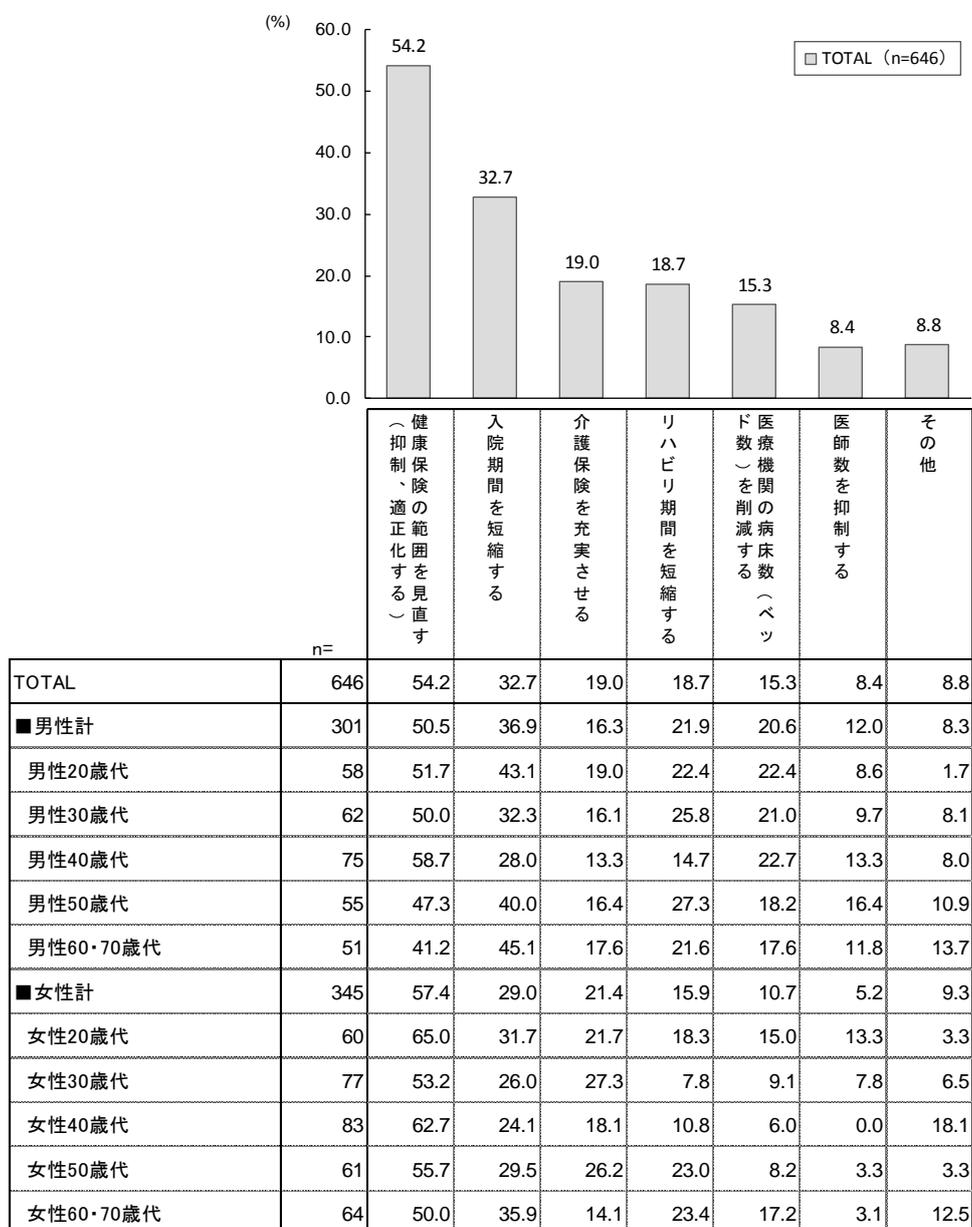
付問1 医療サービスを見直すとしたら、どのような方法が適当だと考えますか。(回答は該当するものすべて)  
 【ベース：健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさないと回答した人】

医療サービスを見直す場合、「健康保険の範囲を見直す（抑制、適正化する）」が54.2%と最も高く、次いで「入院期間を短縮する」（32.7%）、「介護保険を充実させる」（19.0%）、「リハビリ期間を短縮する」（18.7%）の順となっている。

性・年代別に見ると、女性よりも男性の方が「入院期間を短縮する」、「医療機関の病床数（ベッド数）を削減する」、「医師数を抑制する」と回答する割合が高い。

付問1 医療サービスの見直し（複数回答）

【ベース：健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさないと回答した人】

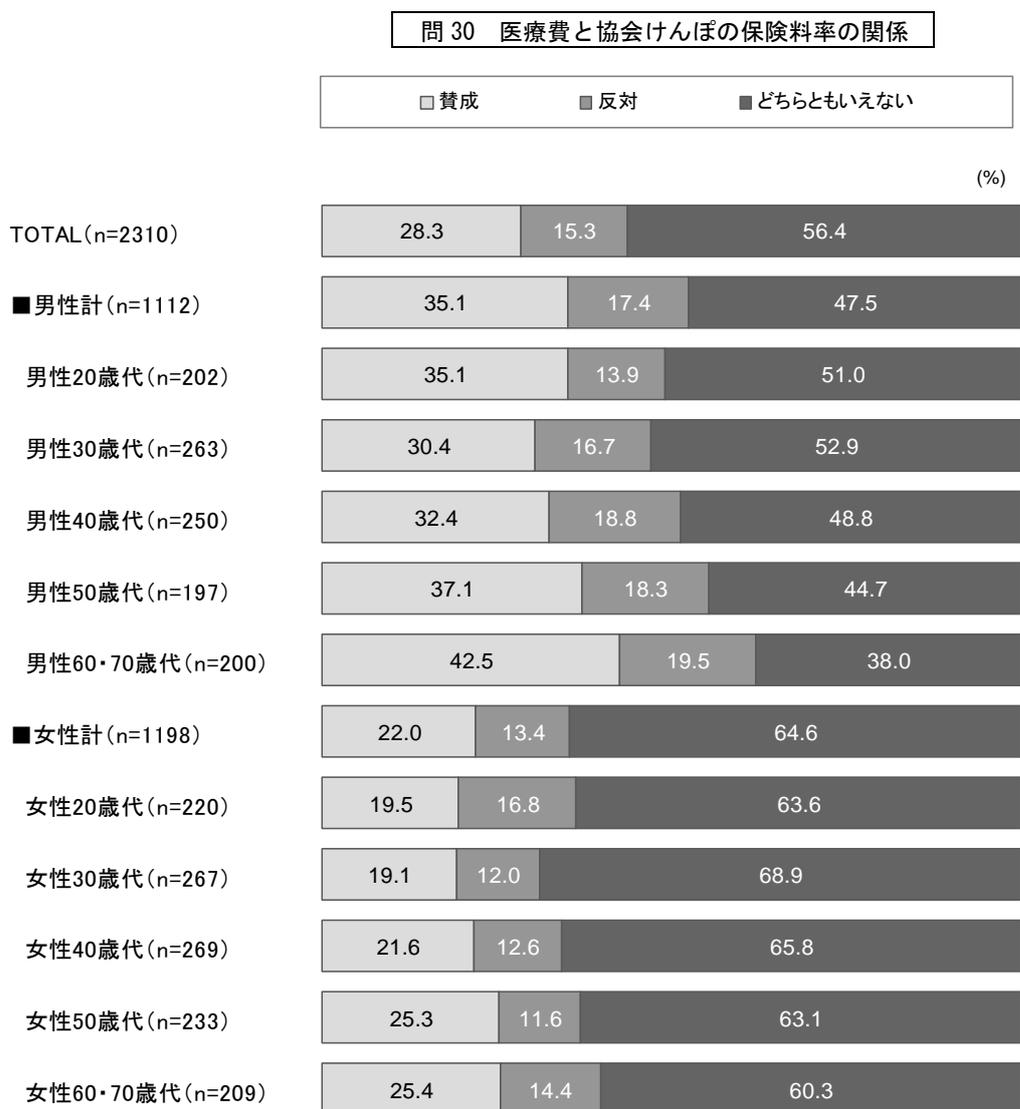


### 3. 7. 5 医療費と協会けんぽの保険料率の関係（問30）

問30 協会けんぽの保険料率は全国平均で10%ですが、医療費の高い支部ほど保険料率が高く、逆に医療費の低い支部ほど保険料率が低くなるようにしています（9.86%～10.21%）。ただし、医療費の差をすべて反映するのではなくその一定割合だけを反映しています。このように、医療費の高さを保険料に反映することを今後さらに進めることについて、どう考えますか。（回答は1つ）

医療費の高さを保険料に反映することについては、3割弱（28.3%）が賛成、1割強（15.3%）が反対、半数以上（56.4%）が「どちらともいえない」と回答している。

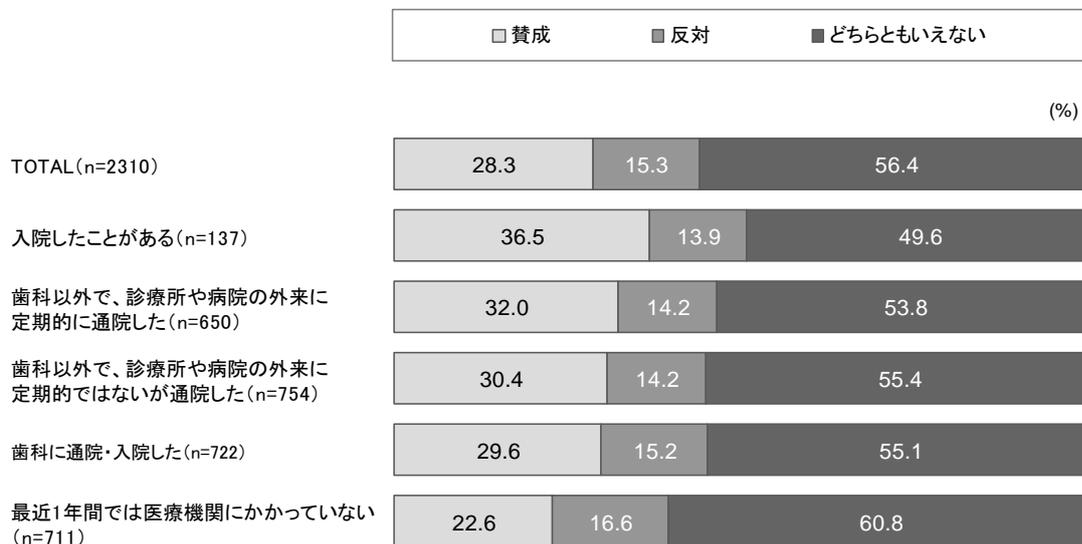
性・年代別に見ると、賛成する割合は男性の方が高く、20歳代および50歳代以上では4割前後が賛成している。一方、女性は「どちらともいえない」の割合が高く、いずれの年代でも6割以上である。



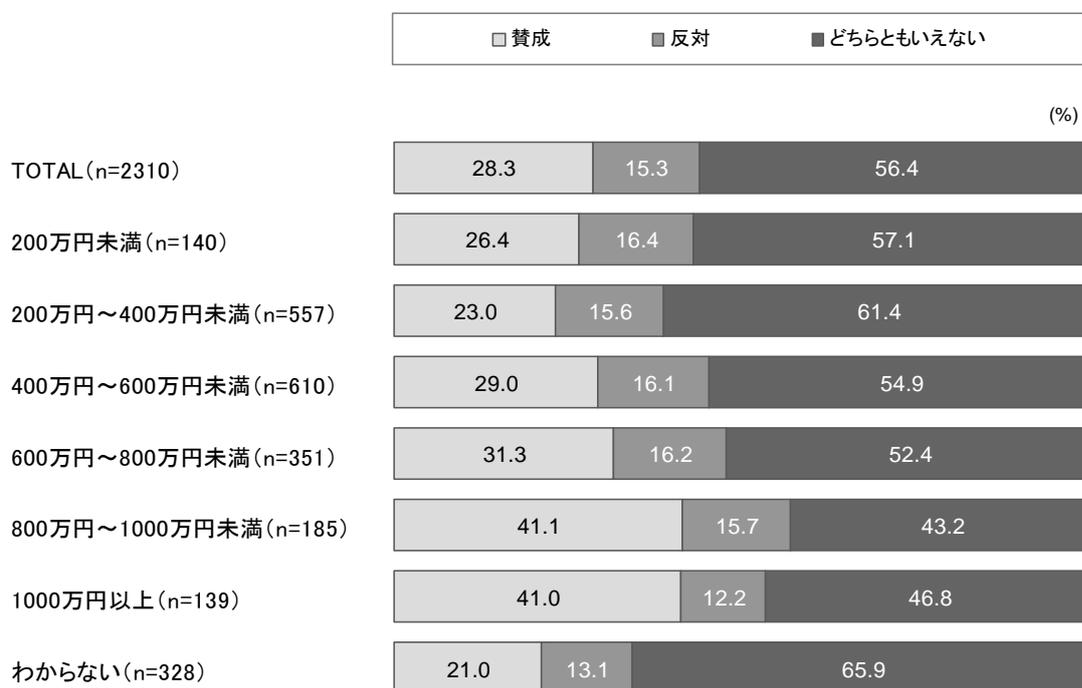
最近1年間での医療機関受診状況別（p.10：問6参照）に見ると、『入院したことがある』人、『歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した』人では賛成する割合が高い。

世帯年収別に見ると、800万円以上の層では賛成の割合が高く、4割を超える。

問30 医療費と協会けんぽの保険料率の関係



問30 医療費と協会けんぽの保険料率の関係



## 資料編《調査票》



# スクリーニング調査票

## 健康と医療に関する調査

問1 【全員に】あなたの性別をお答えください。

1 男性	2 女性
------	------

問2 【全員に】あなたの年齢をお答えください。

	歳
--	---

問3 【全員に】あなたの職業をお答えください。(回答は1つ)

1 自営業・自由業	6 パートタイマー、アルバイト
2 会社・団体などの役員	7 専業主婦(夫)、家事手伝い
3 会社員・団体職員	8 学生
4 公務員	9 無職
5 契約社員・派遣社員	10 その他 ( )

問4 【全員に】あなたはふだん、医療や健康についての情報をどこから入手していますか。  
(回答は該当するものすべて)

1 テレビ(ニュースや情報番組、CM)	10 保健師
2 ラジオ(ニュースや情報番組、CM)	11 薬局・薬剤師
3 新聞記事・広告	12 市区町村からの案内・情報提供
4 雑誌・書籍	13 勤め先の健康管理担当
5 インターネット	14 勤め先からの案内・情報提供
6 家族	15 加入している健康保険(医療保険)からの案内・情報提供
7 友人・知人	16 その他 ( )
8 職場の同僚	17 特に情報は入手していない
9 医師・歯科医師・看護師	

問5 【全員に】あなたが加入している健康保険(医療保険)の種類をお答えください  
(必ず健康保険証を確認のうえお答えください)。(回答は1つ)

選択肢	説明
1 組管掌健康保険(組合健保)	企業や企業グループ(単一健保)、同業の企業(総合健保)を単位とする健康保険組合が運営している健康保険。設立に一定規模が必要なため、主に大手企業やそのグループ企業の従業員が加入。全国に約1,400の組合がある。
2 全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ)	健康保険組合を持たない企業などの従業員で構成される健康保険。「政府管掌健康保険(政管健保)」を国から引き継ぐ形で、平成20年10月より全国健康保険協会が運営している。
3 共済組合	国家公務員・地方公務員、私立学校教職員、一部の独立行政法人職員、日本郵政グループ職員などを対象とした健康保険。
4 船員保険	船員を対象とした健康保険。
5 国民健康保険(国保)	自営業の方などを対象に市町村と東京23区が運営している健康保険。
6 国民健康保険組合	自営であっても同種同業の人が集まって設立されている健康保険(例: 医師国保組合 など)
7 その他	( )

前問で「全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）」に加入しているとお答えになった方におたずねします。

問 6 【問 5 で “2” の人（協会けんぽ加入者）に】あなたは被保険者本人ですか、それとも被扶養者（家族）ですか。（回答は1つ）

1 被保険者本人	4 被扶養者（被保険者の親）
2 被扶養者（被保険者の配偶者）	5 被扶養者（その他）
3 被扶養者（被保険者の子）	

問 7 【問 5 で “2” の人（協会けんぽ加入者）に】あなたが加入している協会けんぽの支部はどちらですか。必ず健康保険証を確認のうえ、お答えください。（回答は1つ）

1 北海道支部	17 石川支部	33 岡山支部
2 青森支部	18 福井支部	34 広島支部
3 岩手支部	19 山梨支部	35 山口支部
4 宮城支部	20 長野支部	36 徳島支部
5 秋田支部	21 岐阜支部	37 香川支部
6 山形支部	22 静岡支部	38 愛媛支部
7 福島支部	23 愛知支部	39 高知支部
8 茨城支部	24 三重支部	40 福岡支部
9 栃木支部	25 滋賀支部	41 佐賀支部
10 群馬支部	26 京都支部	42 長崎支部
11 埼玉支部	27 大阪支部	43 熊本支部
12 千葉支部	28 兵庫支部	44 大分支部
13 東京支部	29 奈良支部	45 宮崎支部
14 神奈川支部	30 和歌山支部	46 鹿児島支部
15 新潟支部	31 鳥取支部	47 沖縄支部
16 富山支部	32 島根支部	

問 8 【問 5 で “2” の人（協会けんぽ加入者）に】あなたはこの1年間に、協会けんぽと、次のような接点を持ったことがありますか。（回答は該当するものすべて）

1 協会けんぽの窓口で、手続きや相談に行った
2 協会けんぽに問い合わせや相談の電話をした
3 協会けんぽのホームページを見た
4 協会けんぽ（支部）のメールマガジン登録をした
5 協会けんぽの健診を受診した
6 協会けんぽの保健師から保健指導を受けた
7 任意継続加入に関する手続きをした
8 高額療養費制度、または限度額適用認定証を利用した
9 傷病手当金の給付を受けた
10 出産育児一時金の給付を受けた
11 その他（ )
12 接点を持ったことはない

問9【前問で「3 協会けんぽのホームページを見た」と回答した人に】  
どのくらいの頻度で協会けんぽのホームページを見ていますか。(回答は1つ)

- 1 月1回以上見ている
- 2 2～3か月に1回程度見ている
- 3 半年に1回程度見ている
- 4 1年に1回程度見ている

問10【前問で「3 協会けんぽのホームページを見た」と回答した人に】  
協会けんぽのホームページをどのように利用していますか。(回答はいくつでも)

- 1 最近の「協会けんぽからのお知らせ」欄を見ている
- 2 支部の窓口時間や電話での問い合わせのために連絡先を調べるのに利用している
- 3 制度の仕組みや、各種の申請手続きの仕方などについて調べるのに利用している
- 4 各種申請書のダウンロードや、インターネットでの申請手続きなどで利用している
- 5 協会けんぽの組織・事業などについて調べるのに利用している
- 6 その他 ( )

## 医療と健康保険制度等に関する調査

### <基本属性>

問1 【全員に】あなたの性別をお答えください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 【全員に】あなたの年齢をお答えください。

<input type="text"/>	歳
----------------------	---

問3 【全員に】あなたの職業をお答えください。(回答は1つ)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 自営業・自由業    | 6 パートタイマー、アルバイト |
| 2 会社・団体などの役員 | 7 専業主婦(夫)、家事手伝い |
| 3 会社員・団体職員   | 8 学生            |
| 4 公務員        | 9 無職            |
| 5 契約社員・派遣社員  | 10 その他( )       |

問4 【全員に】あなた以外に、同居しているご家族はいらっしゃいますか。(回答は該当するものすべて)

- |                        |
|------------------------|
| 1 未就学児                 |
| 2 小学生                  |
| 3 中学生                  |
| 4 65歳以上の人              |
| 5 上記以外の家族              |
| 6 同居している家族はいない(ひとり暮らし) |

問5 【全員に】あなたの世帯全体の年収(税込み)はおおよそいくら位ですか。(回答は1つ)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 200万円未満        | 6 1000万円～1200万円未満 |
| 2 200万円～400万円未満  | 7 1200万円～1500万円未満 |
| 3 400万円～600万円未満  | 8 1500万円以上        |
| 4 600万円～800万円未満  | 9 わからない           |
| 5 800万円～1000万円未満 |                   |

<最近1年間の医療機関受診状況についてうかがいます。>

問6 【全員に】

最近1年間で、あなたは病気やけがの治療のために医療機関にかかったことがありますか。(回答は該当するものすべて)

\* ご家族(子どもや親等)の受診でなく、あなた自身についてお答えください。

\* 「健診や人間ドック」「出産やその前後の健診」を除いてお答えください。

- |  |
|--|
| 1 入院したことがある                                    |
| 2 歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的に通院した(例 慢性的な症状・病気)        |
| 3 歯科以外で、診療所や病院の外来に定期的ではないが通院した(例 かぜ等の短期の症状・病気) |
| 4 歯科に通院・入院した                                   |
| 5 最近1年間では医療機関にかかっていない                          |

問7 【問6で“1~4”を回答した人に】

今年7月の1か月間に、あなた自身の受診のために医療機関の窓口で支払った金額は合計でいくら位でしたか。7月の支払いがなかった方は、ここ1年間で支払いがあった月の平均概算額をお答えください。(回答は1つ)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 1千円未満     | 4 1万円~2万円未満 |
| 2 1千円~5千円未満 | 5 2万円~8万円未満 |
| 3 5千円~1万円未満 | 6 8万円以上     |

問8 【全員に】

あなた自身またはご家族の中に、以下のような状態に当てはまる方はいらっしゃいますか。当てはまるものを選んでください。(回答は該当するものすべて)

- |  |
|--|
| 1 あなた自身またはご家族の中に、高血圧症、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病等の慢性疾患で現在治療中の人がある |
| 2 あなた自身またはご家族の中に、心臓病、がん等の重い病気で現在治療中の人がある               |
| 3 あなた自身またはご家族の中に、介護保険制度のサービスを利用している人がある                |
| 4 あなた自身またはご家族の中に、今後1年以内に介護保険制度のサービスを利用する必要がある人がある      |
| 5 あなた自身もご家族も、上記に当てはまる人はいない                             |

<一番最近に外来(通院)受診した医療機関の診断や治療についてうかがいます。>

問9 【全員に】

あなたが一番最近、外来(通院)受診した医療機関は次のどれですか。ここ1年間は医療機関にかかっていない方も、一番最近受診した医療機関についてお答えください。(回答は1つ)

\* 「歯科」の場合を除いてお答えください。

\* ご家族(子どもや親等)の受診でなく、あなた自身についてお答えください。

\* 「健診や人間ドック」「出産やその前後の健診」を除いてお答えください。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 一般の診療所(〇〇クリニック、〇〇内科等)の外来に診療時間内に通院 |
| 2 一般の診療所(〇〇クリニック、〇〇内科等)を時間外に受診      |
| 3 病院の外来に診療時間内に通院                    |
| 4 病院を時間外に受診                         |

問10 【全員に】

あなたは外来（通院）の医療機関を選ぶ際、どのようなことを重視していますか。次の項目ごとに重視度をお答えください。

また、一番最近に外来（通院）受診した医療機関について、項目ごとの満足度をお答えください。

（回答は「重視度」「満足度」ごとにそれぞれ1つずつ）

	医療機関を受診する際の重視度					一番最近に外来受診した際の満足度					
	重視する	重視する まあ	どちらとも いえない	あまり重視 しない	重視しない	満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	わからない・該 当しない
自宅や職場などから近い	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
評判のよい医療機関である	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
経験豊富な医師がいる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
医師が実際に診察・治療してくれる時間の長さが適切である	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
治療や薬剤についてののていねいな説明があり、患者からの質問にもしっかり答えてくれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
待ち時間が短い	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
夜間や休日も開いている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
往診してくれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
医師や医療機関を評価するための十分な情報が提供されている	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
必要に応じて専門の医師・医療機関の紹介や他施設との連携がある	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6

問11 【全員に】

上記のような内容をすべて考慮すると、一番最近に外来（通院）受診した医療機関には総合的にどの程度満足していますか。（回答は1つ）

1 満足	2 まあ満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 不満
------	--------	-------------	--------	------

<受診意識とかかりつけ医についてうかがいます。>

問12 【全員に】

あなたは、熱が出るなど体の具合が悪い時には早めに医療機関を受診する方ですか。（回答は1つ）

1 早めに受診する方である	3 具合が悪くても医療機関にはなるべく行かない
2 何日か様子を見て決める	

問13 【全員に】

あなたは、熱が高いなど体の具合が悪くて医療機関を外来受診する際、どのように医療機関を選んでいきますか。あまり医療機関にかからない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。（回答は1つ）

1 はじめは近くの診療所（〇〇クリニック、〇〇内科等）を受診し、その医師の判断で必要に応じて病院等の専門医療機関を紹介してもらう
2 はじめから大きな病院を受診し、検査や治療をしてもらう

問 14 【全員に】

あなたには、熱が高いなど体の具合が悪い時、まず診てもらったり相談したりすることのできる「かかりつけ医」がいますか。(回答は1つ)

1 いる
2 いない

付問 1 【問 14 で “1” の人 (かかりつけ医がいる人) に】

「かかりつけ医がいる」とお答えの方にうかがいます。

その医師のいる医療機関は、次のどれですか。(回答は1つ)

1 一般の診療所 (〇〇クリニック、〇〇内科等)
2 病院

付問 2 【問 14 で “1” の人 (かかりつけ医がいる人) に】

その医師をかかりつけ医として選んだ理由は何ですか。(回答は該当するものすべて)

1 自宅から近いから	9 深夜や休日などの緊急時にも診てくれるから
2 職場や学校から近いから	10 往診してくれるから
3 評判がよかったから	11 最新の設備を整えているから
4 医師の人柄がよいから	12 他の病院・医師から薦められたから
5 医師の診療技術が優れているから	13 その他 ( )
6 病気や治療についてよく説明してくれるから	
7 どんな病気でも診てくれるから	
8 あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから	

問 15 【全員に】

あなたは、休日や深夜に、あなた自身やご家族が急な発熱などで具合が悪くなった時、どのように対応しますか。休日・深夜に具合が悪くなったことがない方も、そうなった時にどう対応するかを考えてお答えください。(回答は横の行ごとに1つずつ)

	家庭でできる処置(市販薬を服用するなど)をしながら様子を見る	かかりつけ医に連絡し指示を受ける	救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する	救急を受け入れてくれる医療機関を調べ、その医療機関を受診する	車を呼ぶ	119番に電話し救急車を呼ぶ	その他(具体的に)
あなたご自身の具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5		
【問 4 で “1, 2” を回答した人に】 小学生以下のお子さんの具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5		
【問 4 で “3, 4, 5” を回答した人に】 それ以外のご家族の具合が悪くなった場合	1	2	3	4	5		

<薬局の利用状況についてうかがいます。>

問 16【この1年で医療機関を利用した人（問6で1～4と回答した人）】

あなたは、医療機関から処方せんを受け取った際に利用する薬局を決めていますか。この1年間の利用の仕方として、最も当てはまるものをお答えください。（回答は1つ）

1	どの医療機関にかかっても、いつも同じ薬局を利用している
2	決めているが、いくつかの薬局を使い分けている
3	特に決めていない
4	院内処方のため外部の薬局は利用していない・処方せんは受け取っていない

問 16 付問 1【利用する薬局を決めている人（前問で1、2と回答した人）】

利用する薬局を決めている方にうかがいます。

その薬局を利用することに決めている理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）

1	医療機関から近いから	7	あなたやご家族の病歴・健康状態をよく知っているから
2	自宅から近いから	8	受付している時間が長いから
3	職場や学校から近いから	9	品揃えが豊富だから
4	評判がよかったから	10	医療機関で案内があったから
5	薬剤師の人柄がよいから	11	その他（ ）
6	医薬品の効能や服用の仕方についてよく説明してくれるから		

問 17【この1年で医療機関を利用した人（問6で1～4と回答した人）】

あなたは、「お薬手帳」を利用していますか。最も当てはまるものをお答えください。（回答は1つ）

1	紙のお薬手帳を持ち歩き、薬剤師に見せている
2	紙のお薬手帳があるが持ち歩いてはならず、シールだけもらっている
3	スマートフォン、タブレット等の電子版のお薬手帳を利用している
4	利用していない・持っていない

問 18【この1年で医療機関を利用した人（問6で1～4と回答した人）】

薬局で薬を受け取る際、薬についての説明や確認は十分にされていると思いますか。（回答は1つ）

	十分に説明・確認されていると思う	ある程度は説明・確認されていると思う	説明・確認は十分でないと思う	わからない
現在、ほかにも服用（使用）している薬があるかどうかの確認	1	2	3	4
薬のアレルギーの有無の確認	1	2	3	4
処方された薬の効能の説明	1	2	3	4
処方された薬の服用（使用）にあたっての注意点の説明	1	2	3	4

問 19【この1年で医療機関を利用した人（問6で1～4と回答した人）】

医療機関から処方された薬に飲み残し（内服薬：錠剤など）、使い残し（外用薬：湿布、目薬、軟膏など）が生じることはありますか。（回答は1つ）

	よくある	時々ある	ほとんどない	まったくない
内服薬（錠剤など）	1	2	3	4
外用薬（湿布、目薬、軟膏など）	1	2	3	4



問 19 付問 1【薬の飲み残しや使い残しがある人（問 19 で「よくある」「時々ある」と回答した人）】

医療機関から処方された薬の飲み残しや使い残しが生じることが「よくある」、「時々ある」とお答えの方にはうかがいます。

飲み残し、使い残しが生じた理由は何ですか。（回答は該当するものすべて）

- 1 最初から多めに処方してもらったから
- 2 同じ症状で複数の医療機関に処方してもらったから
- 3 症状が回復して、用いなくてよくなったから
- 4 外出時に薬を持ち歩くのを忘れてしまうから
- 5 薬の種類が多く、つい忘れてしまうから
- 6 薬が自分に合わないと感じて途中でやめたから
- 7 その他（ ）

問 19 付問 2【薬の飲み残しや使い残しがある人（問 19 で「よくある」「時々ある」と回答した人）】

薬が残った場合はどのように対処していますか。（回答は該当するものすべて）

- 1 医師や薬剤師に伝えて、次の処方の際に調整してもらう
- 2 必要ないので処分する（捨てる）
- 3 次に使うかもしれないので、とりあえずとっておく
- 4 家族や知人にあげる
- 5 その他（ ）

問 20【全員】

あなたは、市販の医薬品を購入する場合、利用する薬局やドラッグストアは決まっていますか。購入する方は、購入頻度も合わせてお答えください。（回答は1つ）

※処方せんによる調剤は除いてお答えください。

- <利用する薬局やドラッグストアは決まっている>
- 1 月1回以上購入している
  - 2 2～3か月に1回程度購入している
  - 3 半年に1回程度購入している
- <利用する薬局やドラッグストアは決まっていない>
- 4 月1回以上購入している
  - 5 2～3か月に1回程度購入している
  - 6 半年に1回程度購入している
- <購入頻度が少ない・購入することはない>
- 7 購入することはあるが、半年に1回よりも頻度は少ない。
  - 8 市販の医薬品を購入することはない

<生活習慣病予防に関する取組みについてうかがいます。>

問 21 【全員に】

あなたは、高血圧症などの生活習慣病の要因となる「メタボリックシンドローム」を避けるため、あるいは健康維持のために日ごろからどのような取組みを行っていますか。次の説明をお読みのうえお答えください。

○メタボリックシンドローム

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満の人が、脂質代謝異常（血液中にコレステロールや中性脂肪が増える状態）、高血圧、高血糖といった動脈硬化の危険因子を2つ以上あわせ持った状態をいいます。このように動脈硬化の危険因子が重なると、心筋梗塞などの心疾患や脳血管疾患などになる危険性が急激に高まります。

○特定健康診査

生活習慣病を中心とした疾病予防を重視し、健康診査及び保健指導の充実を図る観点から、2008年4月より、健康保険制度では40歳以上の加入者に対し、生活習慣病に関する健康診査（特定健康診査）を行うことになりました。いわゆる40歳以上を対象とした「健診」のことです。

○特定保健指導

その健診結果によって、必要な人には保健指導（特定保健指導）を実施します。内臓脂肪型肥満に着目し、その要因となっている生活習慣の改善を通して、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を減らしていくことを目指しています。

（回答は該当するものすべて）

- 1 野菜を多くとるなどバランスのよい食事と節制を心がけている
- 2 特別な運動はしていないが、日常生活の中で意識して歩く距離を多くするなど体を動かしている
- 3 定期的に運動している
- 4 意識して喫煙を控えている
- 5 意識してアルコールを控えている
- 6 日常的に体重や血圧等の測定を心がけている
- 7 毎年、健診あるいは人間ドックを受けている
- 8 健診の結果、メタボリックシンドロームに該当するとされたので、特定保健指導を受け生活習慣改善に取り組んでいる
- 9 健診の結果、メタボリックシンドロームに該当するとされたが、特にしていることはない
- 10 生活習慣病なので、医師の指示に従って治療を受けている
- 11 その他（ )
- 12 何も気にしていない（特に何もしていない）

<医療全般に対する満足度、不安やほしい情報についてうかがいます。>

問 22 【全員に】

あなたは、受診のしやすさや、受診した際の自己負担や健康保険料など、日本の医療水準を総合的に考えると、医療全般についてどの程度満足していますか。(回答は1つ)

1 満足	2 まあ満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 不満
------	--------	-------------	--------	------

問 23 【全員に】

あなたは医療全般に関し、次の項目についてどの程度不安に感じていますか。項目ごとにお答えください。(回答は横の行ごとに1つずつ)

	が 非 常 に 不 安 あ る	あ る や や 不 安 が	い え な い ど ち ら と も	あ ま り 不 安 は な い	ま っ た く 不 安 は な い
医療機関や医師、治療内容についての情報が不足している	1	2	3	4	5
医療事故が起こっている	1	2	3	4	5
小児科、産科等、医師が不足している診療科目がある	1	2	3	4	5
救急車を呼んでも受け入れてくれる病院がすぐに見つからない	1	2	3	4	5
具合が悪くなった時に近くに適切な医療機関がない	1	2	3	4	5
がんなど重い病気になった時に適切な医療機関が見つからない	1	2	3	4	5
医療機関を受診した際の窓口で払う医療費がかさむ	1	2	3	4	5
毎月負担する保険料が上がる	1	2	3	4	5
大きな病気になった時に医療費が支払えなくなる	1	2	3	4	5
医療費が増え続けることで健康保険制度が維持できなくなる	1	2	3	4	5

付問 1 【全員に】

上記以外で医療全般に関し、不安に感じていることがあればご自由にお書きください。

問 24 【全員に】

あなたは健康や医療についてどのような情報をほしいと思いますか。(回答は該当するものすべて)

1 効果的な健康づくりや病気の予防方法	7 医療費が高額になった場合の自己負担など健康保険制度のしくみ
2 かかりつけ医の選び方	8 介護保険サービスに関する情報
3 病気の原因や症状、治療法	9 その他 ( )
4 処方される薬の効能効果や副作用	10 特になし
5 治療にかかる期間	
6 治療にかかる費用の目安	

問 25 【全員に】

あなたは、ジェネリック医薬品（後発医薬品）をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。

○ジェネリック医薬品（後発医薬品）

ジェネリック医薬品は、有効性や安全性が実証されてきた先発医薬品の効能と「同等」と厚生労働省において認められた医薬品です。ジェネリック医薬品は先発医薬品のノウハウを活用することにより開発費が抑えられるため、価格も安く、薬代の軽減や保険財政の負担の低減につながります。

2008年4月から処方せんの様式が変わり、「ジェネリック医薬品への変更不可」という欄に医師の署名がない限り、薬局では患者の選択に基づきジェネリック医薬品への変更調剤が可能となりました。

\*ただし、すべての薬にジェネリック医薬品があるわけではありません。

\*薬局に在庫がない場合など、ジェネリック医薬品に切り替えられない場合もあります。

(回答は1つ)

- 1 ジェネリック医薬品を使ったことがある
- 2 ジェネリック医薬品がどういうものか知っていたが、使ったことはない
- 3 名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった
- 4 今回はじめて名前を聞いた

付問1 【問25で“2”の人（どういうものか知っていたが、使ったことはない）に】

「ジェネリック医薬品（後発医薬品）がどういうものか知っていたが、使ったことはない」とお答えの方にうかがいます。

「どういうものか知っていたが、使ったことはない」のは、どのような理由からですか。（回答は該当するものすべて）

- 1 医療機関を受診していない、または受診しても投薬されなかったから
- 2 入手方法が分からないから
- 3 医師や薬剤師から話をしてくれないと、自分からは言い出せないから
- 4 あまり安くないから
- 5 効き目や安全性に不安があるから
- 6 ジェネリック医薬品を希望したが、薬局等に置いていなかったから
- 7 ジェネリック医薬品への切り替えができない処方せんだから
- 8 今の薬を変えたくないから
- 9 そもそも代替するジェネリック医薬品が出ていない薬だから
- 10 その他（ )

問 26 【全員に】

あなたは「高額療養費制度」および「限度額適用認定証」をご存知ですか。次の説明をお読みのうえお答えください。

**高額療養費制度**とは、同じ月に医療機関や薬局の窓口で支払った額が一定額（自己負担限度額）を超えた場合に、その超えた分があとから払い戻される制度です。また、医療費が高額になりそうなときに、事前に協会けんぽに**限度額適用認定証**の発行を申請し、この限度額適用認定証と保険証を医療機関の窓口提示すると、同じ月の窓口でのお支払額が自己負担限度額までとなる制度です。

自己負担限度額は、所得および年齢（70歳未満であるか以上か）によって異なります。

例：70歳未満で標準報酬月額（※）が28万円～50万円に該当する人の1か月あたり限度額の計算式は、  
 $[80,100円 + (総医療費 - 267,000円) \times 1\%]$  となります。

仮に総医療費が100万円であれば、自己負担限度額は30万円ではなくて87,430円になります。

※標準報酬月額とは、被保険者が事業主から受ける毎月の給料などの報酬の月額を区切りのよい幅で区分し、保険料や保険給付の額を計算するために設定されたものです。

(回答はそれぞれ1つ)

	利用したことがある	利用したことはないが、内容を知っていた	名前を聞いたことはあるが、詳しい内容までは知らなかった	今回はじめて知った
高額療養費制度	1	2	3	4
限度額適用認定証	1	2	3	4

<医療の負担とサービスの関係についてうかがいます。>

問 27 【全員に】

日本では高齢化や医療の高度化等によって、医療費は毎年増え続けています。あなたは、どのような取り組みを進めるべきだと思いますか。特に必要だと思うものを3つまでに絞ってお答えください。(回答は3つまで)

- 1 毎年健診を受けるなど、病気の予防や早期発見を進める
- 2 生活習慣病予防のために国民の意識啓発を積極的に進める（例：食事内容の大切さ等）
- 3 健診結果に異常があれば早めに医療機関を受診する
- 4 必要以上の検査や過剰な投薬をしない
- 5 安易な重複受診は控える
- 6 ジェネリック医薬品（後発医薬品）の使用を進める
- 7 入院期間の短縮化を進める
- 8 身近な診療所等にかかりつけ医をもち、安易に大学病院などの高度医療病院を利用しない
- 9 過度な延命治療をしない
- 10 その他（ )

問 28 【全員に】

増え続ける医療費に対して、今後も何らかの方法でまかなっていく必要があるとします。国民の負担が増えるとした場合、あなたは医療費をどのようにまかなっていくのが適切だと思いますか。(回答は該当するものすべて)

- 1 私たちが払う健康保険の保険料を引き上げる
- 2 医療機関を受診した際の患者の負担を増やす
- 3 税金を上げてまかなう
- 4 その他（ )

問 29 【全員に】

医療サービスの水準と費用負担との関係について、次のいずれかの考え方を選ばなければならないとしたら、あなたはどの考え方を選択しますか。(回答は1つ)

- 1 健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない
- 2 健康保険でまかなえる医療サービスの水準が維持できるのであれば、健康保険料と患者の自己負担額が多少増えてもやむを得ない
- 3 健康保険でまかなえる医療サービスの水準を向上させるためには、健康保険料と患者の自己負担額が増えてもやむを得ない

問 29 付問 1 【問 29 で 1 と回答した人】

問 29 で「健康保険でまかなえる医療サービスの水準が多少低下することになっても、健康保険料や患者の自己負担額はこれ以上増やさない」とお答えの方にうかがいます。

医療サービスを見直すとしたら、どのような方法が適当だと考えますか。(回答は該当するものすべて)

- 1 医療機関の病床数(ベッド数)を削減する
- 2 入院期間を短縮する
- 3 リハビリ期間を短縮する
- 4 医師数を抑制する
- 5 健康保険の範囲を見直す(抑制、適正化する)
- 6 介護保険を充実させる
- 7 その他( )

問 30

協会けんぽの保険料率は全国平均で10%ですが、医療費の高い支部ほど保険料率が高く、逆に医療費の低い支部ほど保険料率が低くなるようにしています(9.86%~10.21%)。ただし、医療費の差をすべて反映するのではなくその一定割合だけを反映しています。このように、医療費の高さを保険料に反映することを今後さらに進めることについて、どう考えますか。(回答は1つ)

- 1 賛成
- 2 反対
- 3 どちらともいえない

<今後の医療政策についてうかがいます。>

問 31 【全員に】

あなたは、今後の日本の医療についてどのようなことを望みますか。特に希望したいことを5つまでお答えください。(回答は5つまで)

- 1 医師の養成・確保
- 2 専門性の高い医療機関の整備や専門医の養成・確保
- 3 医療機関の積極的な情報開示
- 4 夜間や休日における救急医療体制の整備
- 5 医師不足とされる小児、産科医療等体制の整備
- 6 患者紹介など、診療所と病院、病院どうしの連携の推進
- 7 リハビリを行える施設や介護施設等との連携
- 8 在宅医療を支えるしくみの充実
- 9 がん治療の強化
- 10 難病対応等、最先端の医療の強化
- 11 生活習慣病の治療の充実
- 12 その他( )